

33
516

北海道輸出昆布調査報告書

支那輸出羊毛調査報告書

明治三十八年

北海道輸出昆布調査報告書目次

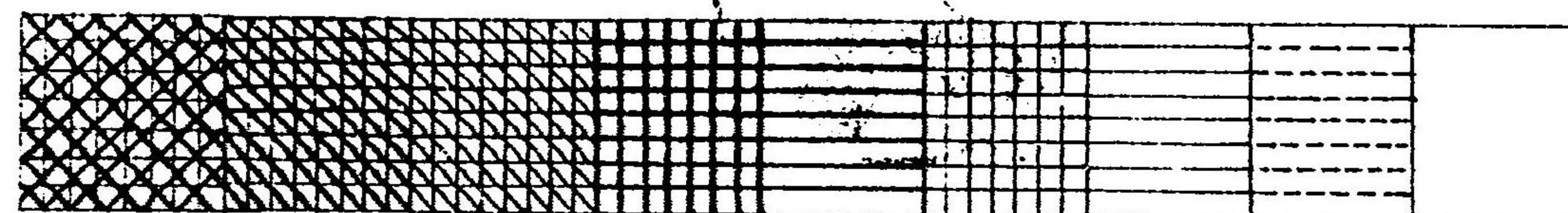
緒言	四
第一章 沿革	附リ名稱
第一節 採取ノ沿革	四
第二節 貿易ノ沿革	八
第三節 名稱	一八
第二章 昆布ノ産出	一九
第一節 産地及産額	一九
第二節 種類及性質	二五
第三節 採取	三一
第三章 輸出昆布	三四
第一節 種類及品位	三四
第二節 製造及荷造	三八
第四章 生産ノ狀況	四六

明治
39 8 9
丙午

第一節	生產者並ニ海產乾場	四六
第二節	資金及其ノ融通方法	四九
第五章	集 散	五一
第一節	輸 入	五二
第二節	輸 出	五三
第三節	函館港貿易ノ現況	五四
第六章	賣 買	五七
第一節	商人ノ種類	五七
第二節	取引ノ方法	六一
第三節	價 格	六四
第七章	賣買補助機關	六九
第一節	運 輸	七〇
第二章	保 險	七三
第三節	倉 庫	七六
第四節	銀 行	七九

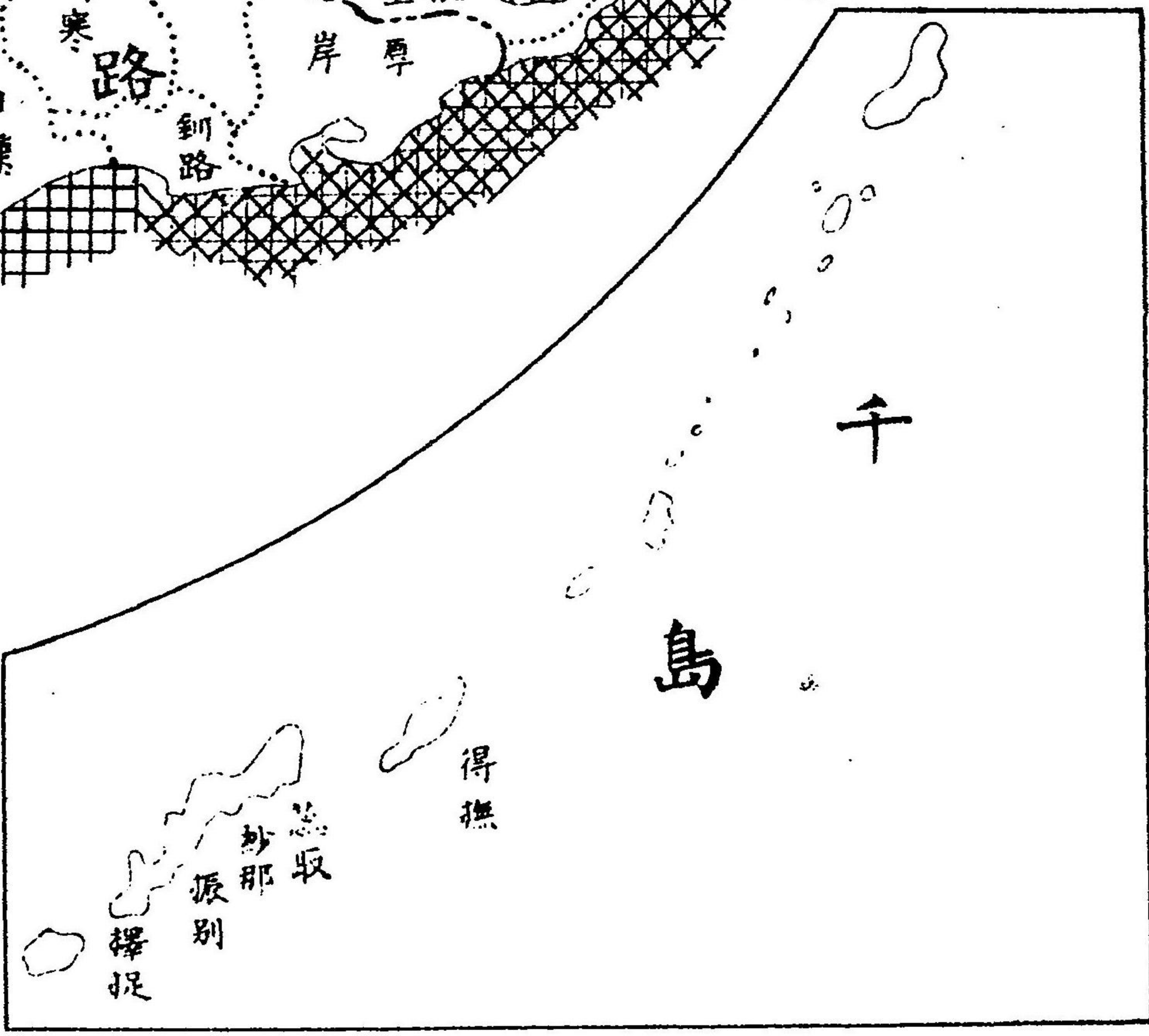
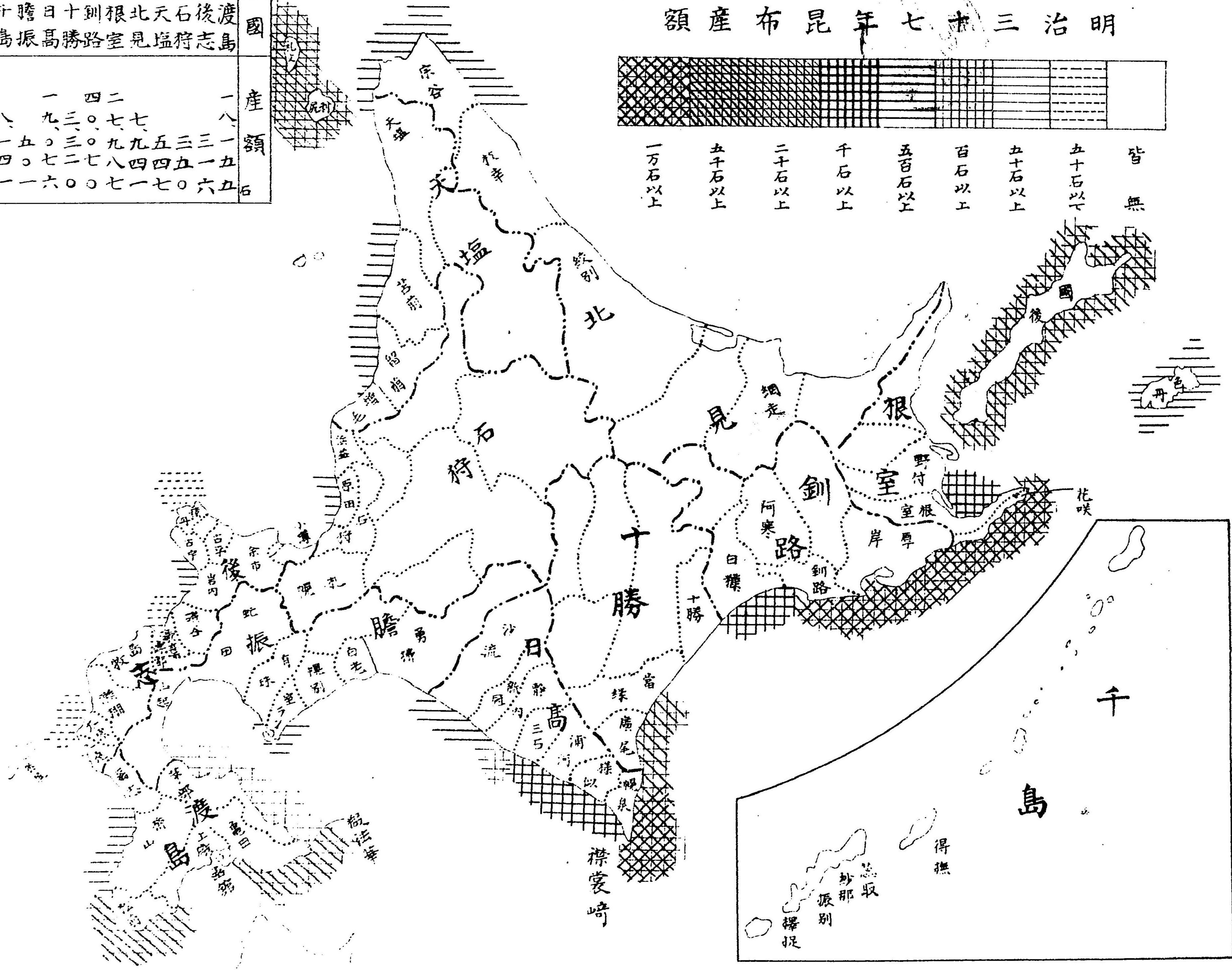
第八章	需要地ノ概況	八三
第一節	需要地	八三
第二節	集 散	八六
第三節	用途及嗜好	八九
第四節	外國品販路ノ狀況	九一
第九章	結 論	九三
附 錄		
	函館物産商組合規約	一
	函館物産商組合細則	一一
	函館物産商組合員人名簿	一九

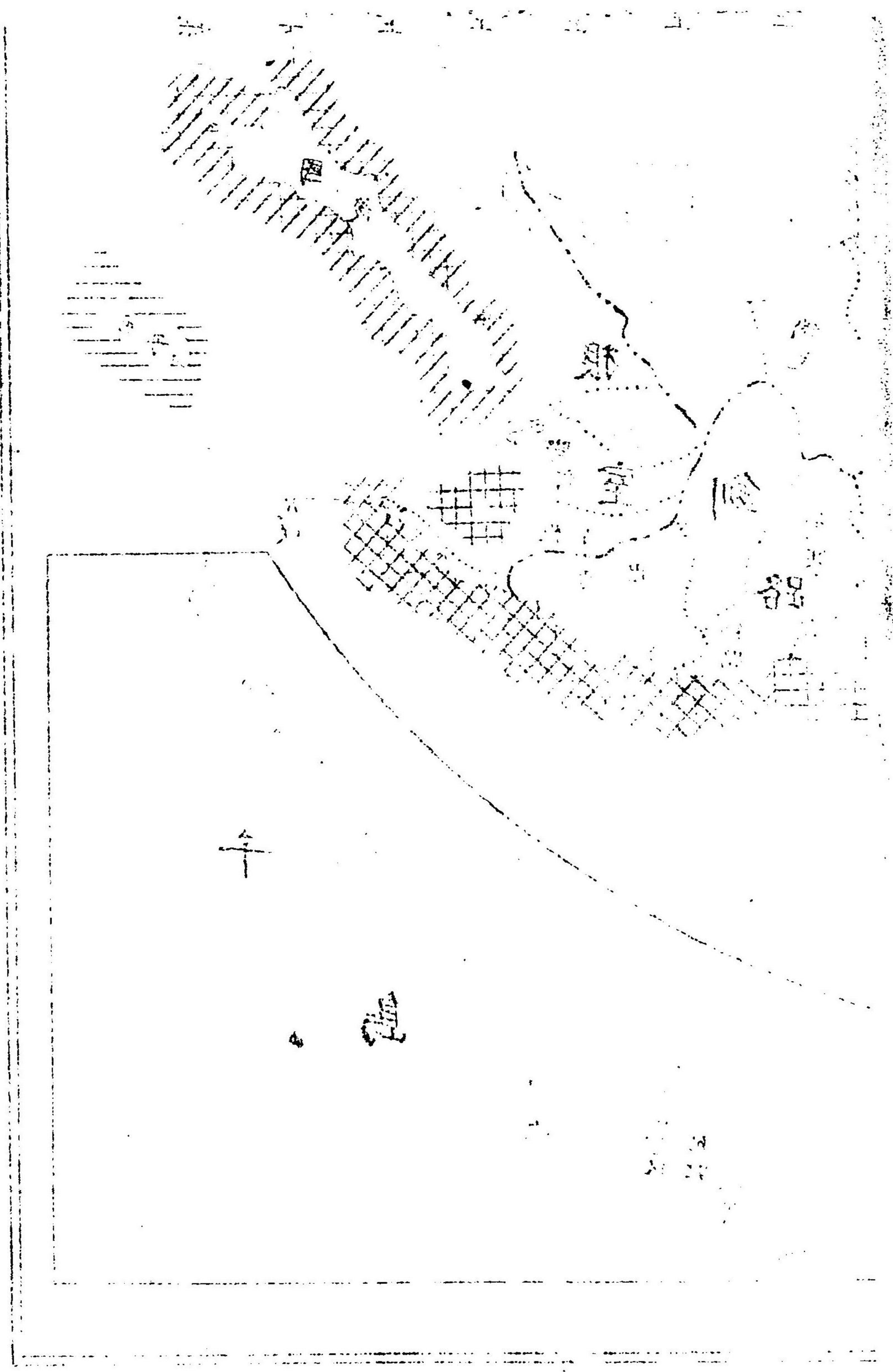
明 治 三 十 七 年 昆 布 產 額



皆無
五十石以上
五十石以上
百石以上
五百石以上
千石以上
二千石以上
五千石以上
一万石以上

合計	十島	勝島	日勝	十勝	劍路	根室	北見	天塩	後志	渡島
一 二 六 四 一 三	一 九 四 〇 七 一	四 三 〇 二 七 〇	二 七 〇 九 八 七	七 九 四 一 七 〇	七 九 四 一 七 〇	三 五 四 一 七 〇	三 五 四 一 七 〇	一 八 一 五 九 六	一 八 一 五 九 六	一 八 一 五 九 六
石										石





北海道輸出昆布調査報告

本科第三年生 田邊畏三男

緒言

時世ノ推移ハ漸ク干戈ノ戰爭ヲ去ツテ平和ノソレニ入ラントス。今ヤ世界ノ各國ハ汲々トシテ殖産興業ノ發達ヲ圖リ、外國貿易ノ擴張ヲ企テ、日モ之レ足ラザルガ如キ有様ナリ。雖テ我國ノ狀態ヲ觀ルニ、維新當時僅ニ幾千萬圓内外ノ外國貿易ハ今ヤ總額八億圓ニ垂々トシ、此ノ三十七年間ニ大凡二十五倍ノ増加ヲ來タセリ、而シテ其ノ間常ニ秩序的發達ヲナシテサシタル退歩ノ跡ヲ遺サズト雖、之ヲ輸出輸入ノ關係ヨリ觀ル時ハ明治二十九年以來常ニ輸入超過シ、九年間ニ約三億千萬圓ノ逆勢ヲ受ケ餘リ好マシカラザル現象ヲ呈セリ、之レ固ヨリ戰後經營ノ如キ免ルベカラザル影響ノ爲ナランモ亦本邦輸出品ノ發達比較的遅々タルニ座セズンバアルベカラズ。於是吾人ハ一方ニ於テハ大ニ生産業ノ發達ヲ助長スルト同時ニ、他方ニ於テハ猶一層輸出ヲ奨励スルノ必要ヲ感ズル也。

我が輸出貿易品ハ其ノ重ナルモノ、ミニテモ其數中々ニ多シ。昆布ノ如キハ其ノ輸出額頓ニ激增シ、昨三十七年ノ輸出額百二十四萬六千余圓ニ達シ、輸出品中最高額ノモノト云フ能ハザルモ亦決シテ小額ノモノニ

33-516

屬セズ、殊ニ今後益々發達セントスル對清貿易品中其第六位ヲ占メ同國向海產物中其ノ第二位ニ居リ。誠ニ重要輸出品ト云フベキ也。

抑清國ハ其領域廣遠空濶ニシテ、支那本部ト滿州トヲ以テスルモ面積優ニ歐洲ノ一半ニ當リ其人口亦三億五千萬アリ。若シ夫レ之ニ蒙古ト西藏トヲ加ヘナバ其廣袤四百二十餘萬方哩其人口四億ノ上ニ出デントス。而シテ海產物ハ實ニ彼等ノ日用必需品ノ一ニシテ、彼ノ國亦之ヲ産セザルニアラザルモ沿岸線短ク人口充實セラルタメ到底其ノ需要ノ一斑ヲダモ充タスニ足ラザレバ、其殆ンド全部ハ之ヲ外國ニ仰ガザルベカラザル有様ナリトス。反之我國ハ六大島ト無數ノ島嶼トヨリ成リ、地形細長ニシテ北ハ寒帶ノ千島ニ起リ南ハ熱帶ノ臺灣ニ延ビ、環ラスニ渺茫タル海ヲ以テシ、而モ其沿岸線ノ逶迤トシテ長キコト世界ニ其比アルヲ見ズ。去レバ水產物ノ種類モ亦甚ダ多キト共ニ之レガ棲息繁茂ノ區域頗ル廣クシテ、漁業到ル處ニ盛ナラザルハナシ。加之、其ノ位置タルヤ海產物需要ノ潜力頗ル大ナル清國トハ一葦帶水ヲ隔ツルノミナレバ水產國トシテ最モ好キ資格ヲ備ヘ、清國ニ對スル海產物供給地トシテ最モ多幸ノ地位ニ在ルナリ。我が水產物ノ前途多量ナリト云フベキカナ。

清國向水產物ノ重ナルモノハ鰯、昆布、寒天、海參、乾蝦、乾鮑、鱈等ニシテ、其輸出價格割合ハ左ノ如シ。(清國及香港ヘノ輸出額)

錫

三十七年	二、六二一、四一四
三十六年	二、〇六五、八七五

昆布	一、〇二五、三六二	一、二一〇、〇〇九
寒天	五八八、八二六	六七四、二六五
海參	四四三、四一七	四四一、四三四

右ノ表ニヨリテ明カナルガ如ク、我國昆布ハ實ニ對清水產貿易品中ノ巨擘ニシテ、之ヲ十年前(二十七年)ノ六十萬七千圓ニ比スレバ實ニ貳倍半ノ増加ヲ示シ、而カモ日露事變ノタメ他輸出品ハサナキダニ不振ノ折柄一層衰退シタルニモ不拘輸出昆布ノミハ少シモ時局ノ影響ヲ受ケズ、且北清ニ於ケル露領產昆布ノ販路杜絶セシガ爲メ却テ其ノ販路ヲ擴張スル事ヲ得、本年上半期ニ於テ既ニ四十六萬二千七百五十圓ヲ輸出シタリ。之ヲ昨三十七年ノ同期ニ比スルニ八萬二千七百九十圓ノ増加ニシテ頗ル盛況ヲ極メ、本年ノ初メニ當リテハ北陸諸地方ノ漁業者ガ他ノ内地向漁業ヲ廢シテ昆布ノ採取ヲ企テタルモノ少カラザル有様也。今試ニ北海道ニ於ケル昆布採取業ノ狀況ヲ調査スルニ戶數ニ於テ千三百二十戶、人口ニ於テ八千七百九十九人ノ増加ヲシタルモノニシテ、之レヲ以テモ其ノ大勢ヲ察スル事ヲ得ル也。而シテ同品ハ其產地殆ンド全ク北海道ニ限ラレ他品ノ如ク全國諸所ニ散在スルモノニアラズ。隨テ其集散モ諸所ニ於テ行ハレズ、彼ノ港灣トシテ最モ良好ナル地方ヲ有シ、且昆布ノ產地ニ接近シ、之レト好ク舟運ノ利便ヲ有シ、實ニ咽喉要衝ノ地位ヲ占ムル函館港其ノ大部分ヲ司ル也。

右述ルガ如ク昆布ハ我輸出品中重要ナルモノニシテ對清貿易品中第六位ヲ占メ、同國向海產物ノミニツキテハ實ニ第二位ニ居ルモノ也。サレバ漁者ノ之レガ採取ニ從事スルモノ專業二萬三千三百五十九人、兼業一

萬七百三十人ニ上リ、商賈ノ之レガ取引ニ從事スルモノ亦頗ル多ク、隨テ之レガ生産ノ消長貿易ノ盛衰ハ我ガ經濟上至大ノ影響ヲ及ボスモノナリトス。

以是北海道ニ於ケル昆布生産ノ有様、函館港ニ於ケル取引上ノ慣習等ヲ調査シ、是非ヲ判ジ、其ノ善後策ヲ講ズルモ亦無用ノ業ニアラザルベシ。是ニ於テカ余淺學ヲ願ミズ本調査ノ任ニ當リ、次ニ其結果ヲ記述セント欲ス。乍然余ノ菲才ナル、觀察其ノ當ヲ失シテ或ハ誤ヲ傳フルナキヲ保セズ、識者ノ叱正ヲ待ツモノ也。

第一章 沿革 附リ名稱

第一節 採取ノ沿革

昆布ノ產地ハ北方ニ偏在シ文化ノ普及晚カリシヲ以テ、其採取ハ如何ナル時ニ起原シ、古代如何ナル狀況ニアリシカヲ知ルニ由ナシト雖、史上紀元千二百七十四年元正天皇ノ靈龜元年ニ之ヲ進貢セシ事ヲ記スヲ以テ、當時既ニ採取ノ法行ハレテ廣ク賞用セラレシヤ明ナリ。尤當時ニアリテハ蝦夷人ガ唯ダ此ヲ自家ノ食料ニ供スルニ止マリシナルベキヲ以テ、其採取法ノ原始的ニシテ產出高ノ僅少ナリシコト疑フベカラズ。其後内地人ノ渡道スルモノ漸ク生ジ、寛文中ニハ内地漁民日高ニ移住シテ之ガ採取ニ從事シ漸次其器具方法等ニ改良ヲ施シ遂ニ寛保元年ニハ昆布百萬斤(四千石)ヲ長崎商賈ニ賣却セシ程ノ盛大ニ赴キ、一ツノ名産タルノ端緒ヲ開キヌ。其後安政年中函館開港セラレテ輸出ノ便ヲ得テヨリ相場暴騰シ、隨テ各採取ニ力メシタメ、

其産額増進シタリシガ次デ文化年中現今産額ニ於テ最大ナル花咲、厚岸兩郡ノ採取開始セラレテヨリ俄然其額ヲ激増スルニ至レリ。

舊記ニ天保年間ノ昆布產出高ヲ載スルヲ見ルニ左ノ如シ。

函館及茅部一圓	四千石
沙流、新冠、靜内	千五百石
浦河	千四百石
十勝	二千石
幌泉	四千五百石
幌別	二千石
三石	千五百石
樣似	六百石
釧路	二千五百石

右ノ外猶西部地方ニ於テ所謂天鹽昆布等ヲ産シ、カドモ此等ハ當時漁夫ノ自家用ニ供スル爲ニノミ採取セラレテ其額僅少ナリシナルベク、當時ニ於ケル本道昆布ノ産額及產地ハ畧々前記ノ表ニヨリ察知シ得ベキガ如シ而シテ幌泉郡及函館茅部一圓ガ斯ク多額ヲ産シハ蓋シ前者ハ彼ノ高田屋嘉兵衛、同金兵衛及島屋佐兵衛等ノ請負場ニシテ皆力ヲ盡シテ經營シタルガ爲ニシテ、後者ハ舊幕時代長崎俵物方ニ納ムル昆布ノ產出地ニシ

ヲ嘉兵衛金兵衛等此俵物ノ獎勵ニ盡力シタルガ故ナリ。

又文久三年ニ於ケル東蝦夷ノ昆布産出高ハ左ノ如シト云フ。

山越内	六五、五七〇	浦河	二、六九三、三〇〇
有珠	三〇〇、〇二〇	様似	二、〇七三、四〇〇
繪鞆	二八一、三〇〇	幌泉	一三、〇〇五、三九〇
白老	七四、九二三	十勝	四、二六五、六〇〇
勇拂	二、五五〇	釧路	五、五六三、八八〇
沙流	五〇一、九〇〇	厚岸	七、六五三、三〇〇
新冠	一八、一二五	國後	二九五、三〇〇
静内	一、八七〇、二二〇	擇捉	八、四三八
三石	一、二六一、五八〇	合計	四〇、二二一、一九一

右兩表ニ由リ之ヲ觀ル時ハ現今ノ日高國ハ當時昆布ノ產地トシテ如何ニ重要ナル位置ニアリシカ知ルニ難カラザル也。

如斯日高國一帶ノ沿岸ハ其産額多大ナルニ不拘新冠ノミハ甚少シト雖、此以前ニ於テハヤハリ他所ト同ク多大ノ收穫アリシモノニシテ、其後種々ノ原因ニヨリ漸次衰頹シシモノナリト云フ。然ルニ當時松前ノ漁業家ニ山田文右衛門トイフモノアリ、未ダ植物ニ關スル智識進歩セザル時ナルニ、偶然ニモ投石繁殖法ヲ發案シ、

文久三年ヨリ明治元年ニ至ル迄前後五回ニ亘リ一抱大ノ石約二十余萬個ヲ自己ノ請負場ナル勝振國勇拂郡ヨリ日高國新冠郡ニ至ル迄ノ海中諸所ニ投入シ繁殖ヲ計リシカバ、漸次ニ增收シ、明治元年ニハ七百余石ヲ收得スルニ至リシト云フ。文右衛門ノ功勞大ナリト謂フベシ。

舊幕時代ニハ漁場若クハ海面使用權等ノ制度タルヤ極メテ不備、唯々之ヲ放任シテ特ニ何等ノ法規ヲ設クルコトナカリキ。僅カニ請負人ナルモノアリテ幕府ニ年貢ヲ納メ、各地ニ漁業ノ場所區域ヲ設ケ漁場ト稱シ、漁撈ノ權利ヲ得、互ニ警戒シテ相侵スコトナカラシメ、實際採取業ヲ營マントスルモノハ請負人ノ承諾ヲ經テ之ヲ爲シタルモノ也。

明治維新ト共ニ幕府直轄ノ下ニ行ハレシ請負ノ制度廢セラレ政府ハ此處ニ開拓使ヲ置キ、或ハ海藻ノ繁殖有害物ノ驅除、或ハ採取ノ器具及方法、乾燥結束等ノ改善ヲ計リ、斯業ノ爲メニ偏ヘニ之ヲ教導保護シタリ。蓋當時ニアリテハ百事未開ノ域ニ屬シ、充分ナル獎勵保護ヲ加フルニ非ザレバ生産者ノ基礎牢固ナル能ハズ動モスレバ困難ニ陥リ拓殖事業ニ不尠ル障碍ヲ及ボスモノアリシガ爲ニシテ、明治八年函館及根室兩支廳ガ各管下ニ布達シ、一束一函毎ニ木箋ヲ著ケ製造人ノ姓名ヲ記載セシメ、以テ製造ノ杜撰品位ノ不良ナルヲ防ギ、又乾燥昆布ノ長サ量目ヲ均シク四尺八貫目トシテ結束シ、帶昆布ハ十二三本ヲ限リトシ幅廣キモノヲ用井シムル等荷造ノ改善ヲ命ジタルガ如キ、同九年ニ昆布ノ安全ナル銷流ヲ圖リテ生産者ノ基礎ヲ固クセンガ爲、内務大藏兩省ト協議シ、生産者ニ資本ヲ貸與シ收穫シタル昆布ヲ以テ内務省勸商局ニ償還スルノ途ヲ開キ、其賣買輸出ハ同局用達廣業商會ヲシテ之ヲ取扱ハシメタルガ如キ、又十一年ヨリ十二年ニ亘リ、函館支

廳ニ於テ刻昆布製造ヲ開始シ以テ從來販賣ノ途ナク多クハ廢棄ニ付シタル定尺未滿ノ屑昆布ヲ買收シ且之ヲ利用スルノ途ヲ作リテ以テ窮民子女ニ業ヲ興ヘタルガ如キ、其外十一年茅部郡尾札部村海面約四百坪ヲ區劃シ唯其域内ノミ有害藻ごもヲ拔去リ、翌年域内ニ繁茂セル昆布ヲ域外ノモノニ比較シ其品位佳良ニシテ其數量凡ソ后者ノ三十倍ノ多キヲ收メ得ラル、事ヲ確メ、以テ各地ニごもノ芟除ヲ勵行セルガ如キ、同十五年十六年ニ昆布製造取締規則ヲ設ケ粗製濫造ヲ戒飭シ、取締レルガ如キ、其例枚舉ニ遑アラズ。爾來北海道ニ於ケル昆布ノ産額ハ次第ニ増加シ來ルト共ニ其品位モ亦大ニ改良セラレ、今ヤ一方ニ於テハ採取者ノ續々移住シ來リテ之ニ從事スルアリ、他方ニ於テハ一時支那市場ニ於テ失ヒタル聲價ヲ挽回シ彼國ニ於ケル需要ヲ増加スルアリ、加之運輸交通ノ便愈々開クルニ及ビテ其産額益々多キヲ加フルニ至リタリ。而シテ其産額ハ或ハ天候ノ順否、對清貿易上ノ形勢ニ因リ、時々増減アリト雖、之ヲ大勢ノ上ヨリ觀ルトキハ常ニ健全ナル發達ヲ爲シツ、アルモノナリトス。

第二節 貿易ノ沿革

昆布輸出ノ起原ハ今ヨリ二百三十年前延寶年中長崎會所ニ於テ其少量ヲ支那人ニ賣渡シタルニアリト云フ。然レトモ實際ニ其輸出ヲ始ムルニ至リシハ、元祿十年頃、當時本邦人ガ清國ノ商品ヲ高價ニ買入レ爲ニ貿易ノ平均ヲ失ヒ、金銀ノ流出夥ク、物價ノ騰貴ヲ來シタル時之ガ防遏ノ策トシテ、一方ニ於テハ、此等清國商品ニ制限ヲ加ヘ、他方ニ於テハ俵物諸色ヲ以テ之ガ代替トシテ其輸出ヲ獎勵シタリシ以來ノ事ニシテ、爾後漸次

ニ其輸出額ヲ増加シタルモノ也。而シテ當時ノ輸出昆布ハ南部及函館近郡ノ産ニシテ、現今ノ花折昆布兀揃昆布ノ類ナリキ。又其貿易ハ皆長崎會所ノ手ヲ經テ行ハレシモノニシテ、其仕入ハ前後二ツノ方法ニ依リタルモノ、如シ。即チ初メ俵物役所ガ長崎會所ニ附屬シ俵物會所ト稱セシ時代ニハ、函館ヲ初トシテ各地ニ請負人ヲ置キ以テ俵物諸色ノ買入ニ從事セシメ、延享以來ハ俵物一手請方ナルモノヲ長崎町人十一名ニ命ジ其買入ヲ爲サシメタリ。然ルニ其後天明五年ニハ之ヲ廢シテ會所直買トナシ、請方役所ヲ設ケ年々其役員(俵物方ト稱セリ)ヲ函館ニ派シ昆布ヲ買取り、之ヲ長崎ニ輸送セシメ、同地ニテ清國商買ヘ賣却セシモノ也。

刻昆布ノ輸出セラレタル起原ハ、文化十年(今ヲ去ル九十三年)頃長崎ニ於テ清商ニ試賣シタルニアリト云フ。後販路次第ニ擴張シ、嘉永四年ニハ函館ニ於テ之ガ製造ヲ開始シ漸次輸出ヲ増加シ、現時ノ氣運ニ進ミタルモノ也。

安政六年横濱、長崎、函館ノ三地開港セラレ、人民ハ直接ニ貿易ヲ爲ス事ヲ得ルニ至リテヨリ、長崎ノ商買ハ下ノ關ニ於テ函館ヨリ積來レル昆布ヲ買取り之ヲ長崎ニ轉送シテ清商ニ賣却スル等貿易ノ氣運一變シ、次テ清商ノ直接ニ函館ニ來ルニ及ビテ昆布ハ多ク此處ニテ取引セラレヌ。然ルニ慶應三年ニハ清商成記號本港ニ店舗ヲ開キ翌明治元年ヨリ專ラ昆布買取りニ從事シシカバ相場騰貴シ、輸出高増加シ、未曾有ノ盛況ヲ呈シタリシカ、四年頃ニハ供給ハ需要ニ超過シテ價格暴落シ、八百五十圓ヨリ五百圓、四百圓トナリシヲ以テ、五年開拓使ハ其用達榎本六兵衛ニ資本ヲ貸與シテ開通社ナル商社ヲ上海ニ設ケ其支店ヲ漢口ニ開カシメ、專ラ本道水産物ノ直輸販賣ヲ圖リシガ、産額ノ増加ハ猶止マズ、價格益々降下シ、上海市場亦物品堆積シ内外

共ニ商況萎靡シ、七八兩年ニハ其産額五六年ニ比シテ少ナク、輸出高モ亦甚ダ減ズルニ至リテ一時商況恢復シタル事アリシモ、不振ノ大勢ハ變ル事ナク九年開通社閉業ノ止ムヲ得ザルニ至レリ。

右ノ狀勢ニシテ自然ニ放任センカ、大ニ憂フベキ結果ヲ醸スニ至ルベキガ故ニ、時ノ有志相計リ、明治九年七月廣業商會ナルモノヲ設立シタリ。其目的トスルトコロハ即チ直輸出、商況恢復ニアリシガ、政府モ亦大ニ之ヲ保護シテ勸商局ト開拓使トノ間ニ特別ノ約定ヲ結ビ、十月ニハ函館ニ分店ヲ設置シ、開拓使收税ノ昆布(租税トシテ昆布ヲ徵シシ也)ハ盡ク勸商局ノ手ヲ經テ廣業商會ニ引渡シ、同商會ヲシテ清國へ直輸出ヲ爲スコトニ從ハシメタリ。斯シテ廣業商會ハ專心銳意之ガ販賣ニ勉ムルト同時ニ益々製品ノ改良ニ焦慮シ、カバ久カラズシテ商況大ニ良好トナリ、價格亦遂ニ常態ニ復スル所アリタリ。然ルニ其結果トシテ輸出俄然増加シテ上海市場漸ク供給過度ノ兆候ヲ現シ、次デ大ニ貨物ノ滯積ヲ來シ、再ビ明治六七年ノ衰況ニ陥ラントスルノ形勢ヲ示セリ。時ニ廣業商會ハ能ク内外ノ店舗ニ八萬九千石餘ノ昆布ヲ貯藏シテ漫ニ之ヲ投賣セズ、偏ニ價格ノ維持ニ力メタリト雖、悲ムベシ一方ニ於テハ生産額ノ増進ニツレテ粗製濫造行ハレ、他方ニ於テハ上海市場連年ノ澁滯品益々其堆積ヲ加ヘ今ヤ如何トモスル能ハズ。カクテ其販路充塞シ其相場下落シテ次第ニ困難ヲ加ヘシカバ商會ノ事業亦萎縮シテ振ハズ終ニ十九年閉鎖スルニ及ンデ、幾多ノ生産人ハ低利ノ資本ヲ得ルノ道ヲ失ヒ、相場ヲ維持スルノ機關ニ離レ、商權殆ド清商ノ手ニ歸シ、コ、ニ競争再ビ行ハレ價格益々暴落シ其底止スル所ヲ知ラザラントスルノ悲況ヲ呈スルニ至レリ。

於是、北海道廳ハ明治廿年ノ秋、官吏及當業者ヲ清國ニ派シ該地ノ實況ヲ調査セシメシニ彼我ノ價格ニ著

キ相違アリテ、中間ニ立テル在留清商獨リ利益ヲ壟斷スル事ヲ發見シシカバ、乃チ新タニ組合ヲ設ケテ内國製
品ノ改良ヲ勵ムト同時ニ一會社ヲ創設シテ該組合ト一致シ、清商ノ手ヲ藉ラテ直接ニ清國ニ輸出シ、且販賣
ノ弊ヲ防ギテ其價格ヲ高メ收得ヲ多大ナラシメント欲シ、翌廿一年十月生産者ヲ札幌ニ召集シ全員ノ一致贊
成ヲ得テ、一方ニ於テハ翌年五月各產地總代人ヲ札幌ニ會シ昆布營業組合聯合規約ヲ定メ、他方ニ於テハ同年
六月昆布直輸出ヲ目的トスル日本昆布會社ナルモノヲ本港ニ創立セシメタリ。而シテ會社ハ聯合組合ト契約條
項ヲ締結シ、次デ上海乃東京ニ出張所ヲ設立シ、同年十月ニハ特許ヲ得テ不開港ナル釧路ヨリ直輸出ヲ爲シ、
着々業務ヲ進メタレバ、爾來市場ノ面目ハ一變シ内外ノ商權全ク會社ニ歸シ、價格輸出高共ニ大ニ佳況ニ進
ミタリ。然レモ廿五六年ノ産額ノ増進ニツレテ亦輸出過剩トナリ爰ニ再ビ貨物ノ滯積ヲ見ルニ至リス。之ニ
加フルニ同業者ニシテ彼ノ聯合組合ニ加盟セザルモノ反テ種々ノ奇利ヲ博スルコトアリ、殊ニ彼等ハ、一手
販賣直輸出ニ因リ大打撃ヲ蒙リタル清商ガ動モスレバ則チ聯合組合及昆布會社ヲ誹謗シ陰ニ陽ニ之ガ傾挫失
敗ヲ希ヒ、一時ノ損失ハ之ヲ顧ズ不加盟者ノ昆布ハ粗悪ナルニ不拘高價ニ買入レ、會社ニ先チテ之ヲ海外ニ
投賣シ、以テ其相場ヲ攪亂セントスルノ意アルヲ知リ、乘ジテ以テ私利ヲ營メリ。加盟者中ニモ亦心ヲ動
シ、契約ニ違ヒ、敢テ不徳ノ罪ヲ犯スモノアリシカドモ凡ソ斯業ノ生産者ハ七ヶ國十七郡二百餘里ノ海岸ニ散
在セルガ故ニ到底之ガ統一ヲ完ウスルコト能ハズ。カクテ會社ノ財政ハ貸與資本ノ固定ト昆布ノ不捌トニ因
リテ漸ク窮乏ヲ告グルニ至リス。此時ニ當リテ日清戰爭開始セラレ、輸出之ガ爲ニ減額シタルニ拘ハラズ、其
生産者ハ前年來ノ勢ヲ以テ採取ニ從事シシガ爲、遂ニ廿九年ニ垂リテハ資本金益々固定シ、十數萬石ノ賣殘リ

昆布ヲ有シ、會社ト聯合組合ト賣買契約資本貸與ノ約ヲ結ブ能ハズ、其結果組合ハ解散シ、會社モ亦悲境ニ陥リカノ席業商會ノ悲劇ヲ再演セントスルニ至リテハ昆布業ノ有様實ニ明治廿一年以前ニ退歩シヌ。サレバ悲ムベシ、會社ハ卅一年全ク輸出ヲ廢止シ、卅七年ニ至リテ閉鎖セリ。然レモ其昆布貿易ノ商權ヲ一旦清商ノ手ヨリ奪取シ、萎靡セル我昆布貿易ヲ振興シタリシ功遂ニ沒スベカラザル也。

明治廿七八年ノ日清戰爭ハ北清地方ニ於テノミ行ハレシヲ以テ、該地方トノ貿易ハ不少打擊ヲ受ケタレモ、昆布ノ如キ重ニ南清地方ト關係セルモノハ然ラズ。唯本邦在留清商ガ一時店舗ヲ閉ヂテ歸國セシガ爲ニ居留地取引一時中絶ノ姿ヲ呈シタリシニ過ギザル也。乍然此狀態ニシテ永續シタランニハ、此取引中絶ハ非常ナル打擊ナリシナランモ、幸ニ一時的ノ現象ナリシカバ其影響割合ニ甚カラズシテ止ミキ。加之戰爭前ニ於ケル見越シ輸出ハ其惡影響ヲ弱ムルニ與リテ力アリシガ故ニ、戰爭ノ終結ト共ニ清商再ビ歸來シ舊ニ倍シテ其業務ヲ擴張シ、内商モ戰勝ノ勢ニ乗ジテ奮勵シタリシ結果、商況次第ニ復興シ輸出額増進ノ傾向ヲ呈セリ。

明治卅年ニ本邦幣制ノ改革アリシガ、コレガ爲メ清國宛爲替相場ノ從來上海參着七十三兩ニ畧一定セルモノ俄ニ騰貴シテ七十四、七十七、八十、八十五、八十七兩トナリ、我對清貿易ハ非常ナル不利益ヲ蒙リ一時其取引中絶スルニ至レリ。幸ニシテ其暴騰ハ久カラズシテ止ミ取引亦舊ノ如ク開始セラル、ニ至リシト雖、カノ幣制改革以後ハ清國宛爲替相場ノ變動常ナク、日清貿易ハ爲ニ頗ル不安定ノ地位ニ立ツニ至レリ。然レモ同年ハ昆布ノ産額非常ニ多カリシカバ如此取引中絶モ該品ノ輸出額ヲ減少セシムルニ至ラズ却テ未曾有ノ多額ヲ示セリ。

明治卅二年七月十七日ヨリ、斯業多年ノ宿望タリシ昆布輸出稅廢止實施セララル、ニ至レリ。而シテ其ガ如何ナル影響ヲ昆布貿易ニ及ボシシカヲ見ルニ、該貿易ハ種々ナル原因ニ因リ影響ヲ蒙リ到底精シク其因果ノ系統ヲ辿ル能ハズト雖、理論上云ヘルガ如ク其レガタメニ取引ヲ圓滑ナラシメタルハ事實ナリ。然レモ其ガ貿易上特ニ著大ノ影響ヲ現ハスニ至ラズ時ニ正反對ノ現象ヲサヘ呈シシハ之レ金融ノ關係、需給ノ權衡等種々ナル事情錯綜シテ貿易上順逆ノ狀態ヲ呈シ、カクテ原價ニ對スル五分以内ノ免稅額ノ効果ヲ埋沒シタルヲ以テ也。乍然七月以降價格ノ佳況ニ赴キタルガ如キハ全ク此輸出稅廢止ノ與リテ力アリタルモノ也。

明治卅三年五月北清ニ義和團ノ暴動アリキ、南清地方ニ於テハ其レニ影響セララル、コト幸ニ北清ノ如キモノナカリシガ、七月ニ至リ厦門廣東地方ニ暴徒起リ大舉北清ニ應ズルノ形勢ナリシカバ、上海ヨリ在留清商ニ仕入ノ中止ヲ報ズルガ如キコトアリテ爲ニ常港市場ノ取引攪亂セララル、コト不尠、商況轉々寂寥ヲ覺ユス。而シテ唯ダ内商ノ低價ヲ以テ買取リ之ヲ大阪ニ輸送スルモノトノ取引稀ニ之アルノミ試ニ六七八月ノ各輸出數量ヲ前年同季ニ對照スルニ左ノ如シ。

三 十 三 年		三 十 二 年	
數	價	數	價
六 月	七八、六一五	一、三三八	一、一四〇
七 月	一九、二〇〇	三三四	三九、九一八
八 月	二五〇、〇九七	四、九六一	三九、三〇六

以テ當時事變ノ貿易ニ及セル影響ノ頗大ナルモノアリシヲ知ル可シ。然ルニ八月中旬北京城ノ陥落ヲ見ルニ及ビテ大勢既ニ定マリシカバ、清商モ稍安堵シ、由テ取引ヲ開始スルニ至リヌ。爾來逐日靜穩ニ復スルニ從ヒ久ク貿易ノ杜絶シタリシ反動トシテ九月以來ハ市場頓ニ活氣ヲ呈シ來リ、價格ハ奔騰シ輸出ハ俄然増額シ、從來沃度ノ原料ニ充テタル下等品ニ至ル迄之ヲ長切ニ製シテ輸出スルニ至レリ。サレバ之ヲ通觀スル時ハ北清事變ノ影響モ左迄大ナラザリシ也。

明治卅三年九月七日清國輸入税ノ變改アリキ。先是明治廿三年四月同ク之レガ變改アリシモ、其ハ露領浦鹽、並ニ沿海州産昆布ニ對スル輸入税ガ日本産ニ對スルモノニ比シテ更ニ低キガ爲、本邦産昆布ハ痛ク其影響ヲ蒙リ競争上不便不尠トテ、乃チ日本産ノ品質劣等ノモノ（例セバ上海ニ輸入スルモノハ百斤ニ付キ銀壹両五十錢以下ノ價格ノモノ）ニ限り露領産同様ノ取扱ニセラレタルモノニシテ、而モ其標準價格ハ他港ニ於テ必ズシモ同様ニ取扱ハル、モノニアラザリシカバ、貿易上サシタル効果アラザリキ。

第二ノ此ノ變更ハ北清事變ノ終結ニ際シテ現ハレタルモノニシテ其稅率ハ左表ノ如シ。凡ソ此ノ改正稅率ハ我輸出貿易ニツイテ利益アルコト勿論ナリト雖、之ヲ當時我國ノ意見トシテ提出シタル所ノ稅率ト對照スレバ未ダ必ズシモ遺憾ナシト云フベカラズ。蓋此提出案ハ我委員ガ諸種ノ材料ニ由リ實業家ノ意見ニ徴シテ編成シ、カクテ我輸出貿易ニ障礙ナキモノト認メタルモノナレバ也、次ニ舊稅率、提出案稅率、並ニ議定新稅率ヲ比較シテ示サン。

葉 昆 布 一 等 品	舊 稅 率	提出案稅率	新 稅 率
刻 昆 布 二 等 品	〇〇、一五〇〇	〇〇、〇〇八六	〇〇、一〇〇〇
布 品	稅目中ニ存セズ	〇〇、〇〇六三	〇〇、一〇〇〇
		〇〇、一〇〇二	〇〇、一五〇〇

由之觀是新稅率ハ我輸出貿易ニ障ナキモノト認メ得ザルモ、兎ニ角ニ舊稅率ニ比シ我ニ利益アルコト論ヲ俟タザル也。

明治卅七年二月ニハ日露戰爭起レリ。凡ソ戰爭ガ産業界ニ如何ナル影響ヲ及ボスカハ吾人曩ニ日清戰爭北清事變ノ項ニ述ベシガ、日露戰爭ハ實ニ前者ト多少其色様ヲ異スルノミナラズ且ハ現下ノ重要問題ナルヲ以テ之ニツキ記述スルモ亦無用ニアラザルベシ。此問題ノ發生ハ既ニ卅六年ノ初ニアリシト雖、其漸ク不穩ノ形勢ヲ呈シ産業界ニ影響ヲ與フルニ至リシハ蓋七月以降ニ屬ス。此間時局ノ運行遲々トシテ決セズ、爲ニ一般經濟界ハ其事業ニ對スル方針ヲ定ムルニ由ナク、生産力ノ發展ニ幾多好條件ヲ具有シシニ不拘不景氣ノ歎聲ハ到ル處ニ聞カレザルナク、清韓露貿易ハ殊ニ著キ打撃ヲ被リタル有様也。サレバ昆布貿易ノ如キ亦影響ヲ蒙ルベキニ似タリト雖、元來其取引地タル上海ハ日露問題ト深キ關係ヲ有スル北清ニ在ラザル事、其當時ニハ未ダ航路ノ不使ヲ來スニ至ラズ運賃ニ何等ノ變動ヲ受ケザリシ事、銀價騰貴爲替相場ノ順境ナリシ事等ノ爲、其實際上ニ於テハ差シタル影響ナキノミナラズ却テ好況ナルモノアリキ。左ニ此事實ヲ一層精確ニ證セン爲ニ三ヶ年間ノ下半期ニ於ケル該品輸出額月別表ヲ示ス

年	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月
卅四年 葉刻	三、七〇九、七四四	四、九〇四、一〇五	六、〇三二、七八七	六、〇五九、七一五	七、三六一、一七二	二、三八四、四九八
卅五年 葉刻	一、七六、七〇〇	二、一五、五〇〇	八、五五〇、〇〇〇	一、一九〇、五〇〇	一、五四四、〇〇〇	二、二〇八、五〇〇
卅六年 葉刻	三、〇九四、四六五	三、一五七、〇二九	三、〇六八、〇三一	七、六四六、三五八	六、四六二、三二二	二、四一四、四〇〇
卅四年 布	二、八六二、四六〇	三、一七八、七九三	二、五四六、七二九	五、九四二、三一二	三、五五九、四四五	一、五五三、二一七
卅五年 布	四、一、二〇〇	一、七四、一五〇	一、〇三〇、〇〇〇	一、〇一八、〇〇〇	二、八、九〇〇	二、八、四〇〇
卅六年 布	一、二七、〇五〇	二、六三、二五〇	一、六〇、二五〇	七、六、九〇〇	三、五、九〇〇	二、八、四〇〇

此表ニ據レバ前年同期ニ比シ殆ド加倍ニ近キ増加ヲナシタリ。特ニ此時期ハ昆布ノ産出季ナルト共ニ輸出季ナレバ、若シ貿易上障碍アルトキハ其影響顯著ナラザルベカラザルニ、事實如斯ハ爲替相場ノ順況ナリシ等ノ事與リテ力アリシト雖、又以テ該期間昆布貿易ガカノ時局問題ノ打撃ヲ受ケザリシヲ知ルベシ。然レトモ三十六年終末ヨリ三十七年一月ニ入り、時局ハ危機一髪ノ間ニ迫リ、商船ハ續々御用船ニ微發セラレ、人心恟々タルノ有様トナリテハ亦著シキ變化ヲ受ケザルヲ得ズ。即チ三十七年一月ニ於ケル輸出額ハ從來同期間管テ見ザル巨額ニ達セリ。次ニ毎年一月中ノ昆布輸出額ヲ示ス。

年	三十四年	三十五年	三十六年	三十七年
葉昆布 數量	一九七八、三三〇	二、九七六、九五七	三、九二四、〇四五	一〇、一四一、七二四
葉昆布 價格	四、一九一〇	四、六九九、四四	四、三、四〇〇	一、八六九、五二
刻昆布 數量	四、六七〇〇	四、八四〇〇	九、六〇〇〇	一、六六六、五〇
刻昆布 價格	一、五五一	一、四五二	二、七二八	六、三三九

即チ三十七年一月ノ輸出高ハ前年同期ニ比シ、三倍半以上ノ多額ニ達シ盛況也。之レ清商ガ開戦後ノ輸送杜絶ヲ豫想シ爲替相場ノ好調ニ乗ジテ見越輸出ヲナシタルガ故也。如此見越輸出ニヨリテ、爾後數ヶ月ニ亘リテ輸送スルモノヲ一時ニ輸出シタリシカバ、開戦後幾何モナク制海權我ニ歸シ輸送ノ困難排除セラレ上海直航船續々出發シタルニ拘ハラズ、唯殘レル手持品ヲ輸送シタルノミニテ更ニ新取引ナク、市況ハ益々寂寥ヲ感シ、價格ハ下落シ、七月來リ少シク輸出ヲ見タルモ、同月二十日露艦三隻津輕海峡ヲ通過シテ南下シ近海ヲ脅シ三十日再ビ浦鹽ニ歸港シタル迄近海航路ハ全ク杜塞ノ厄ヲ被リ、市場騒然トシテ取引更ニ行ハレズ、昆布ハ銷流ノ途ナク價格ハ下落シ茲ニ一打撃ヲ蒙レリ。爾後上海ニ於ケル好況ト、對清爲替相場ノ降格ト、北清直航船ノ特派アリタルトニ因リ漸次市況ヲ恢復シ、多少ノ波瀾ハ免レ得ザリシモ、概シテ戦争ノ影響ヲ受ケズシテ平穩圓滑ニ取引行ハレヌ。

次ニ本邦ヨリ海外ヘ輸出セシ昆布ノ累年價額數量ヲ示ス。
昆布累年輸出額

明治	葉昆布 數量 (斤)	布 價額 (圓)	刻昆布 數量 (斤)	布 價額 (圓)
元 年	七、九三八、三三〇	一、六三三、四四九	一、二四四、一三一	五〇、八五三
三 年	一、一七七八、二三五	四、五四六、三三八	二、〇九〇、一二一	八九、二〇七
五 年	一、三三九五、三五七	四、一五二、二二一	三、五四二、九二九	一一七、八六四
七 年	一、九六七七、五九八	二、九六四、九二二	一、四六八、四七八	三八、五五五

ニシテ殊ニ釧路根室等ノ如キ良品ヲ産シ、西海岸ニ於テ全ク之ニ反スルモノト云フコトヲ得ベシ。之レ昆布ハ寒流ニ産スルモノニシテ、かむちやつか半島沿岸ヲ南下スル寒流ガ北海道ノ東南海岸ヲ洗ヒ、唯一部ガ西海岸ニ至ルニ過ギザルニ因ルナルベシ。尙稍々細ニ觀察スルトキハ北海道昆布産地ヲ次ノ四區域ニ別ツ事ヲ得ベシ。

第一、渡島國一圓

第二、日高國靜内郡ヨリ十勝國廣尾郡ニ至ル沿岸

第三、釧路國ヨリ根室國納沙布岬ニ至ル沿岸、及千島國國後島沿岸

第四、天鹽國増毛郡ヨリ同國苫前、天鹽兩郡ノ境界ニ止ル沿岸及北見國宗谷枝幸兩郡

次ニ各區域ニ於ケル狀況並ニ産額ヲ掲ゲテ其大勢ヲ窺フニ便セントス。

其一、渡島國一圓。龜田郡茅部郡ニ産スルモノニハ元昆布、志苔昆布、上磯昆布、細目昆布等ノ數種アリ。元昆布ハ茅部郡砂原村ヨリ龜田郡トホホケ榎法華村ニ至ル間渡島國ノ北岸ニ於テ産シ、巾一尺内外長サ七八尺乃至一丈位ニシテ肉厚ク、元揃昆布ノ原料トシテ上々ノモノトス。コレハ維新前ニ於テハ主トナリテ輸出セラレンガ現今ニ於テハ皆無ナリ。上磯郡ニ於テ産スルモノハ所謂上磯昆布ニシテ一見三石昆布ニ類スレトモ、乾燥セバ多クハ白粉ヲ生ジ判別ニ便ナリ。近來之ヲ長切昆布トシテ輸出スレトモ、品質劣等ナレバ輸出昆布中最モ廉也。龜田郡ノ南岸即チ渡島國ノ南岸ニ當ル志苔村ニハ志苔昆布ヲ産ス。之ハ往時長崎俵物トシテ最上ノモノナリシガ現今ニ於テハ輸出セラル、事ナシ。松前、檜山、爾志ノ三郡ニハ細目昆布ヲ産スレトモ、其質劣等ニシテ産額モ多カラズ。

第二、日高國及十勝國。日高國沙流、靜内、三石、様似、浦河ノ諸郡ハ長崎俵物時代昆布産地トシテ其名噴傳セラレ、彼ノ高田屋嘉兵衛、金兵衛等ノ請負場ノアリシ所ナレトモ、近來根室釧路等ノ優等品輸出セララル、ニ至リシ以來第二流ノ位置ニ下レリ。而シテ其産スルモノハ所謂三石昆布ト稱スルモノニシテ茶褐色ニシテ甘味ナリ。此所ヨリ襟裳崎方面ニ進ムニ從ヒ漸次其品質佳良ニ進ミ、幌泉郡ヨリ十勝國廣尾郡ニ至レバ、其丈長ク鹹味強ク蓄藏ニ耐フルモノトナル也。襟裳崎附近ハ地形峻峭ニシテ礁岩多ク、最モ昆布ノ發生ニ適シテ何所モ水岸ヨリ沖合五六百間ノ間繁茂シ、其採收高亦多シト云フ。

第三、釧路根室千島。此區域ニ産スルモノハ長昆布ニシテ概シテ肉薄ク、丈長ク、鹹味強クシテ保存ニ耐ヘ、長切昆布ニ製スルニ適シ、且産額ノ豊富ナルコト全道第一トス。彼ノ輸出昆布トシテ重要ノ位置ニアルモノハ實ニ此區域内ニ産スルモノ也。此地方ニ於テハ昆布ハ陸岸ヲ離ル、百間乃至二百間、深サ二尋乃至四尋ノ所ニ於テ最モ繁茂シ又採取セラル、モノニシテ、沿岸ニ近キモノハ品質劣等、コレヨリ沖ニ行ク程良好トナル。然レトモ、遠キニ過グルトキハ海底深ク採取ニ便ナラズ、陸岸迄ノ運搬ニ困難ニ便不利ナルヲ以テ、斯カル箇所ハ共ニ借料廉ナリト云フ。

第四、天鹽國及北見國。本道西海岸ニ散在セル天鹽國燒尻天賣ノ二島及北見國利尻、禮文ノ二島ハ共ニ此區域中ニ入ルモノナリ。但シ天鹽郡ノミハ海底砂地ニシテ岩礁ナラザルガ故ニ昆布ノ生ズルコトナシ。凡ソ此ノ地方中増毛、留萌地方産昆布ハ巾狭ク丈短ク、燒尻、天賣、利尻、禮文諸島産ハ巾廣ク丈長ク、共ニ甘

味ナルヲ以テ多ク元揃昆布ニ製シ、宗谷枝幸産ハ長切昆布ニ製シ下等品トシテ清國ニ輸出セラル。
 次ニ北海道各地ニ於ケル昆布産額并ニ價格ヲ示ス。

國郡區		年	數量	價格
釧路	厚岸	廿六年	三七、九二九	一二五、三九〇
	厚岸	廿七年	二八、七一五	一〇六、九二五
白糠	釧路	廿六年	一四、一二二	三六、三七五
	釧路	廿七年	一〇、〇三七	三八、三〇一
川上	計	廿六年	一、五五四	六、七三三
	計	廿七年	一、三二〇	六、五三〇
渡	茅部	廿六年	四、二六〇	四七、九七八
	茅部	廿七年	九六六	一五、九九二
龜田	計	廿六年	五、七〇五	四七、二五二
	計	廿七年	六、〇三八	四九、九〇五
松前	計	廿六年	一、一六六	二、〇〇三
	計	廿七年	八、四四二	一四、〇六九
檜山	計	廿六年	四、四〇〇	七、六四
	計	廿七年	四、五一	九、〇二
天留萌	計	廿六年	一、五二	一、八七
	計	廿七年	二、九〇	三、六〇
苦前	計	廿六年	四、五一	一、七九
	計	廿七年	五、四七	一、四六
石厚田	計	廿六年	五、八〇	一、三三
	計	廿七年	三、五〇	五、六〇
狩	計	廿六年	三、五〇	一、三三
	計	廿七年	五、八〇	五、六〇
根室	計	廿六年	一、五一一	五、一四
	計	廿七年	一、二八一	四、二二
花咲	計	廿六年	三、九三五	一、三五
	計	廿七年	二、七〇六	九、三四
室	計	廿六年	四、〇八七	一、四〇
	計	廿七年	二、七九八	九、七六

國郡區		年	數量	價格
爾志	計	廿六年	二、二七	五、二〇
	計	廿七年	二、〇八	四、七七
上磯	計	廿六年	五、七二	四、三六一
	計	廿七年	二、二五八	二、四九〇
函館	計	廿六年	一、二五八	一、〇三
	計	廿七年	一、八、一五五	一〇、五七六
島	計	廿六年	九、七五	五、五
	計	廿七年	九、七五	五、五
久遠	計	廿六年	一、一五	一、二八
	計	廿七年	一、一五	一、二八
大樽	計	廿六年	五、七五	一、二八
	計	廿七年	五、七五	一、二八
瀬棚	計	廿六年	一、一三	二、九
	計	廿七年	一、一三	二、九
壽都	計	廿六年	四、〇	九、五
	計	廿七年	四、〇	九、五
歌葉	計	廿六年	二、六二	五、〇二
	計	廿七年	二、四六	七、八九
岩内	計	廿六年	一、四一〇	一、八八
	計	廿七年	一、四一〇	一、八八
積丹	計	廿六年	三、一六	一、三一
	計	廿七年	三、一六	一、三一
志	計	廿六年	一、一七	一、七九
	計	廿七年	一、一七	一、七九
北	利尻	廿六年	六、七〇六	一、六八
	利尻	廿七年	四、一三四	一、六一
北	禮文	廿六年	九、六八二	一、三三
	禮文	廿七年	三、五八三	一、七一
北	宗谷	廿六年	七、〇二	一、二八
	宗谷	廿七年	二、二四	六、七二
北	枝幸	廿六年	一、七〇九	二、九四
	枝幸	廿七年	一、七〇九	二、九四
見	計	廿六年	一、七九三	五、九一
	計	廿七年	三、三二〇	一、三二
十	廣尾	廿六年	一、七九三	五、九一
	廣尾	廿七年	三、三二〇	一、三二
勝	計	廿六年	三、三二〇	五、九一
	計	廿七年	三、三二〇	五、九一
日	幌泉	廿六年	一、一七二	三、四五
	幌泉	廿七年	一、一七二	三、四五
日	樣似	廿六年	三、一八二	六、五四
	樣似	廿七年	一、八三〇	六、四七
日	浦河	廿六年	四、三五〇	一〇、五九
	浦河	廿七年	一、二〇〇	四、〇八
日	三石	廿六年	三、三〇〇	一、四一
	三石	廿七年	一、五〇〇	六、七五
日	靜内	廿六年	八、五〇	一、四一
	靜内	廿七年	六、〇〇	五、一〇

ノ戸井尻、岸内、古武井、根田内ノ諸村ニ産スルモノ也。花折昆布ニ製セラル、モノハ龜田郡志苔村ニ産スルモノニシテ、世ニ志苔昆布ト稱シ又舊税目ニ板昆布トアルハ之也。

其二、三石昆布。三石昆布ハ日高國、膽振國、十勝國ノ沿岸ニ産ス。元來三石昆布トハ日高國三石郡ニ産スルモノニ名ヅケタル名稱ナレトモ其近傍ナル浦河、様似兩郡モ亦同品ヲ産スルガ故ニ、現今ハ之等ヲ總稱シテ三場所昆布ト通稱セリ。此昆布ノ乾燥品ハ幅二三寸、長五六尺ヨリ一丈五六尺程ニ及ビ、古來長崎俵物トシテ支那ニ輸出シ、爾來絶フル事ナク、今日猶輸出セラル、モノナリ。輸出昆布中本品ノ新物ハ七月下旬ヨリ八月上旬ニ至ル間ニ於テ常ニ他ニ先ジテ市場ニ現ハレ活潑ニ取引セラルルモノナレトモ、其質根室濱中産等ノ如ク鹹味強カラザルヲ以テ、濕氣多キ南清地方ニ到ラバ霉ケ(黴損スルコト)易クシテ永キ貯藏ニ耐ヘズ、根室濱中厚岸産等ノ市場ニ出廻ル期節ニハ此等ノ爲ニ壓サル、傾アリテ、價格モ下位ニアルモノナリ。サレバ此種類ニ屬スルモノハ輸出昆布中、中等ノ位置ヲ占ムト云ハザルヲ得ズ。

其三、水昆布。水昆布ハ殆ンド三石昆布ト同ジ場所ノ日高以東ノ沿岸ニ産スルモノニシテ幅狭ク、其質薄ク、其味鹹カラズ、淡泊ナルコト水ノ如キガ故ニ此名アリト云フ。或人ハ、本品ハ昆布ノ未ダ成熟セザルモノニシテ棹前昆布ト同品ナリト云ヘドモ、營業者ハ此ノ言ハ謬ナリト云ヘリ。此昆布ヲ長切昆布ニ結束シテ清國ニ輸出スルニ其品位下等ニシテ廉價ナレバ、北清地方ノ需要ニ投ジテ露領産ニ拮抗セシムルコト蓋策ノ得タルモノナラン。

其四、長昆布。長昆布ハ十勝、釧路、根室、及國後島等ニ生茂スルモノニシテ、幅狭ク乾燥品ニテ二寸乃至三寸、質薄ク、長サ二丈ヨリ四五丈ニ達シ稀ニハ十餘丈ニ達ス。之レ其名アル所以ナリ。又一ツニ眞昆布トモ云フ。維新前ニハ其産額少ク三石昆布ヲ名稱ノ下ニ一括シテ輸出セラレキ。其長昆布トシテ輸出セラル、ニ至リシハ維新後ノ事ナレトモ、一度之レガ輸出開始セラル、ヤ、其質薄ク鹹味強ク從テ煮ヘ易ク且保存ニ耐フルノ特質アルヲ以テ、清人ノ嗜好漸次之ニ轉ズルニ至リ、從來最良ノ聲價ヲ以テ誇リ居タル三石昆布ヲシテ遂ニ其地位ヲ讓ルノ止ムヲ得ザルニ至ラシメタリ。爾來益々其産額ヲ増加シ、清國ノ需要亦加ハリ、現今ニ於テハ清國輸出ノ品類中最良ノ聲價ヲ博シ、最モ重要ノ位置ヲ占メ、其ノ消長ハ昆布貿易ニ至大ノ影響ヲ及ボスモノトナレリ。

其五、黒昆布。黒昆布ハ本部沿岸即チ天鹽國沿海及利尻、禮文、兩島等ニ産スルモノニシテ、幅三四寸長サ四五尺乃至七八尺、乾燥スレバ外面黒色ヲ呈シ、其質厚シ。天鹽昆布。利尻昆布、ト稱スルハ此種ナリ。煮沸シテ煎汁ヲ造ルニ、他昆布ノ如ク其液汁混濁セズシテ清澄ナルヲ以テ煮出シテ賞用セラレ、俗ニだし昆布ト稱ス。然レトモ其肉厚ク、煮熟シ難ク、且價格少シク高キガ爲メ清國ヘハ輸出セラレズ。

其六、細目昆布。細目昆布ハ渡島國松前郡ヨリ後志國久遠郡邊ニ至ル本道西南ノ沿岸ニ産スルモノニシテ、巾二三寸長四五尺ナリ。三陸地方ニテハ一ニ之ヲ益目ト云フ、蓋シ岩代陸前地方ニテハ孟蘭盆ノ際之ヲ佛前ニ供スルガ故ナリト云フ。此種ノ昆布ハ清國ニ輸出セラル、事ナク重ニ大阪ニ送ラレ刻昆布ノ原料ニ供セラル。尤モ明治二十三年ノ頃昆布輸出ガ昆布會社ノ掌中ニ歸シシ當時ニアリテハ、在留清商ハ容易ニ良昆布ヲ得ル能ハザリシカバ、此昆布ヲ買ヒテ輸出シシ事アリト云フ。然レトモ其後會社ノ悲運ニ傾キ商權再ビ清商

ニ復歸スルニ及ビテ彼復タ之ヲ輸出セズ。

其七、猫足昆布。猫足昆布ハ本道東部即チ日高國ヨリ千島ニ至ル沿岸ニ産スルモノニシテ、就中千島國色丹ニ最モ多シ、故ニ一ツニ色丹昆布トモ稱ス。乾燥シタルモノハ幅二三寸、長サ六七尺乃至一丈余ニシテ、其根ノ部分兩端ニ分レ耳狀ヲ爲スガ故ニみ、昆布トモ云フ。猫足昆布ト云フハ其莖根宛然猫足ノ形ヲナセルガ故ナリト云フ。本品ハ砂上ニ於テ乾燥スレバ黑色ニ變ズルヲ以テ吊乾法ニヨリテ乾燥ス。其品元來下等ナルヲ以テ普通輸出品ノ缺乏セル場合ニアラザレバ輸出セラレズト雖モ之ヲ刻昆布ニ製シテ輸出スルコト盛ナリ。此昆布ハ又沃素ヲ含ム事多量ナルガ故ニ沃度ノ原料トシテ多ク用ヒラルト云フ。

第八、粘液昆布。粘液昆布ハ本道東部海岸ニ産スルモノニシテ其數量甚多カラズ。然レトモ釧路地方ニハ稍多シト云フ。乾燥品ニテ其幅三、四寸長六七尺、左右ノ縮邊ニ皺多キガ故ニ判別ニ便ナリ、一ツニ縮ミ昆布トモ云フ。一種ノ粘液ヲ含ム事殊ニ多ク、鉢ニテ摺ル時ハとろ、ノ如ク以テ食膳ニ上スニ適スルガ故ニ此名アリ。

右ノ外種々アレトモ昆布ノ種類トシテ特ニ擧グベキ程ノモノニアラズ。若シ有リトセバ、其ハ唯々鬼昆布トテ到ル處ノ淺水砂石ニ生ジ、丈極メテ短ク、時ニ長切昆布トシテ輸出モラル、モノアルノミ。

因ニ記ス、所謂棹前昆布、拾昆布ト云フハ此ニ述ベシ昆布ノ種類トハ其ノ區別ノ標準ヲ異ニスルモノニシテ、棹前トハ各地方ニ一定セル採取時期以前ニ採取セルモノヲ云フ。蓋シ棹トハ採取器具ニシテ採取始メテ棹卸シ又ハ鍵卸シヲ意味シ、棹前トハ其ノ時期以前ニ採取シシモノナリトノ意ナリ。拾昆布トハ風浪其他ノ

爲ニ岩石ヨリ離レ岸ニ漂着シタルモノニシテ、採取シタルニアラズ拾ヒタルモノナリ。其ニ昆布ノ質ヲ問ハザル也。

次ニ昆布ノ性質ヲ記サンニ、昆布ハ植物學上隱花植物ニ屬スルモノニシテ種類ニヨリ其ノ形狀、長短、廣狹等ヲ異ニスルモ其ノ莖ノ甚ダ短キコトハ一ツナリ。葉身ハ食用ニ供スル部分ニシテ頗ル長ク昆布ハ之ヨリ養分ヲ吸收ス。根ハ岩石ニ固着シテ其ノ流失スルヲ防グ用ヲナスモノニシテ、形狀ニ二種アリ、一ツハ掌狀ヲナシ、他ハ分岐シテ數條ヲナス。其繁殖方法ハ他ノ隱花植物ト同様胞子ニ由ルモノニシテ、胞子ハ冬期葉裏ニ發生シ、漸次膨大トナリ、熟スルニ及ビ離脱シテ水中ニ浮流シ、岩石ニ附着シ、以テ發芽スルモノ也。又昆布ニ一年生ト二年生トアリ。前者ハ冬至ヨリ三週間ヲ經過スルトキハ其ノ長サ一二寸ニ至リ、翌年三月ニ至レバ五六尺位ニ、若シ波浪激奔スル所ニ生ズルモノナラバ二三尺位ニ生長シ、八九月ノ頃ニ成熟シ、斯クシテ二年ヲ經過スレバ自然ニ根部ヨリ椀離腐敗ス。而シテ後者ハ發生後五六ヶ月ヲ過グレバ三尺乃至五六尺ニ至リ三年ノ後ニ枯死スルモノ也。維新後ニ至ル迄、一般ニ昆布ハ年々宿根ヨリ發芽スルモノナリト信ゼラレタレトモ、開拓使ガ七重試驗場ニ委員ヲ派シ實地調査ヲナスニ至リ、始メテ昆布ハ新生ノモノニシテ宿根ヨリ發芽スルモノニアラズ、新生ヨリ少クトモ三ヶ年ヲ經レバ必ズ岩石ヨリ其根ト共ニ離レ、而シテ冬期中新タニ其岩面ニ胞子附着シ新生スルモノニシテ、宿根ヨリ發芽スルモノハ唯ダ方言ガこめト稱スル昆布ノ一種ノミナルコトヲ發見シタリ。此故ニ彼ノ竿頭ニ蓂股狀ノ木ヲ附シ昆布ヲ根ト共ニ抜き取ル方法ハ一見、昆布繁茂生育ヲ衰頹セシムルガ如シト雖、實ハ少シモ害ナク、却テ鎌ヲ用ヒテ其根際ヨリ斯取リ其根ヲ遺留

セシムル方法ヨリモ良好ナル結果ヲ得ベキ也。而シテ昆布ノ發生ニハ必ず岩石アルヲ要シ砂上ニ生ズルコトナシ。彼ノ天鹽國天鹽郡ノ沿岸ニ昆布ノ生ゼザルハ之ガ好例ナリ。而シテ水中ニ浮流スル昆布ノ孢子ハ粗石ニ附着シ易ク、他ノ海藻附着シテ石面ヲ覆ヒ面滑カナルトキハ難ク隨テ良好ナル生育ヲ遂グルコト能ハザル也。昆布ノ種類ニヨリ其成長期間ニ差異アリ。元昆布、黒昆布ハ發生後三年目ニ、三石昆布、長昆布、細目昆布ハ二年目ニ、水昆布ハ發生シシ年ノ秋分頃ニ成熟スルモノ也。尤モ以上ハ一ツモ外界ノ妨害ヲ受ケザル場合ヲ云フモノニシテ、若シ妨害アルトキハ必ズシモ如此ナラザルナリ。

昆布ニ對シテ有害ナルモノ數多アリ、其ノ重ナルモノヲ舉ゲレバ左ノ如シ。

- 一、干潮ノ時降雨多キ事
 - 二、東南風
 - 三、寒氣弱キ事
 - 四、流水、激浪
 - 五、苦潮ニヤシホ (葉ヲ枯死セシムルガタメ)
 - 六、害虫 根部ヲ食害スルガタメ
 - 七、鮑、のな、海栗、昆布ノ嫩芽ヲ食傷スルガタメ
- 第四ノ流水激浪ノ害ハ昆布ヲ根ヨリ洗去ルガ爲ナレトモ、夫レト共ニ他ノ雜藻ヲモ取除キ來年ノ昆布發生ニ大ニ有利ナルモノ也。

昆布ノ繁殖法ニ投石法ト移植法トノ二ツアリ。前者ハ適度ナル風土潮流ノ所ニ昆布孢子ノ離散前岩石ヲ投入シ、其岩石ニ孢子ヲ附看セシメ以テ發生セシムルモノナリ。文政二年ヨリ明治初年ニ至ル間、山田文右衛門ガ新冠砂流ノ沿岸ニ於テ行ヒシハ之ナリ。後者ハ酷暑ノ候ニ昆布ノ發生セル岩石ヲ冷潮ノ通過スル岩石多キ海底ニ投入スルモノニシテ、數年ナラズシテ他ノ岩石ニモ其發生ヲ見ルモノ也。但シ其ノ輸送中ハ海藻ヲ以テ之ヲ蔽ヒ、時々海水ヲ注ギ、勉メテ其干燥スルヲ防ガザルベカラズ。

第三節 採取

昆布ヲ採取スルニハ、船ニヨリテ昆布ノ生茂セル海面ニ出デ、種々ノ器具ヲ使用シ船上ヨリ之ヲ爲スモノニシテ、地方ニヨリ其ノ時期ニ遅速アリ、又其ノ方法及器具ニ差異アリ。次ニ其ノ大畧ヲ述ブベシ。昆布採取ノ時期ハ、其ノ地方ニヨリ又季候ノ遅速ニヨリ多少ノ差異アリト雖、大概七月下旬ヨリ始マリ十月下旬又ハ十一月月上旬ニ了ルモノナリ。昔ハ夏期土用入ニ始マリ秋期土用入ニ了リ、其レ以外ニハ採取セザリキ。是レ採取者ハ概子他ノ漁業ヲ兼テタルト又一時幕府ニ於テ法ヲ以テ此ノ季節ヲ一定シタルトニヨレバ也。今各昆布ノ種類ニヨリ之レガ採取時期ヲ區別セバ左ノ如シ。

- 元昆布 自七月中旬 至十月中旬
 - 三石昆布 自七月下旬 至十月下旬
 - 長昆布 自七月下旬 至十一月下旬
 - 黒昆布 自七月下旬 至九月下旬
 - 細目昆布 自七月下旬 至八月下旬
- 又地方ニヨリ區別スレバ左ノ如シ。

小樽郡	自三月下旬	至六月下旬
檜山郡	自六月下旬	至八月下旬
松山郡	自六月下旬	至十一月上旬
蕊取、紗那、擇捉、振別、諸郡	自七月上旬	至九月中旬
厚田、忍路、兩郡	自七月中旬	至八月上旬
茅部、留萌、兩郡	自七月下旬	至八月中旬
後志、大部分、室蘭、白老、諸郡	自七月下旬	至八月下旬
濱益、廣尾、兩郡	自七月下旬	至九月中旬
函館區、浦河、増毛、兩郡	自七月下旬	至九月下旬
三石郡	自七月下旬	至十月上旬
静内、花咲、國後、諸郡	自七月下旬	至十月下旬
釧路、厚岸、兩郡	自七月下旬	至十一月下旬
沙流、新冠、兩郡	自八月上旬	至九月中旬

但シ雨天ニ於テハ採取セズ、之ヲ採取シ能ハザルニアラザレトモ之ヲ乾燥スル事能ハズシテ腐敗セシムル虞アルガ故也。

右ニ記載スル所ハ固ヨリ大体ノ觀察ニシテ毎年必ズシモ一定セルニアラズト雖、サシタル相違ハナカルベシ。

又地方ニハ各組合ニ於テ規約ヲ設ケ、豫メ採取ノ日ヲ一定シ之ヲ鈎卸シ又ハ鎌卸シト稱ス。尤モ若生昆布、拾昆布、掉前昆布等ト唱フルモノハ多クハ此期節以外ニ採取スルモノ也。

昆布採取ノ方法及器具ハ昆布ノ種類、海底ノ深淺、地方ノ狀況ニヨリ多少異ナルモノアリト雖、今其ノ重ナルモノ、ミヲ説明セバ左ノ如シ。

船。ハ種々ノ形狀、大小アリテ一定セズ。要ハ海上ニ浮ビ、人之ニ乗ジ採取スルニ差岡ヘナキモノナラバ可ナリ。之ニ胴海、保津、三羽、持符、中舟、磯舟等ノ名稱アリト云フ。漁夫ハ舟ノ大小ニ應ジテ二人乃至五六人之ニ乗込ミ、掉二本乃至五六本、碇一挺、徑四分許長サ六七寸ノ繩、車樞二榘、舳樞一枚ヲ備ヘ、昆布ノ生茂セル所ニ至リテ投碇シ採取ニ從事スルモノナリ。尤モ次ニ云フ昆布搔ナル器具ヲ使用スル時ハ船ヲ停メ置カザルヤ勿論ナリ。

鍵。ハ昆布ヲ搔キ寄スルニ用ヒ、柿ノ圓徑一寸五分許長一丈五尺乃至二丈餘、其端ニ壹尺四五寸ノ鈎ヲ附シタルモノナリ。サテ之ヲ使用スルニハ、掉ヲ海中ニ索リ入レ、先端ノ鈎ヲ以テ昆布ヲ引掛ケ船側ニ持來リ、次テ兩手ヲ以テ昆布ヲ握リ力ヲ込メテ索引シ、以テ昆布ヲ根拔ニス。但シ稀ニ中途ヨリ切斷スルコトアリ。鎌。ハ昆布ヲ薙リ取ルニ用ヒ、鐵製ニシテ之ヲ木柄ニ附スルコト普通ノモノト異ナルトコロナシ。之レハ海底淺ク且岩石多ク、昆布根之レニ固着セル場所等ニ使用スルモノナリ。

撿棒。ハ昆布ガ海深ヨリ短ク、之ヲ切斷スルニアラズンバ船舷迄持テ來ル能ハズ、從テ鍵ヲ使用スル能ハザル場合ニ用ヒ、方言之ヲトコト云フ。柳材ヲ以テ造リ又先端ニ鈎ヲ付ス。まつか、さを、ト稱スルハ此一種ナリ。

之ヲ用フルニハ、先端ノ鈎ニ昆布ヲ引懸ケ棒ヲ捻テ廻ハシ、昆布ヲ之レニ纏付セシメ、尙力ヲ込メテ捻ヂ上
ゲ、遂ニ昆布ヲ切斷シ又ハ根扱ギニナシ、其儘船上ニ引上ゲテ獲得スルモノ也。
昆布搔。ハ底鈎トモ稱シ、海底深クシテ他ノ器具ノ達セザル時ニ使用スルモノニシテ、且平坦ナル海底ニ
ハ使用上便ナリ。適宜ニ反張セル木片二本ヲ雙角狀ニ合セ之レニ凡ソノ重量一貫五百匁ノ石錘ヲ附ス之レヲ
使用スルニハ昆布ノ生茂セル海底ニ之レヲ沈メ之レヨリ通ズル繩ヲ船上ニ固ク結び付ケ帆ヲ用ヒ船ヲ諸所ニ
走ラヒ以テ海底ヲ引廻シ昆布ヲ搔キ集ムル也。

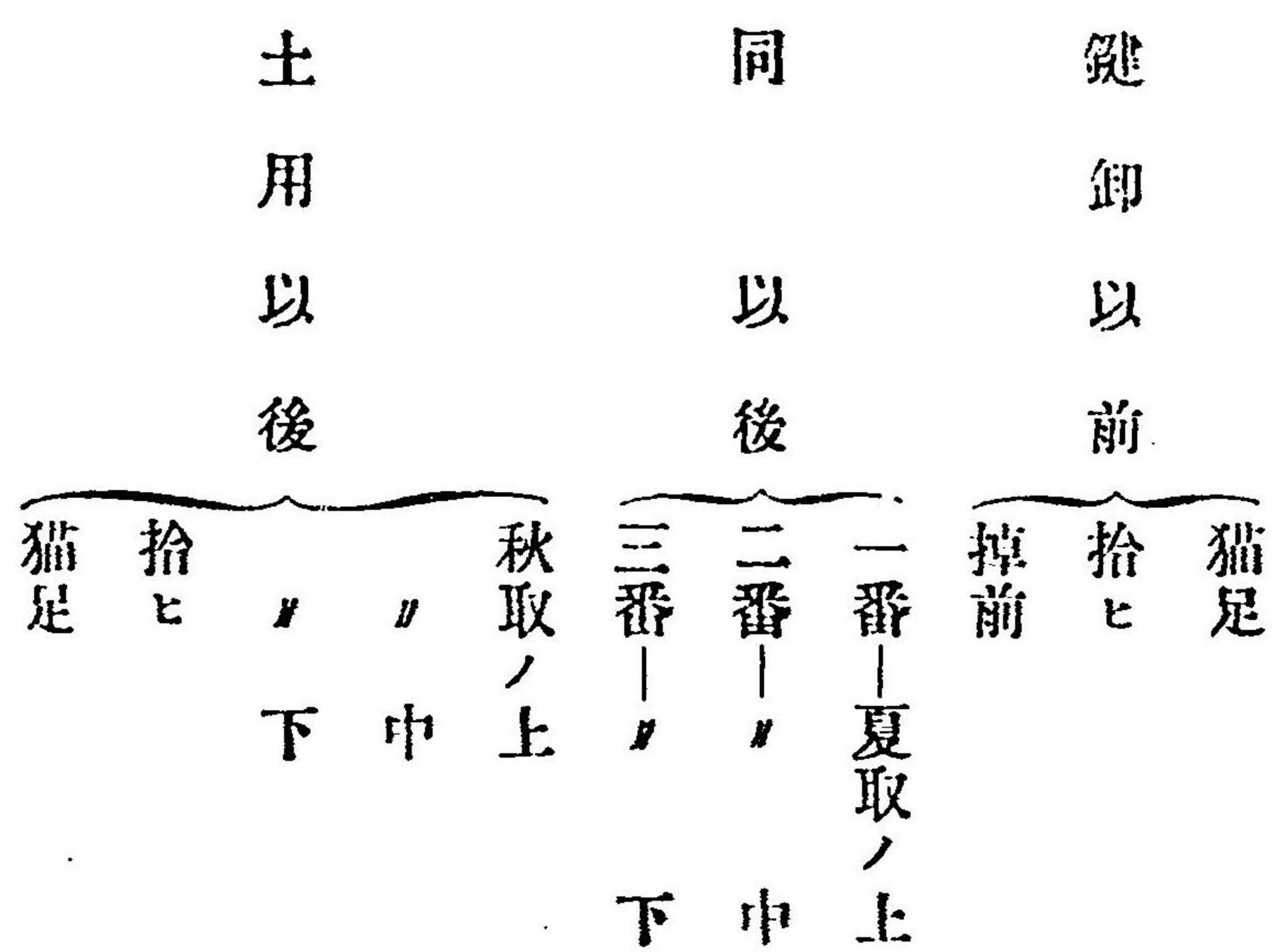
渡島國茅部郡及龜田郡小安以東ニ於テハ重ニまつかヲ用ヒ、小安以西大森濱ニ至ル間ニ於テハさをヲ用フ。
上磯郡知内、木古内地方ニ於テハ海底深キ故ニガ重ニ底鈎ヲ用ヒ、渡島國松前郡以西、後志國各郡ニ於テハ
鎌ヲ用ヒ、根室及日高地方ニ於テハ重ニ鍵ヲ用フ。但シ終期昆布僅少トナリ、深處ノモノヲ採收セザルベカ
ラザル時ニ至ラバさをヲ用フト云フ。

第三章 輸出昆布

第一節 種類及品位

昆布ハ其原草ニ種々アルガ如ク商品トシテノ種類モ亦甚ダ多シ。而シテ其區別ノ標準ハ區々ニシテ或ハ之
ヲ製造結束法ニ取り、或ハ之ヲ原草ノ差異ニ取り、或ハ產地ニ取り、或ハ採取ノ時期ニ則リテ一定セズ。然
レトモ其ノ輸出貿易品トナレルモノハ長切昆布ト刻昆布トノミ也。

長切昆布ノ種類ヲ擧グレバ次ノ如シ。



右ノ如ク長切昆布ハ大体之ヲ時期ニヨリテ區別シ更ニ、又產地ニヨリ細別スルモノニシテ、例ヘバ根室産夏取

ノ上、銅路産夏取ノ上……………ト云フガ如シ。

刻昆布ニツキテハ種類トイフモノナシ。蓋函館ニ於テ製造セラル、刻昆布ハ悉ク清商ノ注文ニヨルモノニシテ、隨テ函館市場ニ於テ取引セラル、事ナケレバ也。

品位。本邦人ト清國人トハ其ノ昆布ニ對スル嗜好自ラ異リ、本邦ニテハ肉厚ク寧ロ甘味ナルモノ例ヘバ渡島産元昆布、北見天塩産黒昆布等ヲ賞スルニ反シ、清國ニ於テハ肉薄ク鹹味ナルモノ例ヘバ日高、十勝根室産ノ三石昆布、長昆布等ヲ貴ブナリ。サレバ昆布ノ品位モ其需要者ノ如何ニヨリテ異ナルトコロアルモノニシテ爰ニ述ベレトスル輸出昆布ノ如キハ殊ニ然リトス。凡ソ品位ハ其原草ノ種類ニヨリ始メヨリ其ノ區別アリト雖、同一種類ニ屬スルモノ、中ニモ其ノ製法ノ良否ニヨリテ品位ニ差ヲ生ズ。丈尺ノ不齊ナルガ如キ、乾燥不充分ニシテ濕氣ヲ吸收シ微損シ易キガ如キ、結束ノ不完全ニシテ輒チ散乱シ又ハ盜難ヲ蒙ルガ如キ、其他以上ノ點ニ於テ中分ナキモ結束中ニ多量ノ砂ヲ混ジタルガ如キハ、品位ノ最劣ニシテ最モ忌ムベキモノ也。要之昆布ノ品位ハ左ノ條件ニヨリテ知り得ベシ。

一、原草。

(イ) 肉ノ厚薄。(ロ) 味ノ甘鹹。(ニ) 赤葉、枯葉ナルカ否カ。(ホ) 元葉、中葉、末葉、ノ何レナルカ

二、製法。

葉昆布、(イ) 丈尺ノ長短 (ロ) 乾燥ノ充分ナルカ否カ、(ハ) 砂ノ混入ノ多寡、(ニ) 結束ノ良否
刻昆布、(イ) 刻ミ方 (ロ) 弾力ノ有無、(ハ) 色澤

本邦ニ於テハ肉ノ厚キヲ好メドモ清國ニ於テハ薄キヲ好ム。薄キハ煮熟シ易ク、從テ薪炭ヲ要セズ、山東ノ如ク薪炭ノ高價ナル地方ニ於テハ殊ニ必要ナル事ナリトス。

味ハ鹹キヲ好シトス。是レ南清地方ハ濕潤ニシテ鹹氣強カラザル時ハ靈ケ易ク、又内地(清國ノ)ニ於テハ食鹽高價ナルガ故ニ若シ昆布ガ鹹味ナルトキニハ其丈ケ倉鹽ヲ節スル事ヲ得レバ也。

赤葉、枯葉ノ惡キハ論無シ。葉ハ中葉ヲ最良トス。末葉、元葉之ニ次グ。製造法上丈尺ノ長キヲ好シトス、短キハ長キニ製スル能ハザルモノナルヲ以テ也。

乾燥ノ充分ナルヲ要スルヤ勿論ナリ、是レ南清地方ハ低濕ニシテ、乾燥不充分ナル時ハ微損ノ憂多ケレバ也。砂ノ混入ハ少シハ必要ナリ、是レ昆布ノ相密着シ蒸サレテ腐敗スルヲ防グ効アレバナリ。サレド餘リニ多量ナルハ徒ニ量目ヲ増スノミニシテ、品位好シカラズ。

刻昆布ハ其ノ刻方細美ニシテ彈力アルヲ良シトス。色ハ元來綠色ナルヲ好ミシカドモ、近來東京、大阪産ノ刻昆布ガ清國人ノ嗜好ニ投ゼントシテ餘リニ濃厚ナル着色ヲナシ、染料ガ手ニ附着スル程ノモノアルニ至リシカバ、嗜好ハ漸ク寧ロ黑色ナルモノニ移ルニ至レリ。

右ノ條件ニ由リ長切昆布ノ種類ヲ考フルニ其品位ノ順序左ノ如シ。

- 一、夏取ノ上
- 二、秋取ノ上
- 三、夏取ノ中
- 四、秋取ノ中
- 五、棹前
- 六、鬼
- 七、猫足
- 八、拾ヒ

然レトモ産地ヲ異ニスルトキハ右ノ如ク一概ニ率スル事能ハザルモノニシテ、若シ産地ニヨル品位ヲ順記スレバ左ノ如シ

- 一、濱中産
 - 二、根室國後産
 - 三、釧路産
 - 四、厚岸産
 - 五、三塙所産
- 刻昆布ハ禽印、各印ノ如キ上海市場ニ於テ評判好シト云フ。

第二節 製造及荷造

昆布ハ製造上大別シテ葉昆布、刻昆布、細工昆布ノ三種トナス事ヲ得。而シテ其ノ製造法ハ皆甚ダ簡單ニシテ、葉昆布ハ唯乾燥及結束ヲセバ可ナリ、刻昆布ハ稍手數ヲ要スルモ未ダ他ノ製造品ノ於ク繁雜ノモノニアラズ、殊ニ細工昆布ニ至リテハ簡單ナル手先ノ仕事ナレバ製造ノ名ヲ冠スルニ値セズ。葉昆布ハ總テノ種類ノ昆布ヲ原料トシテ使用スルモノニシテ元昆布、三石昆布、眞昆布ヲ始メトシ、前記八種ノ昆布ハ皆葉昆布ニセラルナリ。刻昆布ハ薄葉ノモノ重ニ使用セラレ、其ノ元昆布タルト三石昆布タルト問ハズ、然レトモ薄葉ノモノハ重ニ長(眞)昆布ナリ、元揃ニ製スル元昆布ノ如キ刻昆布ニハ不適ナリトス。

一、葉昆布ノ製造。葉昆布ノ製造ハ乾燥結束ノ二階段ヲ經ルモノ也。次ニ各別ニ之ヲ述ブベシ。

乾燥。採取セル昆布ヲ船中ヨリ濱邊ニ運搬スルヤ、直ニ其處ニアル干場ニ一枚宛展開シ、天日ニヨリ乾燥セシムルモノニシテ、干場ハ細砂廣瀾ナル地ヲ最上トス。蓋シ土壤、岩石ニシテ狹隘ナルハ乾燥上不便不勤

レバ也。乾燥時間ハ、輸出向長切昆布ノ如キ薄葉ノモノハ晴天ニケ日間、元揃昆布ノ如キ厚葉ノモノハ五日間位ナリ。夜間ハ納屋ニ取入レ、又ハ一ヶ所ニ集積シ、蓆ヲ覆ヒ濕氣ヲ防グモノナリ。如此シテ乾燥シタルトキハ納屋ニ運ビ適宜ニ積ミ重子置キ、後再ビ晴天ニ乾シ、次デ夜露ヲ與ヘ、濕氣ヲ帶バシメ、之ヲ引キ伸バシ、尋デ結束ス。夜露ヲ與フルハ之ヲ取扱フニ際シ折損ノ虞ナカラシメンガ爲ナリ。

結束。乾燥シタル昆布ハ其種類ニヨリ結束法ヲ異ニス。即チ

三石昆布、長昆布、猫足昆布、細目昆布、水昆布、其他樟前昆布、拾昆布、鬼昆布、等ハ長切昆布トナス。

元昆布、黒昆布ハ元揃昆布、花折昆布、小花折昆布、長折昆布、島田折昆布、折昆布、及胴結昆布等ニ製造セラル。

粘液昆布ハ繩ノ如ク捻リ圓形ニ組マル。

ノ如シ而シテ輸出セラル、モノハ殆ンド長切昆布ノミナルガ故ニ、爰ニハ其レニノミツキテ記サン。長切昆布ニ製スルニハ、原草ヲ一枚毎ニ引伸シ、根莖ヲ截斷シ、葉先ヲ切去リ、一定ノ長サトナシ結束スルモノニシテ、其レヲ一把ト稱シ、更ニ二把ヲ合シテ結束シ一駄トナス。前ノ結束ヲ下結ト云ヒ、後ノモノヲ上結ト云フ。其ノ寸法等ハ概テ左ノ如シ。

昆布ノ種類	長サ	上結	下結	壹駄ノ量目
上等昆布	四尺二寸	七ヶ所	六ヶ所	八貫目

中 等 昆 布	下 等 布 昆	拾 昆 布	猫 足 昆 布	鬼 昆 布
三尺五寸	三尺五寸	三尺五寸	三尺五寸	三尺五寸
六	五	五	五	六
五	四	四	四	五
八 貫 目	五 貫 目	五 貫 目	五 貫 目	七 貫 目

長切昆布ノ現行結束法ハ概テ右ノ如シ。北海道昆布營業聯合組合及日本昆布會社設立當時ニアリテハ、此二者間ノ契約書細則第一章昆布ノ品位ノ部、第一項ニ、結束法ヲ定メ、大ニ之ヲ勵行シシガ、現今ニ於テハ各生産者ノ欲スルトコロノ儘ナリ。然レトモ右規定ノ一時行ハレシ爲、今日ニ於テモ較々其效驗アルガ如シ。參考ノ爲メ契約書細則ノ一部ヲ示セバ左ノ如シ。

第一項 契約書第一條ノ昆布製造法ハ左ノ如ク聯合組合貫地一定スルモノトス。但シ双方熟議ノ上ハ手柄昆布ニテ受渡スコトアルベシ。

等級	尺度	結目	量目	摘要
上等長切昆布	四尺	上六下七	八貫目	赤葉、斑文、枯葉、砂付、鬼、拾短尺等ヲ混入スルヲ得ズ乾燥十分ナルヲ要ス
中等	三尺五寸	上五下六	七貫目	赤葉、斑文、枯葉等ヲ混入スルコトヲ得ズ乾燥十分ナルヲ要ス
下等	三尺	上四下五	五貫目	赤葉、斑文、枯葉等ヲ混入スルコトヲ得ズ乾燥十分ナルヲ要ス

水 昆 布	四尺二寸	上六下七	八貫目	
掉 前 昆 布	三尺五寸	上五下六	七貫目	
拾 ヒ 昆 布	三尺五寸	上五下六	七貫目	

右ニ述ブルガ如ク。昆布ハ其ノ結束上一駄ノ量目一定セルガ如シト雖、天候貯藏法ノ如何ニヨリテ乾濕ヲ生ジ多少ノ差異アリ。又長切昆布ハ其運賃一駄ニ付キ幾何ト定ムルガ故ニ、運賃ノ輕減ヲ得ン爲メ、一駄ノ量目ヲ増加スル傾アリ。九貫目ニ近キモノ往々ニシテ之レアリ。

二、刻昆布ノ製造。刻昆布ハ駄昆布、胴結昆布、猫足昆布、細目昆布、水昆布、掉前昆布ヲ始メトシ、拾ヒ昆布、屑昆布、手繰昆布等ノ下等廉價ナルモノニ着色シ飽削シタル製品ニシテ、其ノ劣等昆布ヲ使用スルハ製品ノ可成丈廉ナラン事ヲ計ルガ故也。現今刻昆布ノ製造地ハ東京、大阪、函點ノ三ヶ所ニシテ、東京ハ陸前、陸中、産就中陸中ノ小本産ヲ用ヒ其品乏シキ時ハ北海道産ヲ用フ。大阪ハ主トシテ北海道産ヲ用ヒ其品乏シキ時ハ陸中産ヲ用フ。而シテ函館ノ製造者ハ皆本道産ヲ用フルナリ。刻昆布ニ適スル昆布ハ薄葉ニシテ綠色ナルモノ也。是レ能ク細美ニ製シ易キト着色料ヲ多ク要セザルトニ因ル也。採取早キニ過ギタルモノハ色綠ニシテ美ナレトモ味淡泊ニシテ惡シ。其ノ製法ハ次ノ階段ヲ經ルモノ也。

(イ)着色乾燥。先ヅ原料昆布百五十斤許ヲ鹽水中ニ入レテ附着セル砂ヲ洗除シ、次デ徑四尺位ノ鐵釜中ニ投入シ、精藍小許ヲ加ヘ、三四十分間煮沸シ、着色其度ニ至ラバ、釜中ヨリ之ヲ引上ゲ板上若クハ蓆上ニ陳ベ

又ハ掛場ニ垂下シ、日光ニヨリ乾燥ス。

(ロ)葉卷キ。乾燥セル昆布ノ水分大低除去サル、ニ至ラバ、葉卷女工ハ其ノ皺ヲ延バス爲メ一葉ヅ、卷キ徑一尺位ノ團塊トナス。

(ハ)熨斗。熨斗女工ハ此ノ團塊ヲ解キ、各一葉ヅ、長サ四尺五寸巾六寸位ニ揃ヘ、三尺位迄積ミ上グ。

(ニ)刻ミ。刻職工ハ長サ一尺五寸位ニ之ヲ切斷シ、巾七尺位、厚一尺五寸位、高サ九尺ニ積ミ重キ、壓搾器ヲ以テ堅ク締め同時ニ水分ヲ絞リ取り、後飽ヲ以テ側面ヨリ削取り細線トナス也。

(ホ)乾燥、着色。此ノ細線トナシタルモノヲ一旦乾場ニ移シ、屋上席上ニテ日光ニ乾カシ、畧乾燥スルニ至ラバ之レヲ集メ、更ニ仕上ダ染ノ工ヲ施シ再ビ乾燥ス。

次ニ荷造ニツキテ述バンニ、葉昆布ハ内地取引ノ間ハ唯結束セル儘別ニ何等ノ荷造ヲ施サズ。輸出スル時ニ至リテ始メテ清商之レガ荷造ヲナスモノニシテ、三駄ヲ抱キ合セテ席ニテ卷キ、其上ニ縦一筋横二筋ニ繩ヲ掛クルヲ普通トス。刻昆布ハ杉材ノ六分板ニテ造レル曲尺ニテ高サ一尺一寸餘、幅一尺二寸許、長サ一尺九寸余ハ函ニ正味八貫目即五十斤乃至五十三斤ヲ裝填シ、等位ヲ記セル紙ヲ貼リ、蓋ハ悉ク釘付ケトシ、紐土佐ニテ緘封シ、貯藏保證ノ烙印ヲ捺シ、横ニ重縦一重ニ繩掛ケヲナス。

右ニ述ベタルトコロノモノハ北海道ニ於テ現今行ハル、製造及荷造法ノ大畧ニシテ、要スルニ大ナル不完全ノ點ナキモ間々粗製濫造ノ弊ヲ認メ得ザルニアラズ。以是次ニ少シク之レガ改良スベキ點ニツキ説述セントス。

(イ)乾燥ノ注意。需要地ノ狀況ヲ觀ルニ、昆布ノ乾燥ト製造トニ改良著シキモノハ寧ロ原草ノ如何ヲ問ハズ自然販路ヲ擴張スルノ趨勢アリ。夏季土用取、走り昆布ニシテ根室、濱中、厚岸、釧路、白糖産トモ皆其乾燥ト結束トニ不同ナキ物ハ、上海市場毎歲初季ニハ同價格ニ賣行キ、二回三回ト次第ニ價格ニ差等ヲ生ズルヲ例トスルガ如キハ、蓋シ初季ノ出産物ハ各產地組合員トモ市場ノ聲價ヲ得ンガ爲メ競フテ乾燥等ニ特ニ注意スレトモ後市場賣行ノ良否相場ノ高低ニ依リ製造ニ手加減ヲ加ヘ、何時シカ當初ノ精神ヲ變ジテ市場ノ價格ヲ開カシムルニヨルモノニシテ、昆布ノ價格ハ重ニ製造持ニ乾燥ニヨリ左右セラレ其種類ニ依ラザルコトヲ證スルモノ也。サレバ產地當業家ハ深ク此ノ點ニ注意シ永遠ノ利ヲ得ンコトヲ力ムベキ也。

(ロ)品質ニ應ジ長短ヲ區別スル事。品質ノ等級ニ應ジ其長短ヲ區別スルハ販賣上便利尠カラズ。從來ト雖之ヲ爲シ、上等ハ四尺二寸、中等ハ三尺六寸、下等ハ三尺ト定メアレトモ、往々中身ニ定尺ニ滿タザルモノ、及ビ末葉、若クハ不乾燥ノ粗惡品ヲ混交スルモノアリ。若シ其ノ場合ニ於テ賣行好況ナランカ、狡商ハ忽チ之レヲ利用シ、魚目混珠以テ好直段ニ賣捌ク事珍シカラズ。然ルニ其結果粗惡品ヲ混入シシモノハ時日ノ経過ニ從ヒテ腐敗ノ徵候ヲ呈スル等不都合ノ點ヲ現ハシ、終ニ昆布業者全體ニ不信ヲ及ボシ、取引上ノ澁滯ヲ來スニ至ルベシ。サレバ組合ハ嚴密ニ其品等ヲ長短ニ依リテ區分シ、表裏品位ヲ一定シ、一目ニシテ其上等品、中等品、下等品タルコトヲ判明シ易カラシムベキ也。

(ハ)元葉ノ區別。元葉ハ元來中葉末葉ヨリ厚キモノナレバ、乾燥ニ多クノ時日ヲ要セザルベカラズ。然ルニ元葉ヲ區別スルコトナクシテ中葉ト末葉トヲ混ゼンカ、中葉末葉ノ乾燥ヲ見テ、元葉ノ未ダ充分ニ乾燥セザ

ルニ早クモ結束シテ輸送シ、偶々販路先ニ於テ腐敗ヲ來タシ下等品ト同一視セラル、ニ至ルベシ。而已ナラズ元葉ハ到底中葉等ノ薄キニ如カザルモノナルガ故ニ、旁々元葉中葉ハ之ヲ區別シテ結束スルコト必要也。此點ニツキテ濱中組合ノ製品ハ頗ル其宜キヲ得タルモノ也ト云フ。

(ニ) 其他ノ改良。産地ニ於テハ、乾燥ノ際降雨ニ遇フトキハ一時砂ヲ蔽フテ雨濕ヲ防グノ習ナリ。然ルニ其直接砂ニ接シタル所ハ砂粒昆布ニ深ク嚙ミ入りテ絶ヘテ之ヲ除去スル能ハズ、之ヲ俗ニあれ昆布ト稱ス而シテ此あれ昆布ヲ赤葉昆布等ト共ニ上等品ニ混入スルコト屢々アリ。是レ故意ニ出ヅルモノモアルベキモ多クハ撰擇ノ不注意ニ因スルモノナレバ、之亦組合ニ於テ嚴重ナル取締リヲナシ此ノ弊害ヲ矯正セザルベカラズ。又昆布ヲ切截スル時ニ近年一般ニ海水ヲ吹キ灑グノ慣例トナレリ。之ハ霏ケ及腐敗ヲ速ニスルノ憂アリ。而シテ舊來ハ夜露ニ濕シテ切截ニ便ニシシモノニシテ、此方法ナラバ霏ケル恐レモナク、又腐敗ヲ呼起スガ如キ事ナク安全ナレバ、寧ロ此舊法ヲ再襲スルヲ優レリトス。

(ホ) 結束ノ改良。結束ノ堅固ナルト然ラザルトニヨリ、又壹束ノ量目ヲ適當ニスルト然ラザルトニヨリ、量目ノ減損運搬ノ不便ヲ蒙ル事鮮少ナラズ。結束ノ方法從來ノ如ク堅固ナラザレバ忽チ解脫シ易ク、又支那運搬夫ニ拔取ラル、ノ損害夥シク、一駄ニ付キ約十五斤位ノ減量ハ普通ノ事ナリト云フ。濱中産ハ他ノモノニ比シ其結束稍々堅固ナレトモ未ダ完全ノモノト云フ能ハズ。之ヲ完全ナラシムルニハ細繩ヲ用ヒテ其兩端ヲ緊束スルカ、若クハ從來ノ結束ノ外ニ其兩端ヲ同ジ昆布ヲ以テ二重廻リニ緊束セバ、先ヅ解脫若クハ竊取等ノ憂ナキヲ得ベシ。次ニ一駄ノ量目ハ從來八貫目ヲ以テ慣例トシシニ、近年其ノ手數ヲ省キ又運賃其他ノ

費用ヲ掠メンガタメ、殊更ニ量目過重ナル結束ヲ爲スニ至レリ。然レトモ此ノ如キハ人夫一人ノ負担力ニ超過シ、運搬上非常ノ不便ヲ生ジ、延イテ其販路ヲ阻害スルノ虞ナシトセズ。何ントナレバ、更ニ荷造ヲ改造シ、之レヲ適當ノ量目トナシ、運搬ニ堪ヘ得ル様ニセザル可カラザレバ也。是レ甚ダシキ手數ヲ要シ又竊取等ノ機會ヲ與フルモノナリ。故ニ結束ノ量目ハ充分注意シ、些少ノ手數及費用ヲ省ク爲メニ多大ノ損害ヲ受クルノ愚ヲナスベカラズ。而シテ一駄ノ量目ハ從來ノ慣例タル八貫目最モ自然ニ叶ヒタルモノニシテ、之レ以外ニ増減セザルヲ要。

(ヘ) 証明札ヲ附スル事。支那商人ノ品質ヲ検査スルニ綿密ナルハ實ニ驚クベキモノニシテ、証明札ニ記入セル品質ノ保証ニツイテ多ク信用スルコトナシ。支那人ノ此ノ如ク検査ヲ嚴密ニスルハ畢竟中身ニ劣等品若クハ不正粗惡品ヲ混入スルモノアルヨリ一般昆布ニ不信用ヲ來シシナルナランモ、荷モ貿易品トシテ多大ノ物品ヲ賣買取引スルニ當リ、細大洩サズ検査ヲ受ケザルヲ得ザルガ如キハ、國産ノ体面ヲ汚シ製産人ノ不面目此上ナク、貿易品ノ資格ヲ缺クト云フモ敢テ過言ニアラザルナリ。サレバ此ノ如ク一見効力ナキモ強テ之ヲ附ケ、次デ品位ノ改良ヲ斷行シ、上中下ノ區別ヲ明ニシ、證明札ト實際ノ商品ト相一致スルニ至ラシメ、以テ一々昆布結束ヲ解キテ検査スルノ繁雜ナル手數ヲ要セザルニ至ラシメザルベカラザル也。

(ト) 刻昆布ニツキ。函館製刻昆布ハ東京、大阪ニテ産スルモノヨリハ其ノ製造親切ニシテ、量目ヲ増加センガ爲メニ鹽水ニ浸シ、或ハ着色上好手段ヲ弄スルガ如キ事ナク、荷造モ亦他産ノモノニ比シ遜色ナク大ニ優等ナリ。只茲ニ一言スベキハ、函館ニ於テ刻昆布ヲ洗フニ港内ノ海水ヲ以テスルモノト、外海即チ大森濱ノ

海水ヲ以テスルモノトアレトモ、其結果外海水ヲ以テ製シタルモノ貯藏久ウシテ變質ノ憂少シト云フ。蓋港内ハ汚水淡水ノ混ズルヲ以テ之ヲ外海水ニ比スレバ其ノ貯藏上ノ效力ガ比較的少キガ爲ナルベク、營業者ノ注意スベキ點也。

第四章 生産ノ狀況

第一節 生産者並ニ海産乾場

生産者。爰ニ所謂生産者トハ自ラ資金ヲ投ジ採取業ニ従事スルモノト、及ビ其レニ雇役セラレ直接ニ之レガ昆布採取ニ従事シ單ニ勞力ヲ提供シ賃銀ヲ得ントスルモノトヲ意味スルモノニシテ、前者ヲ採取業者、後者ヲ採取者ト呼バント欲ス。

採取業者ハ概チ自力ヲ以テ業ヲ營ムモノ少ク、大抵ハ他ヨリ資金ノ融通ヲ受ケテ營業スルモノニシテ、其ノ資本家(仕込親方)ハ重ニ函館ノ物産商或ハ其地方ノ仲買人ニシテ、採取シタル昆布ハ其等ノ人々ニヨリ委託販賣ノ形ニヨリ所置セラル、ヲ普通トス。今採取業者ヲ分類セバ次ノ如クナルベシ。

- 一、獨立營業者。干場主自ラ資金ヲ投ジテ採取ニ従事スルモノ也。
- 二、他人ノ干場及採取器具ヲ借リテ營業スル者。之レハ干場主ニ其採取シタル昆布ヲ引渡ス約束ヲナシ、以テ干場主ヨリ資金現品ノ仕込ヲ受ケテ營業スルモノ也。
- 三、商人ノ仕込ミヲ受負ヒ營業スル者。仲買人若クハ函館物産商ニ採取シタル昆布ヲ引渡ス約束ヲ以テ

資金ノ融通ヲ受ケ、營業ヲナス者也。

輸出昆布ノ一大產地タル根室、釧路、日高、諸國ニ於ケル營業者ハ自力ヲ以テ營ムモノ少ク、大抵ハ他ヨリ仕込ヲ受ケ居レリト云フ。釧路地方ニ於テハ明治三十年迄ハ干場ト營業權トハ分割スベカラザルモノト規定シアリタルモノナルガ、同年以後之レヲ分離シテ自由營業ヲ許可スルニ至リタルヲ以テ、干場所有主ト營業者ト別々トナレルモノ大部分ヲ占ムルニ至レリト云フ。サレバ彼等ノ生活ヲ見ルニ、其大小及場所ノ如何ニヨリテ異リ且箇々千態萬狀ニシテ一言ニ盡シ難シト雖、之ヲ概言スレバ、彼等日常生活ハ實ニ豊裕ニシテ、奢侈ヲ極メ、節約ノ念ニ乏シク寧ロ多額ノ贅費ヲ抛ツノ弊アルガ如シ。然レトモ其ノ衣食住ノ資料タルヤ皆負債ニヨリ支辨スルモノニシテ、自己ノ財産ニアラズ、其營業器具並ニ干場ニ至ル迄悉皆擔保物ニシテ、自己ノ物件ナルモ自由ニ處分スル事能ハズ、之ヲ義務消却ニ充當センカ、是等器具ハ勿論住宅家具財ニ至ル迄舉ゲ盡スモ尙負債ヲ余スガ如キモノナリト云フ。

採取者ハ、時ニ從ヒ期ヲ追ヒテ他地方ヨリ流入スル出稼人其數ニ乏シカラズ、大凡漁期一ケ月前雇主即チ親方ノ漁場ニ到リ集リ採取ノ準備ニ着手シ、時期ニ至ラバ採取及製造ニ従事シ、結束荷造運搬等一切ノ業ヲ擔當シ、斯業上欲クベカラザルモノ也。

次ニ採取業者ト採取者トノ關係ヲ見ルニ、採取者ハ雇主ヲ親方ト稱ス。此ノ稱呼ハ昔日仕入親方ト稱シシモノガ今日尙慣用セラル、ニ止リ、内地ニ於テ稱スル親方トハ其ノ性質關係ヲ異ニス。而シテ採取者ニハ永年雇入ノモノト一期雇入レノモノトノ區別アリト雖、兩者間ニハ一個ノ雇傭契約ノ羈束アルノミニシテ、古ノ

主従ノ如キ情義ノ其間ニ存スルニアラズ。採取者ハ其期間勞銀ニ對シテ義務的勞動ヲナシ苟モ閑ヲ偷ム事ヲ是レ事トシ、親方ノ休戚ヲ省ミズ唯滿期解備ノ日ヲ屈指スルノミ。親方ニ於テモ猥リニ收穫ノ多キヲ希フト共ニ、製品ノ粗雜、器具ノ破損紛失ヲ恐レ、嚴重ナル監督無慈悲ナル叱咤ヲ事トセルノ風アリテ、其兩者ノ關係甚ダ冷淡ナルガ如シ。雇期間ハ其契約ニヨルモノニシテ種々アルベシト雖、多クハ一年雇三月雇ノ二種ナリトス。雇入ノ方法モ亦種々アルベシト雖概テ次ノ如シ。

一、採取者ノ郷里ニ至リテ雇來ル方法。此ノ方法ハ資本豊裕ナル採取業者ノ採ルトコロニシテ確實ナリ。

二、雇付ケノ採取者ニ雇入方ヲ委託スル方法。之亦正確ナル方法ニシテ安全也。

三、漁夫等ノ集合地ニ於テ雇入ル、方法。函館、小樽等漁夫ノ集合スル場所ニ於テ雇入ル、モノナレトモ往々違約ノ危険アリト云フ。

四、干場近傍ニ於テ雇入、方法。最モ不完全ノ方法ニシテ逃亡違約ノ弊アリ。

此等採取者ノ状態ハ其雇入方法ニ從テ異ナリ、右ノ一ニ於ケルモノ、外ハ多クハ怠慢ニシテ小時ノ閑ヲモ偷マント欲シ、或ハ紛擾ヲ醸シ、賭博ヲ弄シ、或ハ賃銀ノ前借ヲナシ、隙ヲ窺ヒ逃亡シ、數ヶ所間ニ轉雇セラ、モノアリト云フ。而シテ此等ノ弊風ハ年々増大スルノ傾アリ。之レガ惡風取締ノ如何ハ實ニ該業ニ至大ノ關係ヲ有ス。

海産乾場。往時諸般ノ制度不備ナリシ時代ニハ、昆布場及海面使用權等ニ付キ別段何等ノ規定存セズ、唯

各漁業請負人ガ各採取ノ場所區域ヲ立テ互ニ警戒シテ相侵スコトナカラシメシ事既ニ述ベシガ如シ。而シテ此等ノ區域ハ昆布場ト稱セラレシガ、後明治十年ニ制定セラレシ地券發行條令ニヨリ、海産干場ト改稱セラレタリ。舊幕時代ヨリ行ハレ來リシ漁場請負制度ハ明治二年ニ至リ廢止セラレ、昆布場ヲ各採取業者ニ拂下ゲ一箇人ノ所有ニ歸セシムルニ至リシト雖、現今ニ於テハ此干場ハ他ノ漁場ト同ジク一ツノ權利ナルガ如ク又權利ナラザルガ如ク極メテ曖昧ナルモノナリ。乍然既ニ述ベシガ如ク、干場主ト營業者トハ別ナルコト多キガ故ニ、其間ニ貸借關係アリ。其干場料ナルモノハ一季ノ使用ヲ以テ契約シ、翌年ハ又再ビ新契約ヲナスモノニシテ、昆布生茂ノ多少採取ノ便否ニヨリ大ニ高低アリ。一隻濱分一季五十圓乃至百二十圓ナリト云フ。又地方ニヨリテハ干場料ハ採取シタル昆布ヲ以テ支辨スル契約ヲナス事アリテ、一隻濱分七石ヨリ十一二石ニ至ルト云フ。

第二節 資金及其融通方法

採取業者ハ自己ノ資力ヲ以テスルモノ極メテ少ク、極ネ資本ノ供給ヲ他ノ富商大賈ニ仰ギ、而シテ彼等ノ無教育ナル容易ニ之ヲ償還スル事ヲナサズ、年々債務ヲ重ネ終生獨立自營スルコト能ハザルニ至ル。而シテ其資金流通ノ簡便容易ナルハ一方ニ於テハ大ニ此ノ弊風ヲ助長スルト同時ニ他ノ一方ニ於テハ無經驗ノモノヲシテ斯業ニ從事シ、自力ニ數倍スルノ負債ヲ起シ效ヲ瞬時ニ期シ、僥倖ヲ望マシメ、遂ニ失敗又失敗再ビ業ヲ繼續スルコトヲ得ザラシメ、其極金主側ノ恐惶ヲ來シテ餘波、正實ナル漁業家ノ金融ヲ杜絶スルニ至ル。

サレバ假令現今ニ於テハ漁場ノ制度曖昧ニシテ又漁業者ノ信用薄弱ナリト雖モ今ニ於テ一種適當ノ金融機關ヲ設立シ、其ノ必迫ヲ融和スルト同時ニ、無經驗ノ徒ニ對スル融通ヲ防ギ其圓滑ヲ計ルニアラズンバ、全道斯業ノ繁榮蓋シ期シ難キモノアラン。

次ニ資本融通方法ノ重ナルモノヲ述ブレバ左ノ如シ。

一、委託販賣仕込ミ。此方法ハ遠ク松前藩時代ヨリ行ハル、モノニシテ、採取業者ハ採取ニ着手スルニ先チ必要費用ヲ或ル一定ノ利息ニテ金主ヨリ借受ケ、採取ノ終末ニ至テ其ノ收穫物ヲ擧ゲテ債主ニ引渡シ、販賣方ヲ委託シ、金主ハ貨物ノ時價或ハ夫レ以下ニテ買取リ又ハ之ヲ賣捌キタル後、最初貸渡シタル金額利息ヲ引去リ、又其手數料トシテ賣上代金ノ幾步カラ徴收シ、若シ收穫ノ賣上代金ト仕込高トヲ差引キシテ不足ヲ生ジタル時ハ次回ノ收穫物ヲ以テ返済セシメ、尙其ノ不足ガ數年引續キタルトキハ金主ハ仕込ミヲ謝絶シ其殘額ハ年賦等ニヨリ返却セシムルモノ也。

二、青田賣買。此ノ方法ハ他ノ漁業ニ多ク見ル所ニシテ昆布業ニ於テハ餘リ行ハレズト雖、亦絶無ニアラズト云フ。即チ未獲ノ昆布ヲ豫メ價ヲ定メテ賣渡シタルモノトナシ、其代金ヲ漁業前ニ受取り、實際收穫シタルトキニ至リテ豫約貨物ヲ金主ニ渡ス法ニシテ、金主ノ爲メニハ危險ニシテ借主ニ取りテモ亦不利益ナルモノト云ハザルベカラズ。而シテ豫メ渡シタル金額ニ對シテ利息ヲ徴スルモノト然ラザルモノトアリ。

三、普通貸借。重ニ抵當付キニシテ、或ハ未收穫物ヲ或ハ漁具漁船干場等ヲ低當物トス各地方ニ於テ多少行ハル、モノ也。

資本主ノ重ナルモノハ地方ノ漁業家、仲買人、函館物産商等ナレトモ、其外、資本主ヨリ低利ヲ以テ借出シ多額ノ口錢ヲ貪リテ採取業者ニ融通スルモノアリ、即チ一種ノ高利貸ニシテ之ヲ以テ其ノ常業ト爲スモノ、如ク、其利息タルヤ非常ナル高率ニシテ且期限來ラバ直ニ抵當タル器具等ヲ差押フルガ如キ頗ル苛酷ナルモノナレバ、斯業經營上大ニ憂フベク、早ク撲滅ノ策ヲ講ジタキモノナリトス。

第五章 集 散

昆布取引ノ最モ旺盛ナル所ハ函館港ナリトス。次ニ明治三十七年ニ於ケル各港ヨリノ昆布輸出額ヲ掲ゲテ數字のニ之ヲ證セントス。

港 名	輸 出 額		港 名	輸 出 額	
	葉 昆 布	刻 昆 布		葉 昆 布	刻 昆 布
横 濱	二九六八三	五一九五四	函 館	八一五三一六	二七七三八
神 戶	一四一、四六一	八二、六五八	其 他ノ 諸 港	一、六五一	一、三六二
大 阪	六六、〇四七	二八、六四六	合 計	一、〇五四、二五七	一九二、三五八

而シテ昆布ノ產地タルヤ廣ク本道ノ全部ニ亘ルヲ以テ各地方ニ於テ又小市場ノ存スルモノナレドモ、此等ノ小市場ハ其地方ニ於ケル產出ノ殆ンド全部ヲ擧ゲテ函館港ニ回漕シ、直接ニ海外へ輸出ヌル所ハ小樽港ヲ除キテ他ニ有ルナシ。加之小樽港ニ於ケル輸出額ハ之レヲ函館港ノソレニ比シテ極メテ少量ナルガ故ニ、爰ニ

集散ヲ述ブルニ當リテモ唯函館港ニ於ケル狀況ノミヲ以テセントス。

第一節 輸 入

明治三十七年中ニ於テ函館港ガ各生産地ヨリ輸入シタル價額數量左ノ如シ。

輸 入 先	長 切 昆 布		其 他 ノ 昆 布		合 計	
	數 量	價 格	數 量	價 格	數 量	價 格
函館近海	二五九六	一七一三四	一九一七二	三五〇四三六	二一七六八	三六七五七〇
室蘭	二七八六	一八三八八	七三	二九六	七三	二九六
三石	四八九九	三三三三三	一九五	一九〇三	二九八一	二〇、二九一
浦河	一五七七六	一〇四、一二三	六九五六	二八一九四	一一八五五	六〇、五二七
幌泉	一五七七六	四四八二二	九六七六	三九一八八	二五四五二	一四三、三二〇
大津	六、七九一	一一〇九七	二九六	一一九九	七〇八七	四六、〇二〇
釧路	一八、三四八	一一〇九七	一一、一六六	四九、二七二	三〇、五一四	一六〇、三六九
厚岸	一五、一一〇	九九七二六	四四、〇六四	二、五六二	五九、一七四	一〇二、二八八
濱中	一七、七八一	一一七、二五五	二、五六二	一〇、三七六	二〇、三四三	一、二七、六三一
根室	二九、一四一	一九、三三三	一〇、五五七	四、三三〇六	三九、六九八	二、三四、六三七
網走	四、三七二	二九、五二九	三六	三五一	四、四〇七	二九、八八〇
擇捉	二、六六五	一七、五八九	一、六一五	六五四一	四、二八〇	二四、一三〇
福山			五八六	二、三三三	五八六	二、三三三

第二節 輸 出

昆布ノ輸出ハ、種々ナル原因ノ爲ニ年々一定セザルモ、昨卅七年ニ於ケル北海道ノ輸出港仕向港及數量價額ハ左ノ如シ。

年 次	長 切 昆 布		其 他 ノ 昆 布		合 計	
	數 量	價 格	數 量	價 格	數 量	價 格
三十六年	一四七、〇四四	六五四、六九九	四九六、一八	一〇、三三六七三	一九六、六六二	一、六八八、三三二
三十五年	九〇、三三五	三九〇、九七〇	五、八九七	七四、〇七六	九六、二三二	四六五、〇四六
三十四年	一八七、五三六	一、一五九、九一〇	一九、二二一	一五七、三六四	二〇六、七五七	一、三二七、二七四
合 計	二二〇、四九八	七、八五八、六六九	一〇九、三五八	五、四一九五八	二二九、八五七	一、三二七、八二七
江 差	二三四	一、五四四	一一五	五〇六	三五九	二〇、五〇
壽 都			三八二	一、五四七	三八二	一、五四七
岩 内			六三〇	二、五五二	六三〇	二、五五二
小 樽			一五五	六二八	一五五	六二八
稚 内			一一三	一、七二八	一一三	一、七二八

仕 向 港	數 量		價 格	
	三十七年	三十六年	三十七年	三十六年
上海	三四、八九七、七二八	二七、三二二、一八六	七、五六三、四八	六、六五四、六五
增 減	三、三三三、五二二	三、三三三、五二二	九、〇八八、三	九、〇八八、三

總計	函				館			
	芝罘	天津	浦鹽	計	芝罘	天津	浦鹽	計
三七一、二二九、九九九	七九三、三三三	一、四〇一、一一三		三七〇、九二一、五五四	七九三、三三三	一、三二八、六一三	二、一三三、一三八	二、一三三、一三八
		七二、五〇〇		三七二、九五二、三七△		一、二二八、六一三		
		三〇〇△		二五二△		三〇〇		
				二〇三、〇八三		二五一		
				一四、七三〇		一、八四七		
				一、八四七△		一、八四七		
				一、八四七△		五七〇		
				七七〇△		七七〇		
				一、七九一七		一二九二八		
				三〇、八四五		九八七		
						九八七		
						三〇一		
						三七△		
						一〇△		
						二五△		
						三七三		
						四一四		
						一四八、八五七		
						六六七、四四六		
						八一六、三〇三		
						五、六七〇、七三		
						八、一五三、一六		
						三七、八三〇		
						一、五九五		
						六△		
						七△		
						一四八、二四三		
						六		
						七		
						六		
						三六、二三五		
						二、一三三、一三八		

即チ北海道ニ於ケル昆布輸出港ハ函館港以外ニ小樽港アリ、仕向港ニハ上海以外七港アリト雖、函館港ヨリ上海ヘ仕向クルモノ殆ンド全部ヲ占ムルコトヲ知ル也。而芝罘天津ニ仕向クルモノ明治三十七年ニ至リ俄然百余萬斤ノ増加アリタルハ日露戰爭ノ爲ニ北清ニ於ケル露領産昆布ノ輸入杜絶シシガ爲ニシテ、其量未ダ甚ダ多カラザルモ前途大ニ囑望スベキ事情ヲ含蓄スルモノナリ。如斯昆布貿易ハ清國ニ對スルモノ大部分ヲ占ムルモノナリ。是レ此ノ書ノ特ニ對清貿易ニツキテノミ叙述シ一言ノ露韓ニ及バザル所以也。

第三節 函館港貿易ノ現況

我が昆布輸出ハ古來全ク在留清商ノ經營ニ係リ、中頃廣業商會、日本昆布會社等起リ、此等清商ノ手ヲ借ラズ直輸出ヲ爲シシ事沿革ノ章ニ於テ記述シシガ如クナレトモ、皆失敗ニ歸シ、現今ニ於テハ依然トシテ全ク彼等ノ可ルトコロタリ。其取引タルヤ名ニ於テソソ外國貿易ナレ其實ニ於テハ内地賣買ト同一ナリ。彼ノ所謂居留地貿易ナル嘲笑の稱呼ハ其真相ヲ穿テ得テ妙ナリト云フベシ。而シテ更ニ此ノ内地賣買の貿易ニ於テ其ノ商權ハ全ク清商ノ掌握スルトコロトナリ。取引ハ一ニ彼等ノ意思ノ儘ニ左右セラレ本邦商人ハ之ヲ如何トモ爲ス事能ハザルモノ、如シ。例ヘバ其賣買價格ノ協定ニ於テ清商ハ貨物ノ品位ト本國上海ニ於ケル商況等トヲ相綜合シテ以テ其ノ價格ノ取極ニ驅引ヲナスモノナルニ反シ、本邦商人ハ不幸ニシテ清國ニ於ケル事情ヲ詳カニスルコト能ハズ、唯々恰モ暗中物ヲ探グルガ如ク清商ノ舉動ヲ見テ微カニ其ノ需要ノ程度、上海市場ノ景況ヲ推察シテ以テ代價ヲ上下シ、辛ウジテ駆引ヲ試ムルモノナレバ、其ノ結果トシテ狡猾ナル清商ハ本國ノ市場好氣配ヲ呈セルニ當リ問屋ノ覺ラザル間ニ速カニ賣買ノ約ヲ契ビ密カニ巨利ヲ博スルガ如キ事アリ。又彼等ハ團結心頗ル固ク一方ニ於テハ極力我が直輸出ヲ妨害スルト同時ニ、又他方ニ於テハ連合買入ノ方法ニヨリ相場ヲ左右スルガ如キ事アルニ反シ、我商人ハ少シモ團結スル事ナク各小資本ヲ擁シ各別ニ取引ヲナスガ故ニ、時ニ資本ノ欲乏ヨリ些々タル社會ノ變動ニモ甚シク影響ヲ感ジ、其ノ昆布ヲ販賣スルニ當リテヤ、或ハ投賣ヲ試ミ或ハ賣客ミヲ企テ以テ自然ノ變動以外更ニ市場ノ浮沈ヲ甚シカラシメ、徒ニ市價ノ變動ヲ劇シカラシムルノ趣キアル等概テ如斯。

而シテ此等ノ原因ハ種々ナル事實ガ相錯綜シテ成レルモノナランモ、惟フニ我商人ガ直輸出ノ利ヲ知ラザル

ニアラザレトモ、唯積極的意思ニ乏シク比較的危險ノ大ナル直輸出ヲナサンヨリハ寧ロ座ナガラニシテ現状ヲ維持スルコトヲ以テ甘シ、又一度失敗セバ直ニ挫折シ其ノ失敗ノ跡ヲ釋キテ再ビ之ヲ試ムルノ勇氣ナク、別ニ彼他ニ適當ノ販賣機關ヲ設ケントスルニラズ、新ニ資本ヲ集中シテ新會社ヲ組織セントスルニアラズ、只小許ノ販賣手數料ヲ得ルヲ以テ満足セルガ如キ其ノ一ツヲナセルモノナルベシ。殊ニ投資賣客ミヲナシ相場ヲシテ或ハ高ク或ハ低ク變動甚シカラシメ是ヲシテ常ニ相當ノ價格ヲ保タシムル能ハザルモノハ、畢竟當業者ガ資本ニ對スル苦痛ヲ免レントシテ只管之レガ償却ニ焦慮セル結果ニ因ルモノニシテ、其ノ原因ヲ資本ノ缺乏ニ歸セザルベカラズ。假リニ此ノ觀察ヲ以テ餘リニ極端ナリトスルモ、少クトモ此ノ如キモノアル事ハ事實ナリトス。

然レトモ又一方ヨリ觀察スルニ、貨物受渡シノ際ニ於ケル秤量ハ本邦商人之ヲナシ其ノ權衡亦本邦商人所有ノモノヲ以テシ、清商ハ唯々之レガ立會ヲナスニ止マルガ如キ、又清商ガ一般ニ本邦商人ノ組織セル海陸物産商組合ニ加盟シ同一規約ノ下ニ取引ニ從事セルガ如キ、他港ニ於テ見ルコトヲ得ザルノ事實アリテ、本邦商人ハ清商ニ對シ屈讓ノ地位ニ居ラズ寧ロ商權ヲ掌握セル點アリ。殊ニ從來北清ニ於テハ南清ヨリモ生活程度低ク、品質ノ精良ナランヨリモ價格ノ低廉ナルヲ選ムノ傾アリテ、露領産ノ粗惡ノ廉品却テ賣行キ宜シク加フルニ芝罘ニ於テハ品質ノ如何ニ拘ラズ本邦産ヲ一等品トシ露産ヲ總テ二等品トシ輸入税ヲ課セルガ爲メ、本邦産ハ常ニ露領産ニ一着ヲ輸スルノ状態ニシテ隨テ未ダ直輸出ヲ實行スルノ機ヲ得ザリシガ、這回日露戰爭ハ終ニ北清ニ對シテ露領産昆布供給ノ途ヲ絶ツテ本邦産昆布ノ需要ヲ劇増セシメ、特ニ輸出昆布ノミ

ニテ船腹ヲ充タン函館ヨリ之レガ直輸出ヲ試ミタルガ如キアレバ、函館昆布貿易モ亦左程失望スベキモノニアラス。尙聞ク所ニヨレバ當業者ハ引續キ直輸出ヲ計畫シ居レリト云ヘバ函館商人ニシテ撓マザレバ或ハ終ニ上海方面ニ向ツテモ飛躍ヲ爲ス事ヲ得、我が商權ヲ回復シ得ルニ至ルベキカ。

第六章 賣 買

第一節 商人ノ種類

長切昆布ノ生産地ヨリ函館港ヲ經テ輸出セラル、ニ至ル間ニ之レガ賣買取引ニ從事スル營業者ハ、普通之ヲ荷主、荷受問屋、及同港在留清商ノ三ツニ區別スルコトヲ得、以下順次ニ其ノ狀況ヲ畧述セン。

荷主。荷主ハ原産地ニ在リテ昆布ヲ函館港ニ送致シ其ノ販賣ヲ同港ノ荷受問屋ニ委託スルモノニシテ、採取業者ナル事アリ又仲買人ナル事アリ。前者ノ狀況ハ既ニ第四章第一節ニ於テ之ヲ叙述シシガ如シ。後者ハ各地ノ小採取業者ニツキ昆布ヲ買集メ之ヲ受荷問屋ニ送付スルモノニシテ、各地方市場所在地ニ居リ中々有力ナルモノアリト云フ。

荷受問屋。荷受問屋ハ荷主ト在留清商トノ間ニ立チ委託販賣手數料ヲ收メテ賣買ノ媒介ヲナシ、以テ荷主ヲシテ好市場ヲ發見シ清商ヲシテ容易ニ好品ヲ獲シムルモノ也。概テ京阪横神向キ内地取引ヲモナシ、又他ノ海産肥料等ノ受託賣買ヲ兼テ、道廳許可ノ下ニ函館區内ノ他ノ海陸物産ノ賣買並ニ受託賣買者ト共ニ函館物産商組合ヲ組織シ、組合規約ヲ定メ、組合員協同一致シテ營業上ノ惡弊ヲ矯正シテ信用ヲ保持シ其ノ利

益ヲ圖リ、以テ斯業ノ隆盛擴張ヲ目的トシ、別ニ組合細則ヲ設ケ賣買ノ種類、方法、輸出入受托ノ規定ヲナシ違約者處分ノ制ニヨリテ其遂行ヲ期セリ。(組合規約並ニ細則ハ卷末ニアリ)

右ノ如ク物産商組合ハ海陸物產賣買商人ノ組合ナリ。而シテ専ラ昆布ノミヲ目的トセル荷受問屋ナキ故ニ之レノミニ關シタル組合ナルモノナシ。然レトモ彼等ノ内自ラ其ノ取扱フ物産ニ差異アリテ相類スルモノハ相互ニ物産商組合以外ニ團結スル傾アリ。斯クノ如キハ其ノ各部々々ニツキテハ利益アランモ物産商組合ノ隆盛ヲ得函館港ノ繁榮ヲ來ス所以ノ道ニアラズ。サレバ組合ノ有力ナル者相計リ物産商組合ノ下ニ各部ヲ設ケシメ、各部ノ利益ノ爲ニ組合全体ノ利益ヲ害スルガ如キ行動ナカラシメントセルモノアレバ、早晚如斯組織トナルナラン。

扱昆布問屋ノ業勢ハ之レヲ分チテ二ツトナス事ヲ得ベシ。一ツハ平素上海ニ於ケル市況在留清商ノ態度等ニ注意シ、豫メ荷主ヨリ貨物ノ送付ヲ受ケ好市場ヲ見出ス毎ニ委託販賣トシテ清商ニ賣渡スモノニシテ、二ハ清商ヨリ一定ノ注文ヲ受ケ之レニヨリ所要ノ昆布ヲ荷主ヨリ送付ヲ受ケテ賣渡スモノ是也。

往時未ダ交通ノ便其他諸般ノ設備現今ノ如ク完全セザリシ時ニ當リテハ、上海市場ノ景況等ヲ知ルニ不便ニシテ市場ノ趨勢等ヲ知ルニ難ク、問屋ハ清商ノ舉動足取りニ由リ辛ウジテ駆引ヲ試ミ、賣買上投機的ノモノ多カリシガ、現時郵便電信ノ便、海外ノ狀況ヲ知ル設備ノ發達ハ上海市場ノ景況ヲシテ直チニ當港ノ市場ニ影響セシメ、問屋ハ清商ノ舉動ニ由リ駆引シ彼等ニ愚弄セラル、事ヲ鮮カラシメタレトモ、同時ニ取引上警戒ト熱慮トヲ用ヒ極メテ敏活ナル行動ヲ試ムルニ非ザレバ不測ノ損失ヲ蒙ル事アルニ至レリ。

函館在留清商。在留清商ハ現今ニ於テ輸出ノ全權ヲ掌握シ、輸出昆布ハ總テ一旦此等清商ノ手ヲ經ルモノナリ。而シテ彼等ハ又本邦荷受問屋ト共ニ物産商組合ニ加入シ之レガ規約ノ下ニ賣買取引ヲナセリ。彼等ノ企業上ノ組織ハ一個人ノ經營ニ係ルモノアリ、又會社組織ノモノモアリ、多クハ上海ニ於ケル商人ノ支店又ハ代理店等ノ如キ關係ヲ有シ、支配人ノ下ニ買入主任、會計掛リ、通信掛リ、船掛リ等アリテ分擔事務ヲ處理ス。其營業ノ仕振りハ、多クハ上海商ト本邦商トノ間ニ介立シ仲立人トナリ口錢ヲ得ルヲ目的トシ、時々電報ヲ以テ其買入貨物ヲ通知シ、上海相場ガ輸出ニ利アル時ハ先方ヨリ之レヲ通知シ來ルヲ以テ貨物ヲ積ミ送り輸出スルモノ也。而シテ清商ハ毎日各倉庫ヲ巡歴シ市場ノ在荷ヲ檢シ其商況ヲ察シ取引ノ資ニ供スルモノニシテ、其ノ歴訪ハ本國ヨリノ電報ニ從ヒ或ハ繁ニ或ハ閑ナリ。而シテ其ノ慣習上賣買ハ午後三時ヲ以テ限リトシ以後ニ至テ之ヲ爲ス事ナキガ如シ。

清商ハ一般ニ協同團結力ニ富メリ、是レ清國政府ノ薄弱ニシテ生命財産ノ保護ヲ托スニ足ラザルヨリ自衛ノ必要上自然ニ如此風習ノ發達ヲナシ、延テ商業上ニモ及ボシシモノニシテ、商業發達ノ極斯クナリシモノニアラザルベシト雖、之レガ一般ニ普及シテ能ク商業上ノ勝利ヲ占ムルハ世人ノ認識スル所ナリ。例ハバ彼等ハ同業者競争ニヨリ相場ヲ高ムル事ヲ避ケテ低價買入レヲナシ、又連合シテ昆布ヲ非常ニ高價ヲ以テ買置キ、次ニ問屋ガ此ノ景況ヲ荷主ニ電報シ荷主ガ之ニヨリテ市場ノ好況ヲ想像シ多量ノ貨物ヲ送致シ來リメルニ及ビ、又連合シテ少シモ買込ミヲ爲サズ、斯クシテ在荷ノ過多トナリ相場ノ下落スルヲ待テ大ニ買込ミヲナス等ノ如シ。然レトモ斯カル場合ニ於テ問屋ガ此ノ策ヲ察シ同時ニ資金ノ潤澤ナルマリテ高價ヲ維持シテ相下

ラザル時ハ、清商ノ連合ハ漸々崩レ各自由行動ヲ採リ忽チ仲間同志ノ競争トナリ、密ニ問屋ニ來リ自分ノ方ヘ廻サレン事ヲ依頼ニ來ルヲ例トシ、其ノ前日問屋ヲ招待シテ饗應ヲ爲スガ如キ屢々アリトイフ。サレバ問屋ニ於テハ之レヲ以テ清商側ノ聯合破レ次ニ必ズ依頼ノアルベキヲ豫想シ得ルモノナリ。然レトモ此際問屋ガ強硬ノ手段ヲ取ラントスルモ而モ如此現在饗應ヲ受ケテ見レバ餘リニ思ハシカラザル取引ト雖無下ニモ斷リ兼テ、大シタル不利ナキ限り不得止彼等ノ申込ヲ聽クガ如キ事往々アリト云フ。彼等ノ御馳走政畧ハ心中洞察セラレテ餘リニ術ナキガ如シト雖而カモ之ニヨリ成功スルアルヲ見レバ下手ノ如クナレトモ其實ハ上手ナル策ト云フベキナリ。

此等ノ外、連合團結トハ少シク異ナレトモ、彼等ハ又ちやん或ハベト稱スル策ヲ弄スト云フ。之ハ即チ最初ノ買約ヲ可及的容易ニ成立セシメンガ爲メ頗ル高價ヲ以テ買置キナガラ、次ニイザ受渡トナルヤ品物ニ種々「ケチ」ヲツケ苦情ヲ並べ法外ノ値押ヲ爲ス事ナリ。

又清商ノ事ヲ爲ス一般ニ綿密ニシテ時ニ驚クベキモノアリ。一例ヲ以テセンカ、凡ソ看貫ハ一駄八貫目ノモノ六駄四十八貫内外ノモノヲ一度ニ秤量スルモノニシテ、一度ノ秤量ト雖多クノ手數ト勞力トヲ費スモノナラガ、其ノ看貫後昆布中只ノ一條タリトモ赤葉アルヲ發見セバ直ニ之ヲ引拔キ態々秤量ヲ繰返サシメ其繁ヲ厭ハザルガ如キ、又看貫ハ我が商之ヲ司リ清商之レガ立會ヲ爲スモノナレトモ秤ガ丁度水平ニ平均シテハ彼等ノ満足スル所トナラズ、而已ナラズ種々苦情ヲ述ブルモノナレバ量目ハ常ニ其實際ノ量目ヨリ少キヲ例トスルガ如キ概テ如此。尤モ荷受問屋ニ於テモ之ヲ見込ミテ賣買契約ヲナスモノナレバ別ニ損失ヲ蒙ルニハ非ザレトモ、亦以テ清商ガ事々ニ綿密ニシテ利ニ汲々タルヲ窺フニ足ル也。

第二節 取引方法

荷主問屋間ノ取引。長切昆布ノ生産地ヨリ本港ニ運搬セラル、ヤ皆全ク舟便ニ依ルモノニシテ、産地荷主ガ商品ヲ運送業者ニ托シタル時ハ同時ニ運送業者ヨリ船積證ヲ受取ル、若シ生産地ニ銀行ノ設アル時ハ荷爲替ノ便ニ由リ其銀行ヨリ通例送付貨物ノ時價七割位（相場好況ナル時ハ八割迄、之ニ反スル時ハ半額位ニ過ギズ）ヲ領收シ、銀行ハ其船積證書ヲ當港ノ取引銀行ニ郵送ス、既ニシテ商品ノ當港ニ到着シタル時ハ荷受人即チ問屋ハ運送者ヨリ商品到着ノ通知ニ接スルヲ以テ、右當地銀行ニ荷爲替ノ代金ヲ拂渡シ船積證書ヲ受取り、之ヲ運送者ニ呈供シ商品ノ引渡シヲ受ケ、數量損傷等検査ノ上之ヲ自家得意ノ倉庫ニ搬入レシ、以テ好市場ヲ待ツナリ。而シテ問屋ハ荷主ヨリ指定ノ賣價アル時ハ其ノ賣價又ハ夫レ以上ニ非ザレバ賣却セザルモノニシテ、若シ又指値ニアラザル時ハ相當ナル價ナリト認ムル時ニ電報ヲ以テ代價ヲ通知シ貨主ノ決心ヲ聞キ、貨主時機可ナリト認ムレバ其ノ賣却ヲ依頼シ、又問屋ニ一任スル時ハ其ノ「計ラヒ」ヲ以テスルモノ也。斯クノ如クニシテ賣却ヲ了シタル時ニハ問屋ハ賣上代金中ヨリ其ノ手數料、倉敷料、運搬費、仲瀬賃、保険料、金利其他一切ノ立替金ヲ引去リ、殘餘ヲ貨主ニ送付スルモノ也。

委託販賣手數料。ハ俗ニ口錢ト稱シ、其ノ割合ハ組合規約ニヨリ賣揚金高ノ二分五厘ニシテ百圓ニ付キニ圓五十錢トナル也。

藏敷料。ハ十日ヲ以テ一期トシ、十日以内ニ出入スル貨物ハ二三日ノ藏置ト雖十分敷料ヲ以テ計算スルノ定ナリ。長切昆布ハ上、中、下、皆一樣ニ百石ニ付キ一期間現今二圓也。

利息。ハ諸立替金ニ對シテ申受クルモノナレドモ通例荷爲替金額ニ對シテ計算スルモノナリ。其ノ割合ハ時ニ由リ變動アルモ現今日歩五錢ナリ。

解及仲仕賃。ハ積荷陸揚ゲ、並ニ藏出入、貨物受渡シノ際ニ要スルモノニシテ之レガ定額表アリ。今長切昆布ニ關スル部分丈ヲ摘出シテ示セバ左ノ如シ。

長切昆布一個	解賃	藏出	藏入	秤掛
箱入刻昆布一個	一六圓	六圓	七圓	六圓

保險料。ハ海上及火災ノ二種アリ、前者ハ次章ニ述ブベシ。後者ハ倉庫貯藏中ニ付スルモノニシテ或ル特殊ノ場合ヲ除ク外稀ナリ。而シテ其ノ保險料ハ倉庫ノ種類ニヨリテ差アリ。即チ左ノ如シ。

煉瓦	庫一期	百圓ニツキ	三	錢
板	庫	八	八	錢

問屋清商間ノ取引。

問屋ガ清商ニ賣渡ス方法ニハ競争入札賣買ト隨意賣買トノ二ツアリ。此等ノ方法ニヨリ代價ノ協定ヲ終レバ貨物秤量ヲナシ、次ニ所謂「藏移シ」ヲナシテ引渡ヲ了スルモノナリ。入札賣買法ハ市場昆布ノ好況ナル時

及新昆布産地ヨリ回着シタル時等ニ於テ互ニ買進ムヲ以テ多ク行ハル、モノニシテ、個人間ノ隨意賣買法ハ右等ノ場合以外ニ行ハル、モノナリ。コレニハ清商ヨリ内商ノ荷持筋ヲ訪フテ賣買ノ談議ヲ試ムルアリ、或ハ内商ヨリ清商等ニツキ相談ヲ爲スアリ。而シテ價格ヲ定ムルハ現物臨檢ノ上爲スモノニシテ賣買約定即日清商ヨリ賣買價格ノ二三割乃至半額ノ手付金ヲ差入レ、賣主ニ於テ清商ニ賣渡シ證ヲ交付スルモノナリ。然レドモ信用ノ厚薄ニヨリ必ズシモ右ノ如クナラズ。貨物ノ受授ハ期日渡、即日渡ノ二種アレドモ多クハ期日渡シナリトス。

貨物ノ秤量ハ本邦商其ノ所有ノ衡器ヲ以テ六駄宛一度ニ秤量スルモノニシテ、清商其ノ立會ヲ爲スモノナリ。秤量ニハ入目及砂引トシテ三步二厘五毛ヲ控除スル規定アリ。而シテ此ノ三步二厘五毛ナル割合ハ如何ナルモノヲ標準トシテ計算セラレシモノナルカヲ述ベンニ、以前本港ニ於ケル清商トノ取引ニ封度目稱ノ衡量ヲ使用シシ當時ニアリテハ、昆布ヲ賣渡スニハ其ノ結束ノ大小ニ拘ラズ一秤即チ六駄ニ付キ五封度ノ入目ト一分ノ砂引(規約ニヨレバ元來二分ノ定メナリシカド其ノ一分ハ仲買人ノ所得トナルモノニシテ仲買ヲ入レザル時ハ一分ノ砂引ニ止マルナリ、而シテ本港ハ仲買ノ手ヲ經ル事少ナキヲ以テ實際ハ一分ノ砂引ナリトス。)トヲ控除スルノ習慣ナリシガ、明治三十三年ヨリ權衡ハ取引上本邦ノ貫目秤ヲ使用スル事ニ改正シタリシカバ、改正以後ノ四千貫目百石ト封度目稱ノ舊來ノ百石相當數トハ之ヲ換算スレバ約二百斤ノ差ヲ生ジ、而シテ清商ガ上海ニ於ケル授受ハ依然封度目稱ヲ以テスルガ故ニ清商ハ其儘引渡ストキハ不知不識ノ間ニ二百斤ノ損失ヲ蒙ル事トナリ、不便不尠ザリケレバ右ノ歩合ヲ改正スルノ必要ヲ認め、問屋及清商等協議ノ末入

目ハ上記ノ五封度ニ基キテ一分二厘五毛ノ數ニ改メ、(昆布一駄ハ普通八貫目ノ定メナレバ六駄分ハ四十八貫目ナリ、又五封度ハ約六百匁ナルヲ以テ前數ニテ除シタル商ハ即チ〇、〇一二五ナリ)又權衡ノ差ヲ認メ一分トシ砂引ヲ二步トシ加ヘテ三分二厘五毛ヲ控除スルニ改正シタルモノ也。
 買賣單位。ハ百石ナリ

第三節 價格

相場ノ建方並ニ相場。

函館市場ニ於ケル昆布相場ノ建方ハ概ネ百石ニ付キ圓ヲ以テス。

輸出昆布ノ相場ハ數年來次第ニ騰貴シツ、アリ、而シテ濱中産上ハ其品質佳良ナルヲ以テ其ノ相場モ從テ高ク、根室釧路産ノ上之レニ次ギ、厚岸三場所産等順次其ノ價廉ナリ。次ニ毎月ノ平均價格ヲ掲グ。

品目	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	平均
長切濱中上	五二五	五三七	五二〇	五三〇	五三〇			五七五	五二五	四三五	四八八	五四八	五二三
根室上	五三三	五三三	六二〇		五六五			七二三	六五三	七四〇	七五八	七五八	六五二
釧路上	四八七	五一七	五三〇	五二五	五三〇			五九〇	五二八	四四五	五〇〇	五五〇	五二〇
厚岸上	四六五	五一七	五二〇	五〇〇	五〇〇			七一三	六四五	七二五	七四二	七四八	六五五
三場所上	二八〇	二八〇	三〇〇	二八五				五八〇	五〇〇	四三〇	三七〇	五一七	四九〇
平均								七〇〇	六四三	七一九	七三八	七四七	七〇九

又當港ニ於ケル刻昆布ノ製造ハ總テ輸出ヲ目的トスルモノナレバ、輸出ノ不況ハ直ニ製造ノ手控ヘトナリ、産額ノ減少トナル。而シテ製造者ハ皆自己製品ノ輸出者ナレバ取引行ハル、事ナク、隨テ原料ノ價格ト工費及營業者ノ收益トヲ通算シタルモノヲ原價ト認ムルノミ。而シテ取引上ノ市價ナルモノナシ。

輸出諸掛リ。

- 一、荷造費。内地間ノ取引ニ於テハ昆布ハ一駄宛散荷ヲ以テスレトモ、輸出スルニハ三駄ヲ合シテ壹俵トシ包裝スルコト既ニ述ベシガ如シ。從テ其ノ費用並及繩代トモ一俵ニ付キ九錢也。
- 一、解賃。倉庫ヨリ出シテ本船迄積込ム費用ニシテ從テ庫出貨、仲瀬賃ヲ含ムモノトス。其ノ費用一俵ニ付キ四錢三厘也。
- 一、運賃。函館港ヨリ上海ニ至ル一俵ノ運送費ニシテ郵船同漕ニ依ルトキハ三十七錢、郵船直航ニ依ルトキハ三十錢ニテ足ル。若シ外國船ヲ雇フ時ハ二十五錢ニ過ギズ。
- 一、保險料。保險者ニヨリ又時期ニヨリ差異アルモ概テ百圓ニツキ七十錢也。
- 一、上海輸入稅。之レハ上等品ハ百斤ニ付キ一錢五分ニシテ、之レヲ壹俵ニ對シ換算センニ、今爲替相場ヲ七十四兩トスルトキハ壹兩ハ壹圓三十五錢ニ等シク、壹錢五分ハ我ガ十一錢一厘ニ當リ、而シテ壹

俵ハ約百五十斤ナルガ故ニ、壹俵ニ對スル輸入税ハ三十三錢三厘内外ナリ。

今百石七百五十圓ノ原價ニ相當スル長切昆布百石ヲ上海迄上海直航船ニ積ミ込ミ輸出スルモノトシ、其ノ諸掛ヲ計算スル時ハ左ノ如シ。但シ俵數ハ百六十六俵ノモノト定ム。是レ長切昆布一駄ハ八貫目即五十斤ニシテ三駄ヲ以テ壹俵ニ包裝スルニ由リ、該俵數ニテ約百石ノ斤量トナルナリ。

- 一、荷造費。 拾四圓九十五錢
- 一、解貨。 七圓十三錢八厘
- 一、運賃。 四十九圓八十錢
- 一、保險料。 五圓二十六錢
- 一、上海輸入税。 五十五圓二十七錢五厘

右ノ諸費ノ外、尙上海ニ於ケル陸揚貨、藏敷料、目減リ、品傷ミ等ノ諸目ヲ包含セシメ百石ニ付約二百圓ノ諸掛ヲ要スルモノト算定セバ大差ナカルベシ。本港ニ於テ買入レテヨリ上海ニテ賣渡ス時迄假リニ三ヶ月ヲ經過スルモノトセバ、昆布ノ品位及乾燥ノ如何ニ由リテ一定セザレトモ、五分乃至一割ノ目減リヲ生ズルモノアリトイフ。

相場ノ變動。

昆布ノ相場モ其ノ變動ハ亦一般貨物ノソレト同ジク、需要ト供給トノ如何ニヨリ支配セラル、モノナルコト説明ヲ要セズ。而シテ其ノ需要供給ノ増減ノ原因ニハ種々アルベシ、然レドモ昆布ノ如キ對清貿易品ニ於

テハ需給ノ如何ニ因ルノ外特殊ノ原因ニ因リ變動スルヲ免レズ。即銀價ノ騰落爲替相場ノ高低之レ也。

需要ノ増減。 昆布ハ其ノ用途或ハ沃度ノ原料トセラルレドモ其ノ重ナルモノハ食料ニ供セラル、モノニシテ、殊ニ清國ニ於テ消費セラル、モノ最重要ナルモノナレバ、其ノ需要ノ増減ハ主トシテ清國ニ於ケル消費ノ如何ニヨルモノナリ。而シテ該地ニ於ケル昆布ノ消費ノ増減ハ種々ノ現象ニ基キ千差萬別殆ンド枚擧スベカラズト雖、經濟現象トシテ明カニ捕捉シ得ルモノハ、清國人ノ購買力ノ増進即チ人口ノ増加ト收入ノ増加ナリトス。而シテ近來清國內地ニ鐵道ノ續々敷設セラル、アルハ之レガ銷路ヲ擴大シ、之レヲ購買スル人口ガ増加セルト同一ノ現象ヲ呈シ、昆布消費ヲ大ナラシムルモノナル事論ヲ俟タズ。而シテ又清國ニ於ケル輸入税ノ高低、運賃、保險料、其他ノ諸掛リノ高低ハ清國需要ニ影響ヲ及スモノニシテ、此等ガ高キ時ニ於テハ清國ニ於ケル相場從テ騰貴シ需要ヲ減退セシムベク、若シ然ラザル時ニ於テハ其ノ結果モ亦反對ノ現象ヲ呈スベキ也。

供給ノ増減。 供給ノ増減ハ生産ノ豊凶、生産費ノ増減、前年ノ持越品ノ多少等ニ基クモノ也。生産額ノ増減ノ重ナル原因ハ次ノ如シ。

- 一、流水ノ多寡。 根室、釧路等ニ於テハ毎年二三月頃流水沿岸ニ推シ寄スルモノニシテ、其團塊ノ大ナルモノハ海底ノ岩石ヲ摩擦シテ昆布ノ種子ヲ剝離スルヲ以テ、之レガ漂着ノ多少ハ大ニ昆布ノ發生ニ關係ヲ及ボスモノナリ。實ニ全國産出ノ多少ハ主トシテ此ノ流水ニ關スルモノ也。
- 一、他藻繁茂ノ多寡。 日高國ニ於テもナル海藻ガ昆布ノ發生ヲ妨グルモノアルガ如シ。

一、昆布發生ノ多寡。 渡島國ノ津輕海峽ニ面スル部分及北見國利尻禮文兩島ノ如キハ隔年疎密アリテ産額ニ増減ヲ生ズ。

一、天候ノ良否。 根室、釧路、千島ニ於テハ天氣ニ關セズ採取スルモノ多キヲ以テ採取後雨ニ遇フテ遂ニ投棄スルモノアリ。其額敢テ大ナラザルモ亦以テ産額ニ多少ノ關係ナシト云フベカラズ。

一、前年ノ製品價格ノ高低。前年ノ製品價格廉ナル時ハ今年モ廉ナラント豫想シ採取ニ從事スルモノ寡ク從テ産額少ク、反之スルトキハ産額大ナリ。

生産費ノ増減ハ直接ニ其ノ相場ヲ騰落セシムルノミナラズ亦其ノ生産額ノ増減ニモ影響ヲ及ボスモノ也。持越品トハ昨年ノ昆布ノ殘高ヲ云フモノニシテ、本年非常ノ景氣ナラバ兎ニ角、ソレガ平年ニシテ昨年ノ持越品餘リニ多キニ過グルトキハ本年ノ昆布價格ニ影響ヲ及ボスモノナリ。

爲替相場ノ騰落。 爲替相場ノ高低ハ昆布相場ニ影響ヲ及ボスモノニシテ、今假リニ對清爲替相場參着拂ニテ七十七兩ナリトシ、本邦昆布ノ相場八百圓ナリトシ、運賃其他ノ諸掛リナキモノトセバ、此ノ場合ニ於ケル清國內地ノ價格ハ六百十六兩トナルベシ。然ルニ今若シ爲替相場變動シ七十八兩トナリトセバ、清國內地ノ價格ハ六百二十四兩トナリ。若シ爲替相場七十五兩トナリトセバ六百兩トナルベシ。如斯ナルヲ以テ運賃保險料等カ差異ナカリセバ爲替相場ノ如何ニヨリ消費者ノ負擔ニ變動ヲ生ジ、從テ其需要ニ變動ヲ生ジ本邦ニ於ケル價格ノ騰落ヲ來スベキ也。爲替相場變動ノ原因ハ惟フニ爲替手形ノ需給ノ不投合ト通貨ノ純分並ニ價格ノ變動トノ二ツナリ。爲替手形需給ノ不投合ハ國際貸借ノ不平均ヨリ來リ、國際貸借ノ不平均ハ外

國貿易ノ消長ニ因リ生ズルコトアリ、外國貿易ノ消長ハ爲替相場ノ變動ニ因リ生ズル事アリテ時ニ互ニ因果ノ關係ヲ有スルモノナリ。通貨純分ノ變動ハ通貨ノ純分ノ改正、通貨ノ磨損、不換紙幣ノ發行等、人爲自然及經濟上ノ理由ニ因ルモノニシテ、屢々起リ得ベキ事ニアラザルモ、通貨ノ價格ノ變動ハ特殊ノ場合ニハ往々ニシテ生ジ爲ニ外國貿易脅カサレ相場ニ騰落ヲ來スコトアルヲ見ル也。蓋自由交通自由鑄造ノ制度ノ下ニ於テハ、金銀通貨ノ眞價ハ世界金銀相場ノ變動ニ應ジテ變動シ、金銀相場ニシテ騰貴スル時ハ金銀ヲ以テ組成セル通貨ノ純分價格ハ遂ニ騰貴スベク、若シ此ノ場合ニ於テ貿易兩國ガ同本位ナルトキハ一國ノ通貨騰貴スレバ他國ノ通貨モ亦騰貴シ、一國ノ通貨ガ他國ノ通貨ニ對シテ騰貴スルノ理ナク換言スレバ一國ノ爲替ガ獨リ騰貴スルノ理ナケレトモ、若シ本位ヲ異ニスル時ハ銀貨價ニ於テハ金ハ一ツノ商品トシテ取扱ハレ、金貨本位ノ國ニ於テハ銀ハ一ツノ商品タルニ過ギズ。其ノ價ハ地金銀ノ相場ニ伴ヒ隨テ爲替相場モ亦之ニ準ジテ昇降シ、所謂爲替ノ平準價ナルモノナク、爲替相場ニ激甚ナル騰落アルベキ也。今日清間ニ付キテ之レヲ見ルニ我國ハ金貨本位ヲ採用シ清國ハ銀貨本位ヲ採用シ互ニ其ノ本位ヲ異ニスルガ故ニ、金銀相場ノ變動ハ二國間ノ爲替相場ヲ變動セシムルモノ也。而シテ明治三十年以後ハ銀相場一時少ク騰貴セシ事アルモ、大體ニ於テ下落ノ傾向ヲ示シ、本邦ノ清國ニ對スル爲替相場ハ常ニ騰貴アリ。爲メニ昆布貿易上障礙トナルコト尠カラズ。

第七章 賣買補助機關

第一節 運輸

函館港ニ於テ集散スル昆布ハ其地理上既ニ海運ニノミ依リ、而シテ此等船舶ノ多クハ其ノ船籍ヲ當港ニ有スル事明也。現今當港ニ於ケル海運業者ニハ船舶會社(日本郵船株式會社)個人船主、及船舶取扱業者アリ、皆多少昆布運輸ヲ司ルモノ也。然レトモ重要航路ハ殆ンド郵船會社ノ掌握スル所ニシテ、會社ハ常ニ社外船主等ガ紛々タル競争外ニ立チテ盛ニ其ノ業務ヲ營メリ。而シテ其ノ航路ハ函館根室紗那線、函館大津線、函館單冠線、函館小樽線、等アリ。其他本道漁業時期或ハ海產物積出ノ時期ニ於テハ例年其支配船以外ニ臨時數隻ノ巨船ヲ回航セシメ、貨主ノ需ニ應ズルコトアリ。要スルニ本港ノ海運業ノ大部分ハ同社ノ經營スルトコロナリト云フベシ。

郵船會社以外ノ所謂社外船主ニ於テハ六七噸乃至二三百噸ノ小汽船ヲ有スルモノ多キヲ占メ、函館汽船株式會社(資本金貳拾萬圓)及北海產業合資會社(資本金拾萬圓)ノ如キハ其ノ中ノ大ナルモノ也。然レトモ概觀スレバ社外船主ハ一般ニ其ノ資力巨大ナラザルガ故ニ昆布積出季ノ如キ船舶ノ需要増加スルニ於テハ大ニ其ノ運賃ヲ高メ、然ラザル時ニ於テハ之レヲ低メ、爲ニ年中運賃一定セズ、加之船主間ノ競争ハ小資産ノ船主ヲシテ其ノ顧客ヲ得ルニ汲々トシテ誦詐權謀ヲ行フニ至ラシメ、或ハ終ニ倒産ノ否運ニ遭遇セシメシモノ鮮シトセズ。

如斯社外線ノ運賃ハ絶エズ動搖スルニ反シ、社線ハ常ニ一定セリ、而已ナラズ會社ノ根底確實ニシテ容易

ニ動搖スベキニアラザルガ故ニ、其ノ運賃ハ前者ニ比シテ三割内外高シ。サレハ平常ニ於テハ多クノ荷主ハ社外線ニ貨物ヲ托シ運賃市場活潑ニシテ騰貴ヲ見、社線運賃ト大差ナキニ至リテ郵船ニ托スルガ如シ。蓋其保險料等ノ割合モ社船ト社外船トニヨリテ差アリ縱令之レナントスルモ其ノ安固ノ點ニ於テ大差アルガ故ニ多少運賃ニ於テ多ク支拂フモ社外船ノ不備不便ヲ償フテ餘リアレバナリ。

次ニ函館ト各生産地トノ間ノ昆布百石ノ郵船會社運賃定額表ヲ示サン。(單位圓)

劍	路	厚霧	多布	岸根	室	乳香	古丹	留紗	別床	丹	泊	
四五	四五	六二	六八	六八	八二	一〇三	一三〇	七四				
網	走	斜	里	江	差	釣	掛	壽	都	岩	内	小
九五	九五	九五	三五	三五	四〇	四二	四四	四四	四四	四四	四九	四九

而シテ實際ニ於テハ之ニ對シ幾分カノ割戻シアリ、同時ニ小樽ヲ除キ他ノ積出港ニ於テ解賃ヲ要スルモノナルカ故ニ彼此相消合セテ此ノ定額表ト大差ナカルベシ。

輸出運送ニツキテハ、清國上海ニ對スルモノ殆ンド其ノ全部ヲ占ムルモノニシテ、上海方面ニ對スル海運ハ又全ク昆布輸出ノ爲ニ存スルモノ也。而シテ此ノ運輸ハ數十年來主トシテ當港在留清商ニヨリ行ハレ、外國帆船又ハ汽船即チ香港ニ精糖所ヲ置キ自家ノ製品ヲ橫神若シクハ浦鹽等ニ輸送セル「バックターフ」ノ如ク、エド、スワイヤー、商會所有或ハ雇入船ノ歸途ヲ利用セシモノ多ク、明治三十二年頃以來船舶缺乏ノ場合ニハ臨時ニ日本郵船會社ノ汽船ヲモ傭入レテ之ヲ行ヒタルコトアルモ、通例ハ郵船會社東廻船ニ依リ橫濱ニ送り

同地ヨリ上海定期船へ積載回漕スルニアリキ。而シテ之等ハ昆布ノ輸出増加ト共ニ其ノ回航數モ漸次増加シ
 明治三十六年ニハ十三隻一萬五千四百五十五噸ニ達セリ。
 又函館、上海間ノ運賃ハ左ノ如シ

品	目	單位	運	
			郵船回漕	郵船直航
長切昆布	一俵凡百六十斤	五	〇、三七〇	〇、三〇〇
			〇、二七五	〇、二五〇
刻昆布	五十封入	一	〇、三〇〇	〇、二〇〇
			〇、二七五	〇、二〇〇

貨物解船。貨物解船ハ港内汽船若シクハ帆走船ト陸地トノ間ノ貨物運搬ヲ司ル一ツノ機關ニシテ、一般海
 運業ニ必要ナルモノナリ。從テ昆布貿易ニ對シテモ間接ノ補助機關トシテ今其情況ヲ略記スルモ無用ニアラ
 ザルベシ。殊ニ當港ノモノハ他港ノモノト稍々其趣ヲ異ニスルモノナリ。當港ニ於テ現今普ク使用スル所ノ貨
 物解船ハ明治ノ初年現今ノ解業者の岡村氏ノ先代小一郎ト云フ人ノ考案ニ成リタルモノニシテ、本邦他港
 ニ於テ一般ニ使用セラル、五大力船若クハ傳馬船ト稱スルモノトハ大ニ其ノ構造ヲ異ニシ純然タル箱様ノ平
 底船ニシテ、運搬貨物ハ之ヲ船内ニ積入ルト云ハンヨリハ寧ロ船上ニ積堆スルモノナリ。且該船ノ船体ハ其
 表面凹形ヲナサズ寧凸狀ヲナセルヲ以テ本船ニツキ貨物揚卸ヲナスニ普通ノ傳馬船其他ニ比シ荷役大ニ使ナ
 ルモノアリ。是レ當港ハ三面陸ヲ以テ繞ラシ港内四時風波ヲ揚グル事稀ニシテ積荷ノ水濡レ若シクハ顛覆等
 ノ虞少キガタメ、自然如斯モノヲ案出スルニ至リタルモノナラン。而シテ其ノ形大ナルニ比シ其ノ操縦ニ多

人數ヲ要セザル事ト多量貨物ヲ積載シ得ル事トハ實ニ其ノ特色ナリ。近時一般ニ使用セラル、セノ、搭載力
 ハ小形三百石ヨリ大形八百石迄位ナリトス。

函館港運送解業組合ニ於テ定メタル現行解船運賃ハ左ノ如シ。
 汽船及帆走船解賃定額表

品	名	三百噸以上汽船帆船		三百噸以下汽船帆走船	
		解	賃	解	賃
長切昆布	三駄合	二錢	三厘九	二錢	二厘八
		一錢六厘六	一錢五厘五	一錢五厘五	一錢五厘五
箱入刻昆布	一個	一錢二厘	不詳	一錢一厘	不詳
		九厘四	八厘三	八厘三	八厘三

第二節 保險

當港ニ於テ海上保險ヲ營メルモノ左ノ如シ。

- | | | | |
|------------|-----|-----|----------|
| 日本海上保險株式會社 | 代理店 | 仲濱町 | 平出回漕店 |
| 東京海上保險株式會社 | 〃 | 船場町 | 坂井回漕店 |
| 帝國海上保險株式會社 | 〃 | 東濱町 | 第三銀行函館支店 |

North China Insurance Co. 仲濱町 英商ハウル社
Canton Insurance Office.

以上五個ノ保險會社ハ到ル處各代理店ヲ設置シテ其ノ業ヲ營メル事右ニ於ケルガ如シト雖、未ダ本支店ヲ開設シタルモノナシ。而シテ此等内外國海上保險會社ト昆布トノ關係ヲ見ルニ、其ノ業態必ズシモ一轍ニ出デズシテ、内國各保險會社ハ一般ニ内國諸港向ト常港輸入ノモノトヲ取扱ヒ海外輸出品ヲ取扱ハズ、反之外國保險會社ハ在留清商ニ由リテ上海其他ノ清國諸港ニ輸出セラル、モノヲ主トシテ其ノ目的トスルモノ也。故ニ右兩者ノ得意先各別ニシテ此間競争等ノ行ハル、事ナシ。海上保險ノ種類ハ全損(特擔分損不擔保)分損(特擔分損擔保)共ニ行ハルレトモ、後者ハ昆布ニアリテハ特ニ保險料割合ヲ協定シテ擔保スル場合ノ外保險者ニ於テ擔保セザルガ故ニ概ネ全損ヲ付スルモノナリ。

日露戰爭以前ニ於テハ露商「セメノフ」商會保險會社ノ代理店ヲナシ盛ニ清商ヲ得意トナシ居タリシガ、此ノ事件以來引上ゲテ閉鎖セリト云フ。

保險料ハ船舶ノ種類、堅脆ノ度合、船長ノ良否、航路ノ難易、時候ノ善惡、貨物ノ性質、荷造リノ精粗等ニヨリ差異アリ殆ンド一定シ難シト雖、孰レモ保險金額ニ對シテ其ノ割合ヲ定メ、普通壹百圓ヲ建トシ全損ナラバ幾何、分損ナラバ幾何ト其ノ都度規定ニ照シテ之ヲ定ムルモノニシテ、帆船積ナル時ハ汽船積ニ比シ、

- 一、夏季(自三月十五日 至十一月十四日) 汽船積全損保險料ノ五倍
- 一、冬季(自十一月十五日 至三月十四日) 〃 〃 〃 七倍

ノ割増ヲ要スルモノナリ。而シテ冬季ハ夏季ヨリ海上風波荒クシテ時ニ流水ニ出會スル事アリテ、帆船ノ如キニアリテハ汽船ニ比スレバ危險ノ度大ナルニ因リ保險料モ高カラザルベカラザル也。分損擔保ハ全損擔保ニ比スレバ其ノ危險ノ度大ナルガ故ニ大ナル割増ヲ要スルモノ也。而シテ他ノ貨物ニ比シ昆布ノ割増率頗ル高キハ「サワテ」(濡損ノ事)等ノ場合ニ於テ適當ノ荷造リナキガ故ニ其ノ害ヲ蒙リ易ケレバナリ。然レトモ船體ノ乗揚ゲ火災衝突沈没ノ場合ニハ全損分擔ノ別ナク此等ノ制限ニ拘ラズ其ノ損害ノ辨償ヲナスヤ勿論ナリ今參考ノタメ東京海上保險會社ノ汽船積通常貨物特擔分損不擔保規定保險料ヲ示ス。(但シ得意ニヨル割戻等ハ知ルコトヲ得ザルモ大ニ差アルガ如シ。)

- 室蘭、福山、江差、ヨリ函館迄……………十 錢
- 壽都、岩内、小樽、余市、厚田、濱益、増毛、ヨリ函館迄……………十 八 錢
- 根室、花咲、釧路、濱中、霧多布、厚岸、浦河、利尻、焼尻、ヨリ函館迄……………二十 八 錢
- 枝幸、紋別、網走、國後島、ヨリ函館迄……………四 十 錢
- 擇捉ヨリ函館迄……………五 十 五 錢

又外國保險會社ノ清國輸出ニ對スル保險料ハ全損ニテ五十錢或ハ六十錢位、分損ナルトキハ五六割増ニシテ時々變動シ又得意ニヨリ割戻等差異アリ。

保險申込ヲナスニハ、船積證書ヲ保險者ニ示シテ申込ムベキモノナレトモ、今日多クハ之ヲ示サズシテ直ニ貨物保險申込書ニ要件ヲ記入シ、保險會社ニ差出ヌヲ常トス。又平常保險申込ヲナス顧客タル被保險者

ニハ會社ハ一冊ノ通帳ヲ與ヘ置キ、保險料ハ保險申込ヲナス都度受取ラズシテ當座勘定トナシ、月末會社ニ拂込マシムル方法ヲ取ルト云フ。

保險申込ハ搭載シタル船舶ノ出帆前ナルヲ通例トナセトモ、保險手續ヲナス暇アラザル場合ニ於テハ出帆後ナスコトアリトス。然ル時ハ出帆後二十四時間以内ニ其レニツキ未ダ危險ガ發生セザル事ヲ證明シタル上契約ヲ取結ブモノ也。是レ保險申込ヲナシタル時ニ於テ或ハ既ニ其被保險物ニ危險ノ發生シ居ルヤモ計リ知ルベカラザレバ也。

第三節 倉庫

昆布ガ生産地ヨリ函館ニ回漕セラル、ヤ、荷受問屋ハ之レヲ受取りテ販賣ヲ了ル迄之レガ保管ヲ爲サザルベカラズ。然レトモ問屋ニ於テ自ラ其ノ取扱ニ係ル貨物ヲ藏置セントセバ爲メニ相當ナル建物ヲ要シ、殊ニ昆布ノ如キ嵩張リタル貨物ニアリテハ其ノ設備亦大ナルヲ要シ、地代トシテ巨價ヲ支拂ハザルベカラズ、時々ノ修繕費及敷地建物ニ對スル税金亦少クナラザルベシ、且之レガ爲メニ相當ノ人員ヲ備用スルノ必要アリ、又季節ニヨリ間斷ナク之ヲ利用スル事能ハズ之レヲ空ウスルノ不利ハ到底免ルベカラズ。然レトモ若シ此等ノ貨物ヲ種々ナル方面ヨリ各種類ニ互リ受托スルヲ専門トスル營業者ニ寄託セバ上記ノ費用ハ著シク節約スルコトヲ得、且ツ倉庫ノ發行スル預リ證券ハ以テ貨物ヲ賣買スベク、質入證券ハ擔保ニ供シテ金融ノ使ヲ得資本ヲ遊置セシノザル等種々ノ便利アルガ故ニ、各問屋ハ皆貨物ヲ倉庫業者ニ託シテ自ラ藏スルモノ一

人モアルコトナク、倉庫業ト昆布取引トハ密接ナル關係ヲ有スルモノ也。

現金當港ニ於ケル倉庫業者ハ拾一名ナリ。而シテ其中昆布ト最モ關係ノ深キ倉庫ハ次ノ如シ

④ 柳田藤吉倉庫

新濱町及臺場町

森 渡邊熊四郎倉庫

船場町

安田商事合名會社倉庫

豊川町

山縣勇三郎倉庫

〃

龍紋 山田啓助倉庫

真砂町

右ノ外、郵船會社函館支店倉庫モ亦昆布ト關係セルモ倉庫營業ノ目的ノ爲メニ存スルモノニアラズシテ稍々其ノ趣ヲ異ニスルガ故ニ右ノ中ニ加ヘズ。

此等ノ倉庫營業者ハ函館倉庫業組合ヲ組織ス。其ノ貨物取扱要項ナルモノ、中、昆布ニ關スルモノヲ摘出シテ掲グレバ左ノ如シ

- 一、倉庫ハ貨主ヨリ貨物藏入ヲ申込ム時ハ必ズ申込書ヲ要シ現品調査ノ上倉入スルモノトス
- 一、保管貨物證券記入方ハ員數ハ勿論(中畧)貫量物ハ貫位ニ止ム
- 一、長切昆布ハ長尺、中尺、短尺、產地(國名)束數記入ノ事
- 一、保管貨物ノ見本摘出又ハ一見ヲ求ムルモノハ必ズ預證券ヲ持參スルモノトス
- 一、保管貨物ヲ乾燥又ハ荷造變更スル時ハ預證券ヲ持參スベシ若シ減量又ハ異狀アル時ハ其ノ理由ヲ證券

ニ記入スベシ

- 一、保管料ハ貨物出庫ノ際支拂ヲ受クベシ
- 一、貨物庫入人夫ハ總テ倉庫人夫ヲ以テシ其費用ハ貨主負擔ノ事
 - 但昆布等ハ員數受授ニ限り特ニ倉庫常人夫ヲ以テス其ノ費用ハ寄託者之レヲ負擔スルモノトス
- 一、保管満期又ハ證券書換ノ際ハ更ニ貨物ノ調査ヲ行フモノトス其ノ費用ハ寄託者ノ負擔トス
- 一、預證券書換又ハ商法第三百六十一條ノ場合若クハ全種類ノ貨物ニツキ證券ノ分割ヲ求ムル時ハ貨物ノ多少ニヨリ一通乃至三通以外預證券質入證券各一葉毎ニ手数料トシテ金五錢ヲ要ス
- 一、寄託貨物保管上寄託者ハ賣買讓與ノ場合ニハ其ノ旨倉庫者へ通知アルベシ

右之通

明治三十三年十月

而シテ寄託物保管中倉庫ニ於テ損失ノ責ニ任ズルハ、雨漏、竊盜、紛失ノ場合ニ限ルモノニシテ、天災事變強盜其他抗拒スベカラザル災厄ニ罹リ、又ハ鼠喰蟲入其他寄託物ノ性質氣候ノ變遷ヨリ生ジタル損害ハ之レヲ填補セザルモノナリ。又保管満期ニ至リ寄託物ノ出庫ヲナサバカ又ハ寄託繼續ノ手續ヲ怠リタルトキハ満期後ハ貳倍ノ保管料ヲ支拂フベキモノニシテ、且保管満期後ノ損害ハ倉庫其責ニ任ゼザルナリ。預證券及質入證券ハ寄託者ノ請求ニ因リテ交付スルモノナルガ、此等ノ證券ヲ要セザル場合若シクハ預證券作成迄ハ假庫入證ヲ交付スルモノナリ。

保管料ハ十日ヲ以テ一期トシ十日以内ノ端日數ハ一期ニ算入シ十日間ノ保管料ヲ支拂フベキモノナリ。一期ノ保管料ハ左ノ如シ。

長切 昆布	上、中、下	一 駄	四 厘
刻 昆布	函 入	一 個	八 厘

又倉庫坪貸ノ料金ハ、其ノ所在地ノ便否及季節ノ繁閑ニヨリ大差アリ。即チ一ヶ月一坪ニ付キ煉瓦及土藏ハ最低一圓ヨリ最高二圓ニ至リ、概シテ一方ニ偏在セル所ハ多クハ壹圓位ニシテ普通ハ一圓五十錢内外ナリトス。木造倉庫ハ前記ノ六掛乃至七掛ナリト云フ。

郵船會社ノ倉庫ハ自家運送業ノ爲ニ設備シタルモノニシテ其ノ目的ハ貨物ノ保管ニアラザルガ故、貨物陸揚後規定ノ日數即貨物積載船入港ノ日ヨリ五日間ハ敷料ヲ徴セズ、六日目ヨリ左記ノ割合ノ日割ヲ以テ期定スルモノ也。

長切 昆布	上、中、下	百石	十日間	二圓八十錢(一駄五厘六毛ノ割)
刻 昆布	布	二才七分	一個	一 錢

右ニヨリ明カナルガ如ク、郵船倉庫敷料ガ常ニ他ノ營業倉庫敷料ニ比シテ高率ナルハ蓋貨物ノ堆積ヲ避クルガ爲メノ便法ニシテ、敷料ヲ徴スルハ本來ノ目的ニ非ザレバ也。

第四節 銀行

當地ニ於ケル銀行ガ昆布ニ關シ爲ス仕事ヲ大別シテ三ツトナスコトヲ得ベシ。曰ク生産者ニ對スル金融、曰ク荷中問屋間ノ貸借決濟、曰ク在留清商ト上海商人トノ間ノ貸借決濟之也。

一、銀行ニシテ直接ニ生産者タル採取業者ニ對シテ貸出ヲナスモノナシト雖、北海道現時ノ漁業組織ニ於テハ、生産者ハ製造業者ヲ兼ネ、時トシテハ又販賣業者ヲ兼ネ營ムノミナラズ、銀行ノ取引先タル商人等ハ物産商ヲ營ミ漁業者ニ對シテ仕込資金ヲ貸與スルモノ多キガ故ニ、此等ニ對シ商業資金トシテ貸付ケタル銀行資金ハ實際上漁業資金トシテ利用セラル、モノナル事疑ヲ容レズ。而シテ銀行家ガ直接ニ漁業者ニ對スル貸出ノ門戸ハ未ダ開カレズト雖、稀レニ其ノ之レヲナストキニハ其擔保ハ主トシテ物品擔保ニ由リ、金額ヲ小口ニ止メ償還ヲ短期ニ制限シ、已ムヲ得ズシテ長期ニ亘ルコトアルモ勉メテ數回ノ小短期ニ分賦償却セシムルノ方法ヲ採用セルモノ、如シ。

而シテ此等銀行ノ金融ニハ自カラ繁閑ノ二期アルモノナリ。仕込季及取引販賣季ナル四五月ヨリ九十月迄ニハ金融頻繁トナリ、其他ハ甚シキ閑散ノ狀況ニアルモノニシテ、閑時ニハ其資金ノ利用ニ苦ミ繁季ニハ其ノ資金ノ繰出ニ堪ヘズ、動々モスレバ自ラ手形ニ裏書シテ再割引ヲ日本銀行ニ求メザルヲ得ザルガ如キモノアリト云フ。亦以テ資金需要ノ如何ニ急ナルカラ知ルニ足ルベシ。故ニ北海道ニ於ケル銀行業者ガ漁業緣故ノ貸出金ニ對シ嚴重ナル態度ヲ探ルヲ常トシ、擔保若シクハ信用ノ確實ナルモノニアラザレバ劣メテ之ヲ謝絶セントスル風ヲ生ジタルガ如キハ自然ノ數ト云フベク、是等ノ銀行者ガ到底薄資漁業者ニ満足ヲ得シムル邊ナキモ亦止ムヲ得ザルノ勢ナリト云ハザルベカラズ。而シテ其金利ノ如キ亦漁季ニ臨ミ多少ノ昂騰ヲ見ルハ

間ジク漁業ノ繁閑アルノ致ストコロナリトス。

近時水産銀行設立ノ議アリ。既ニ議會ニモ提出セラレタルモノナレトモ、日露戰爭經費多端ノ折柄未ダ設立ノ時日ハ確定スルニ至ラズ。但シ其ノ時迄北海道殖産銀行ニ於テ其ノ事務ヲ取扱フ事トナリタレバ大ニ便宜ヲ得ルナルベシ。殊ニ水産銀行設立セラル、ニ至ラバ本道水産業ノ發達ハ猶一層見ルベキモノアルニ至ラ

ン。

二、荷主ト問屋トノ間ニ爲替ノ行ハル、事既ニ述ベタリ、而シテ昆布取引上重要ナル銀行ハ根室銀行及第十二銀行ニシテ、前者ハ釧路、厚岸、浦河、網走等ニ、後者ハ根室、函館ニ各支店ヲ設置シ荷爲替送金ノ事務ヲ取扱ヘリ。其方法ノ如キハ一般普通ノモノト別ニ差異アルコトナシ。而シテ荷爲替取扱高ハ貸付取扱高ニ比シ甚ダ少シ。之レ畢竟北海道ニ於ケル商品運送ノ方法幼稚ニシテ荷爲替ヲ付スルニ於テ多少ノ危険ヲ感ズルガ爲メニシテ、無責任ナル運送業者及海商等ノ船荷證券ニ悉ク信ヲ置キ難ク或ハ貨物ニ保險ヲ付セザルノ類多キヲ以テ、縱令荷送人荷受人ハ之ヲ甘諾シテ授受ヲナストスルモ、其積荷ヲ信賴シテ貸付ヲナス銀行者ニ於テ信ズベカラザル船荷證券ヲ信ジ、無保險ノ物モ安ンジテ裏書授受ヲナスガ如キ勇ナキハ毫モ怪ムニ足ラズ。然レトモ比較的上記ノ弊少ナキ日本郵船會社ハ近年其北海ニ於ケル航路ヲ擴張シ、又所謂社外船中ニモ漸次多少ノ改良ヲ施スモノアルガ故ニ、荷爲替ノ進歩モ亦近來見ルベキモノナキニアラズト雖、尙積弊ノ大ニ革新セザルベカラザルモノアリト信ズ。

三、清商ト其ノ本國商人トノ間ニ於ケル貸借決濟ハ直接ニ行ハレズ。蓋外國爲營業ハ函館其ノ他北海道各港

ニ於テ未ダ經營セラル、時期ニ達セザル也。唯間接ノ方法ニヨリテ其ノ缺ヲ補フノ途備ハレルニ過ギズ。然レトモ代金ノ授受ハ貿易ノ半面ナレバ、貿易ノ發達ニ伴ヒ外國爲替業ノ早晚開始セラレベキハ自然ノ數ナリト云ハザルベカラズ。而シテ此等在留清商ハ横濱神戸若シクハ大阪ニ於テ内國貨幣ニ換算シ内國爲替トシテ受領スルモノニシテ、此等取扱銀行ハ第百十三銀行及三井銀行函館支店(三十八年八月十五日限り閉業)ナリ如斯直接外國爲替事業ノ經營セラレザルハ(一)函館港ガ海外要港ニ對スル直接定期航路ノ連絡未ダ見ルベキモノナク、昆布其他ノ海産物、木材、硫黄、對露亞細亞貿易品、及石油等ヲ除キ直接海外諸港ト取引セラル、モノナク、他貿易港ノ媒介ヲ俟ツモノナル事ト(二)貿易ノ一半ヲ占ムル對露亞細亞貿易品ハ多クハ漁業ニ關係セルモノニシテ毫モ外國爲替ノ需要供給ニ參加セザル事トガ國際貸借ヲ惹起スル金額ヲシテ左程大ナラシメズ、且内外爲替ノ換算并ニ轉送ガ容易ニ行ハル、ガ故也。

如斯函館港ニハ外國爲替ヲ取扱フ銀行ナク從テ手形ノ賣買ハ總テ横濱若シクハ神戸ニ於テシ、函館ト此等ノ開港トノ間ハ内國爲替ノ法ニ依ルヲ以テ、其ノ幾何カ、昆布貿易ヨリ生ジタル外國爲替トナルベキモノナルカハ識別スルコトヲ得ズト雖、在留清商ニ宛テタル横濱若シクハ神戸ヨリ送金セルモノ、中大部分ハ其レナルベシト推定スルモ甚シキ誤謬ニアラザルベシ、次ニソヲ示ス。

一	月	年	三	十	七	年	三	十	六	年	三	十	五	年
一	月	年	五	九	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
			一	〇	二	四	七	七	九					
			四	〇	〇	五	二	二						

二	月	一五、八〇〇、〇〇	九、〇〇〇、〇〇	四六、九〇〇、〇〇
三	月	七、〇〇〇、〇〇	一九、〇〇〇、〇〇	一〇、二〇〇、〇〇
四	月	八、〇〇〇、〇〇	二三、五〇〇、〇〇	五、七〇〇、〇〇
五	月	二、〇〇〇、〇〇	二五、〇〇〇、〇〇	一一、〇〇〇、〇〇
六	月	八、〇〇〇、〇〇	二、五〇〇、〇〇	一四、〇〇〇、〇〇
七	月	三九、〇〇〇、〇〇	五五、五〇〇、〇〇	五七、〇〇〇、〇〇
八	月	一六九、七〇〇、〇〇	一一一、〇〇〇、〇〇	八八、五〇〇、〇〇
九	月	二五二、四五〇、〇〇	七三、〇〇〇、〇〇	六八、〇〇〇、〇〇
十	月	二五七、六五〇、〇〇	二一九、〇〇〇、〇〇	一〇七、一二〇、〇〇
十一	月	一五〇、〇〇〇、〇〇	三三、五〇〇、〇〇	五八、二五〇、〇〇
十二	月	八九、〇〇〇、〇〇	七八、〇〇〇、〇〇	一一、一〇〇、〇〇
合	計	一、〇五九、六〇〇、〇〇	六六九、二四七、七九	五一九、八二二、二二

要スルニ、對清貿易ニ關シテハ右ノ如ク餘リニ不使ヲ見ズシテ決済シ得ルト同時ニ、之レガ片貿易ナルヲ以テ函館港ニ於テ決済ヲ結了スルコト能ハザルガ故ニ、其取引額ノ多大ナルニ拘ラズ容易ニ外國爲替業ノ開始ヲ見ルノ望ミナキモノ、如シ。

第八章 需要地ノ概況
第一節 需要地

昆布ノ一大需要地ハ四億有餘萬ノ人口ヲ有スル清國ニシテ本邦産昆布ノ約九割内外ハ實ニ同國ノ吸收スル
トコロナリ。其ノ需要ノ廣大ナル、其ノ消費力ノ旺盛ナル、今後益々増進スルコトアルモ決シテ減退スルノ
状態ナキハ累年ノ昆布産額ト輸出額トヲ比較スルニ於テ之レヲ推察シ得ルナリ。

清國ニ於ケル消費地ハ海岸線ニ沿ヒタル所ニ少ク、江河ノ便ニ依リテ運搬ノ自由ナル奥地ニ多キガ如シ。
各省ニ於ケル消費ノ割合ヲ記セバ次ノ如シト云フ。

四川	本省	本邦産輸入昆布ノ約	三	割	三割内外
江西	省	〃	二	割	二割内外
湖南	省	〃	一	割	一割内外
湖北	省	〃	一	割	一割内外
直隸省	ヲ主トシ其ノ他ノ諸省	〃	二	割	二割内外

葉 昆 布 刻 昆 布

清國諸省中山東山西等ノ北清地方及江蘇省等ハ主トシテ二番以下ノ廉價ナル昆布ヲ需要スルニ過ギズシテ本
邦産昆布ノ消費額ノ大ナラザルハ前記ノ割合ヲ見ルモ其ノ大体ヲ察スルコトヲ得ベシ。蓋其ノ主トシテ需要
スルトコロハ我昆布ヨリ劣等ニ屬スル露領産昆布ノ得意場ナレバ也。實ニ我昆布ノ最大消費地ハ是等ノ北清
地方ニアラズシテ清國ノ寶庫ト目セラル、揚子江沿岸ノ諸省即チ四川、湖北、湖南、江西等ナリトス。元來
同地方ハ一帯ニ平原ニシテ到ル所水利ノ便アリト雖モ、一利一害ハ免ルベカラズ、該地方ハ土地低濕ナルヲ

以テ總ジテ貨物ノ保存甚ダ難ク又假令之ヲ貯藏セズトスルモ道途極メテ遠キ上未ダ瀛車ノ便ナキニヨリ、貨
物ヲ需要者ノ手ニ到達スル迄ニハ幾多ノ時日ヲ要スルヲ以テ、乾燥不充分ノモノニアリテハ中途ニシテ微損
ヲ蒙ルモノ多シト云フ。之レ昆布ヲ始メトシ其ノ他ノ海産物ノ特ニ充分ナル乾燥ヲ要スル所以ニシテ特ニ注
意スベキ事項ナリトス。刻昆布モ荷造ノ脆弱ナルモノハ長途ノ運搬ニ堪ヘザルヲ以テ可及的厚板ヲ以テ堅固
ナル荷造リヲ必要トスルモノナリ。此點ニ於テ函館製ハ東京大阪製ニ比シ稍々堅牢ナリト云フ。

以上ノ如ク昆布ハ各地ニ於テ需要セラル、ト雖、其間自カラ産地ニヨリ需要地ヲ異ニスルモノアリ。固ヨ
リ清人ハ直接本邦ト取引スルモノ、外悉ク産地ヲ意識セルニハアラズ、從テ昆布ノ産地別ニヨリテ嗜好ヲ異
ニスルモノニアラズト雖、其ノ賣行ノ盛否ハ其ノ乾燥ノ良否ニ起因スルモノニシテ、産地ヲ異ニセバ其ノ製
法乾燥ニ自ヅト品位差等ヲ生ズルモノナルガ故ニ、其ノ品質ノ選擇ガ偶然ニ産地別ト同一ノ歸着トナリシモ
ノ也。今産地別ノ販路消費地ヲ擧グレバ左ノ如シ。

根室産ハ薄葉ニシテ鹹氣強ク變質ノ憂少ナキヲ以テ遠ク四川地方ニ賣行キ需要セラル。濱中産其他厚岸、釧
路、白糠産ハ一體ニ品質佳良ナレバ何レノ地方ニモ適シ、揚子江沿岸及天津地方一般ニ賣行キ宜シキモ、乾
燥ノ良否ニ依リ廣狹消長アルハ明カナリ。濱中産ハ比較的厚葉ナルモ乾燥ニ於テモ製造ニ於テモ能ク改良ニ
注意シアル爲メニ他ニ擬ンデ、需要廣キニ涉リ、釧路産モ近來大ニ勢力ヲ現ハシ來リシハ改良ニ見ルベキモ
ノアルガ故ナリ。三場所産ノ如キモ品質ニ於テ敢テ前者ニ讓ラザレトモ、乾燥不充分ナルクメ變質ノ虞アル
ヲ以テ好販路ヲ得ルコト甚ダ覺束ナシ。特ニ秋取りニ至リテハ不良甚シク殆ンド絶對ニ支那輸出ニ適セザル

也。檜山及松前附近ノ昆布ハ露領産ニ酷似セルヲ以テ芝罘及牛莊、滿洲ノ需用ニ適シ、乾燥ヲ充分ニセバ露領産ニ拮抗スルコトヲ得ベシト云フ。

第二節 集散

明治三十七八年ニハ日露戰爭アリタル爲メニ、北清ニ對スル露領産昆布ノ輸入杜絶セラレシカバ、本邦産昆布ハ代テ該地方ニ需用セラレ三十七年ニハ芝罘天津兩港へ百餘萬斤ノ直輸出アリシガ、我が昆布ノ最大需要地ハ南清ナリ、從テ其ノ輸入港ハ上海、芝罘、天津、香港等諸所アルベキモ輸入額ニ於テ上海單リ巨額ヲ占メテ優ニ他ヲ凌駕スルモノ也。既ニ上海ニ希込マレタル昆布ハ如何ナル狀況ニ於テ内地需要地ニ分配セラレ、カヲ見ルニ、其ノ重ナル銷路ハ楊子江沿岸ノ鎮江、蕪湖、九江、漢口、沙市、宜昌ヨリ四川、重慶等ニシテ要スルニ楊子江沿岸ハ殆ンド之レガ供給ヲ上海ニ仰グモノトス。惟フニ楊子江ハ世界有數ノ大河ニシテ清國中部商業ノ發達ニ至大ナル關係ヲ有シ、上海榮枯ノ命脈ノ繫ルトコロ。舟運ノ便ハ四川ノ地方ヨリ開ケ重慶以下ハ百噸以上ノ支那船往復シ、宜昌以下ハ一千噸ノ汽船ヲ通ジ以テ上海ヨリ溯リテ此等ノ地ニ到リ得ル也。以是昆布ノ清國ニ分輸セラル、ハ主トシテ上海ニ直輸セラレ、夫レヨリ長江ヲ溯リテ鎮江、蕪湖、九江、漢口、沙市、宜昌、重慶等ノ要港ヲ經テ其ノ附近地方ニ分輸セラレ、北清地方ニ至ルモノハ更ニ天津、芝罘、牛莊等ヲ經、又南清地ニ至ルモノハ重ニ香港ニ輸入セラレ、更ニ廣東、厦門等ヲ經、消費地ニ分配セラレ、モノ也。上海ニ於ケル昆布集散ハ左ノ如シ。

輸入

品名	仕出地	外國		支那各港		合計	
		呼數	量價	呼數	量價	呼數	量價
一等品(日本産)	擔	三二五	四三三七	一七九	四六五	三二五	六〇一六
赤昆布(露國産)	擔	一〇〇	八			一〇〇	八
黑昆布	擔	七二		一七九	四六五	七二	一四三〇
總計				一七九	四六五	七二	八五一四九四

内再輸出

品名	仕向地	外國及香港		支那各港		合計	
		呼數	量價	呼數	量價	呼數	量價
一等品	擔	六六四	一七二七	三六〇	九八五	六六四	一七二七
赤昆布	擔			一〇九七	五二五四		
黑昆布	擔			五四	一〇七五		
總計		六六四	一七二七	五四	一〇七五	六六四	一七二七

上海ヨリ各港ニ輸送スル割合ハ之レヲ詳細ニ查敷スルヲ得ズト雖、明治三十六年大阪商船會社所有船ニヨリ分配セラレタル割合ハ下表ノ如シ。之レ固ヨリ輸入全額ノ數分ノ一ニ適ギザルベキモ、以テ楊子江各港ガ上海港ニヨリテ需用スル昆布割合ノ程度ヲ窺フニ足ランカ。

地名	長切	昆布	刻	昆布	布	合	計
鎮江	一、三四二					五〇〇	一、八四二
九江	一二〇						一二〇
漢口	二二、一六九			八一三		二二、九八二	
沙市	四八三			三、一七三		三、六五六	
蕪湖	六三二			一九二		八二四	
宜昌	六、九七〇			一、一〇三		八、〇七三	
合計	三二、七一六			五、七八一		三七、四九七	

昆布ノ賣買ノ最モ盛ナルハ支那製茶及農産物ノ出廻季節ニシテ、陰曆七月ヨリ十月迄トシ、支那内地商人ハ製茶農産物ヲ上海ニ輸送スルト同時ニ昆布ヲ仕入ル、ヲ習慣トス。長江上流重慶方面ノ如キハ春暖雪解ケ揚子江滿水急流ノ季ニ乗ジ、四月頃地方産物ヲ上海ニ送下シ、秋季漸ク揚子江水涸レ流緩ナルトキニ向ツテ昆布ヲ仕入レ湖航スルモノニシテ、之レニ次グハ十一月ヨリ翌年一二月ノ頃迄トス。其ノ他ハ極メテ閑散ノ季節ナリト云フ。其ノ他陝西、湖南、湖北、河南等ノ諸省皆河流ノ便ニ由ルガ故ニ概ネ四川ト其ノ趣ヲ同ウスト云フ。

一般ニ此地方ハ貨物ノ貯藏困難ナルガ故ニ、昆布ノ如キモ間屋其ノ他ノ商家ニ於テ一時ニ多量ヲ貯藏スル事ナク消費スルニ從ヒ隨時之ヲ補充スルニ止リ、本邦ヨリモ一時ニ多量ノ輸送ヲ受クルコトナシ。若シ之レヲ爲サンカ永ク倉庫ニ堆積セシメザルヲ得ズシテ遂ニ微損ヲ受ケ價格暴落シ結局損耗ニ終ランノミ。本邦直輸出ノ嘗テ失敗セシモ主トシテ之レニ原因セズンバアラザル也。

四川地方ニ於テハ悉ク昆布ノ荷造リ結束ヲ解キ、僅カ一握位ノ大サニ分テ、丁寧ニ白紙ヲ以テ之ヲ包ミ、兩端ヲ上等ノ麻糸ニテ正シク結束シテ賣買スト云フ。其他二葉位ヲ長サ四寸位ニ卷キ束ヲ目方三十目位ニシテ小賣セルアリ。一葉二葉ヲ輪トナシ小賣セルアリ。要スルニ其ノ小賣ハ最目ニ關係スルヨリハ條數ノ多キ方方便ナルヲ以テ、劍路、根室産等ノ如キ薄肉ノモノハ管ニ煮熟シ易キノミナラズ是等ノ點ニ關シテモ大ニ歡迎セラル、モノナリト云フ。

我國市場ニ於テハ昆布ノ新古ニヨリ價格ニ著シキ懸隔ヲ生ズレトモ、清國ニテハ其ノ差甚ダ僅少ニシテ前年産ノ古昆布ニテモ乾燥充分ニシテ微損シ居ラザルモノナラバ殆ンド新産ノモノト選ブトコロナク、其ノ色澤ノ稍減退セルガ如キハ大差ナシト云フ。其ノ乾燥ノ充分ナル事ヲ必要トスルヤ言ヲ要セザル也。

第三節 用途及嗜好

清國ニ於ケル用途ハ日常ノ菜即チ副食物ニ供スルモノニシテ、其ノ調理法ノ如キ地方ニヨリテ一定セザルベシト雖、普通ハ魚肉豚肉ト混煮シ、或ハ白菜、豆素麵、大根等ト混シ菜油、豚脂ニテ煮熟スルノ類ニシテ其他珍奇ノモノトシテハ漢口ニ於ケル醬園(醬油屋)ニ於テ醬油缸ニ浸シ醬菜ト稱シテ販賣スルガ如キアリ。或ハ火上ニ灸リテ茶菓子ニ代用スルコトアリ。然レドモ是等ハ極ク稀ナリト云フ。

昆布ノ如斯嗜好セラレ今日ノ如ク需要セラル、所以ノモノハ蓋清國人ノ海味ヲハ珍賞スルノ自然ニ出デシ

モノナルベシト雖、炭坑附近ニ於テハ昆布ヲ以テ肉湯ヲ作り常用セバ以テ炭毒ヲ消シ、瘦ヲ醫スト稱シ、或ハ之レヲ常倉トセバ蠟毒ヲ防ギ、滋養補血ノ效アリト云ヒ傳へ、坑夫ノ如キハ毎日ノ食ニ供シ大ニ需要スト云フ。實際果シテ如上ノ效アリヤ否ヤハ未ダ詳カナラザレドモ、習俗ハ容易ニ消滅スルモノニアラズ、將來該國ニ於ケル炭山等ノ開掘ハ年ヲ逐ウテ盛大ニ向ヒ、且鐵道等ノ敷設ハ漸次完成スベケレバ、兎ニ角昆布ノ消費ノ益々多キヲ加フルニ至ルヤ疑ヲ容レサルトコロナリトス。

盛京省ニ於テハ昆布ハ歲末元始ノ儀式ニ用ヒラレ我國ノ韶陽魚ニ於ケルガ如ク缺クベカラザルモノナレトモ、概シテ北清地方ニ於テハ主トシテ下等社會殊ニ農民ノ消費スルモノ多ク、重ニ冬期春初ニ於テ副食物トシテ需用セラルト云フ。直隸滿洲地方ニ於テハ蔬菜ノ不熟ノ時ハ昆布ノ需要多キヲ加フレドモ、山東省ハ之ト反對ニシテ蔬菜豐熟ナルニ及ンデ昆布ノ需要多シト云フ。是レ山東ノ地ハ能ク蔬菜ノ生育ニ適シ、毎年蔬菜ヲ南部支那ニ輸送スル習慣ニシテ、農家ハ自作ノ蔬菜ヲ賣却シテ相當ノ利潤ヲ得、低價ナル昆布ヲ購入シテ副食物ニ供スルニ由ルモノナリト云フ。昆布ハ夏期供給ノ豐ナル時ニテモ一斤ハ大凡我ニ錢八九厘ニ相當スト云ヘバ、野菜ニ比スレバ一見倍價ナルガ如シト雖野菜ノ如クニ食鹽等ヲ加フルノ必要ナク、又之レヲ煮レバ其ノ容積大ニ膨脹スルノミナラズ、煮ルニ多クノ薪炭ヲ要セザルヲ以テ、薪材ニ乏シキ山東地方ノ如キハ寧ロ利益ナル點多キナリ。故ニ若シ蔬菜豐熟セザレバ農戶ノ收銀減少シ從テ昆布ノ消費多カラズト云フ。山東地方ハ此ノ如クニシテ昆布品質ノ如何ハ問フ所ニアラズ求ムルトコロハ唯價格ノ低廉ニアルヲ以テ、露領産昆布ノ如キ下等品ハ主トシテ當地方ニ歡迎セラル、也。清國中部地方即チ長江筋附近ノ地ハ一般ニ富メ

ルヲ以テ上等品ヲ嗜好スルノ傾アリテ、薄葉綠色ヲ賞シ厚葉異色ノモノハ嗜好ニ適セズトイフ。故ニ本道産ノ根室、濱中、釧路等ノ産品ハ專ラ此ノ地方ニ於テ消費セラル、ト云フ。露領産昆布ハ嘗テ此ノ方面ニ當リ販路ヲ開カントシシモ嗜好ニ投ズル能ハズシテ廢止セシガ、近年復再ビ其ノ需要ヲ求ムル事ニ致々勉メツ、アリ。然レトモ未ダ北方諸省ノ如ク嗜好ニ投ゼズ輸入甚ダ少シ。

一般ニ長切昆布ノ短葉ナルモノハ需要者ノ甚ダ好マザルトコロナリ。是レ昆布ノ惡葉ヲ切斷シタル殘片ナリト信ズルヲ以テ也ト云フ。廣東、廣西等ノ南清地方ニ於テハ昆布類ヲ嗜好スルモノ未ダ多カラズシテ輸入ノ數量モ亦甚ダ少ク約數千石ニ過ギズト云フ。是レ此ノ附近ノ地ハ海味ヲ得ルニ乏シカラザルガ故嗜好未ダ之レニ向ハザルモノナラン。但シ南清地方ニ輸入スル昆布ハ皆本邦産ニシテ概シテ拾昆布、水昆布、貓足昆布等ノ如キ下等品多シトイフ。是等ハ專ラ橫濱等他港ヨリノ輸出ニ屬セリ。

帶糸細即チ刻昆布ハ我國ノ特有製品ニシテ清國ニ輸入スルモノ未ダ他國産ニナシ。其ノ用途ハ亦葉昆布ニ同シキモ本品ハ稍々上等ノ社會ニ需要セラル、モノニシテ、四川省ノ如キハ刻昆布ヲ以テ五色菜ノ一ニ加ヘ珍膳ニ供スルモノナリ。色澤深緑ニシテ刻ミ方最モ細線ナルモノヲ賞用ス。然レトモ其ノ色餘リニ濃クシテ扱フニ手ヲ染ムルガ如キハ最モ嫌フトコロニシテ、寧ロ黑色ヲ選ブト云フ。要ハ着色ノ度宜シキヲ得ルニアリ。

第四節 外國品販路ノ狀況

一般ニ昆布ハ寒流ノ産ニシテ寒流ノ通ズル所ハ歐米ヲ問ハズ皆多少之レヲ産セザルナシト雖、其ノ貿易品トシテ清國ニ輸出シ我昆布ト競争ノ位置ニアルモノハ露領産昆布ノミナリトス。現今ニ於テハ日露戦争ノタメニ北清ニ於ケル露領産昆布ノ販路杜絶セラレ居レトモ以下述ベントスルトコロノモノハ戦争以前ノ狀況ナリトス。

儲清國中部以南ハ富ノ程度高ク上等ナル昆布ヲ需要シ而モ我勢力範圍ニ屬シ未ダ他國産ノ我販路ヲ障碍スルモノナキハ既ニ述ベシトコロトス。然レトモ反之北清地方ハ一般ニ貧シク品質ノ如何ハ之ヲ顧ミルノ餘裕ナク専ラ價格ノ低廉ナルモノヲ需要スルノ傾アルヲ以テ、露領産ノ如キ品位劣ニシテ價格廉ナルモノ需要セラル、也。北清ニ於ケル露領産昆布ノ輸入地ハ天津、芝罘、牛莊ノ三港ニシテ其ノ輸入額ハ左ノ如シ。

芝 天 牛	罘 津 莊	稱		再		純	
		輸	入	輸	出	輸	入
		數	價	數	價	數	價
		五四〇八九	八六、五四二	六三〇四	一二、五二五	四七、七八五	七四、〇一七
		三六六五	一五、二六二			三、六六五	一五、二六二
		二八、一三〇	四二、一九六			二八、一三〇	四二、一九六

而シテ之レニ對スル本邦産ノ輸入額ハ左ノ如シ

呼	稱	入		出		入	
		數	價	數	價	數	價

芝 天 牛	罘 津 莊	稱		再		純	
		輸	入	輸	出	輸	入
		數	價	數	價	數	價
		四四、五三九	一二、二四八二	四九六	一二、三五四	四四、〇四三	一二、一、二二八
		六一、九二九	一五、五九〇八			六一、九二九	一五、五九〇八
		一一、六七三	二八、九一一	一、八七五	四六、八八	九、七九九	二四、二二三

右ニヨリテ明カナルガ如ク、北清地方ニ於ケル露領産昆布ハ我が競争品トシテ左程恐ル、ニ足ラザルモノ、如シ。殊ニ天津ハ罘罘ト全ク其ノ趣ヲ異ニシ、劣等低價ノモノハ漸次其ノ販路ヲ失ヒ優質ノモノ益々需用セラル、趨勢ニシテ、昆布取引ヲ以テ一時隆盛ヲ極メシ某露商ガ商賣引合ハズ閉店シテ浦塩ニ引上グルニ至リシガ如キ有様ナルニ於テオヤ。然レドモ露領産昆布ハ價廉ニシテ且ツ其ノ質甚ダ煮熟シ易ク、而已ナラズ沿滄州ノ昆布採取ハ専ラ清國人ノ經營ニ係リ能ク本品需要地ノ狀況ヲ知ルガ故ニ、運賃ハ勿論些細ノ點ニ至ル迄務メテ費用ヲ節約スル方針ヲ採レルガ爲メ、非常ニ廉價ニ販賣シ得ラル、モノナルヲ以テ、山東省及盛京省地方等購買力ニ乏シキ多數農民労働者ニ對シテハ勢ヒ需要ノ之レニ向フハ當然ニシテ、本邦産ヲ需用セシメントスルモ得ベカラザル也。而シテ露領産昆布ハ販路狭キガ故ニ之レガ擴張ニ勉メツ、アルノ狀況ニシテ天津ニ於テハ輸入シタル露領産昆布ヲ日本品ト同一ノ荷造リニ包裝シ、日本文ノ印杯ヲ付シテ西北方ノ奥地ニ輸送セルモノアリト云ヘバ、本邦産モ亦大ニ之レガ警戒ヲナシ、同時ニ上磯、檜山産ノ如キ下等品ヲ輸出シ該地方ノ嗜好ニ投ジ、其ノ販路ノ擴張ヲ試ムルモ亦無益ノ業ニアラザルベシ。

第九章 結論

北海道ニ於ケル輸出昆布ノ生産ノ狀況分配集散ノ有様及ビ消費ノ概勢ハ以上章ヲ重ネテ記述セシガ如シ。抑々昆布ハ清國ニ向ツテ輸出スル水産物中第一位ニ居ルノミナラズ、又實ニ支那貿易輸出品中ノ重要ナル地位ヲ占ムルモノナリ。試ニ明治三十七年ノ外國貿易年表ヲ探テ之ヲ見ルニ、我が國ヨリ清國ニ輸出シタル品目中百萬圓以上ニ達スルモノ僅カニ綿糸、石炭、熟銅、燐寸ト本品トノ五品ニ止マレリ。又同年清國ニ向ツテ輸出シタル水産物ノ價格ハ參百十三萬四千餘圓ニシテ、其ノ中昆布ハ百五萬四千餘圓、刻昆布ハ拾九萬二千餘圓、合計百二十四萬七千餘圓ニ及ビ、其ノ四割内外ハ昆布類ノ占ムルトコロナリ。現在ニ於ケル昆布ノ地位斯ノ如シ而シテ其ノ將來ニ於ケル狀勢亦悲觀スベキモノナシ。既往ニ於ケル趨勢ニ徴シテ之レヲ見ルニ、明治初年ノ比ニアリテハ四五萬石ノ輸出ニ過ギザリシモノガ、全十年前後ニ至リ六七萬石ニ進ミ、全二十年前後ニハ拾萬石内外ニ至リ、全三十年前後ニハ拾二三萬石ニ達シ、近年ニハ更ニ拾八萬石余ニ及ビ、其ノ輸出増加ハ拾年間ニ約三四萬石宛ノ割合ニシテ尙將來ニ於ケル需要ノ潛勢力頗ル大ナルモノアリテ、其ノ駁々トシテ増進スルヤ決シテ疑ヲ容レザルトコロ也。交通ノ便未ダ開ケザル過去ニ於テスラ猶如斯トスレバ、是レヨリ將サニ加倍ノ力ヲ以テ交通機關整ハントシ、鑛山採掘又彌々隆盛ナラントスル前途ナレバ其ノ好望ナルヤ言フ俟タザル也。却テ顧慮スベキハ供給地タル北海道ハ果シテ能ク其ノ需要ニ應ジテ供給シ得ルヤニアルトス。然レトモ從來ノ例ニヨレバ其ノ産額ノ多少ハ生産ノ豊凶ヨリハ寧ロ價格ノ昂低ニ因ルモノ多シト云ヘバ、需要ノ増進ニ伴ヒテ産額ヲ多大ナラシムルノ余地尙十分之レアルベシ。

然レトモ爰ニ注意スベキハ、露領産昆布ノ上海ニ於テ販路ヲ張擴セント勉ムル事ト、又京漢鐵道ノ竣成ガ

露領産昆布ヲシテ北清方面ヨリ沿道到ル處ニ販路ヲ開拓セシムル事ト之レ也。而シテ彼レハ劣等低價ニシテ我ハ優等高價ナリ、其間劃然トシテ自ラ需要ノ區域ヲ異ニシ、生活程度甚ダ低ク専ラ儉約ヲ尙ビ品質ノ佳良ナルモノヨリハ價格ノ低廉ナルヲ撰ブ北部支那ニアリテハ、日本産ノ高價ナルモノヨリハ自然露領産ノ低價ナルモノ勢力アルハ自然ノ敷ナリト雖、然レトモ需要ハ低廉ナルモノニ向ク。露領産昆布ノ販路擴張策ヲ奏セズト斷言スルコト能ハズ。決シテ苟且ニ附シ輕々ニ看過スベキニアラザルナリ。

果シテ然ラバ如何ナル方策ヲ以テ此ノ敵ニ對スベキカ、是レ次ニ起ルノ問題ナリ。而シテ余ハ之レニ對シ益々我昆布ノ特色ヲ發揮スルニ勉ムルト同時ニ、又檜山、松前上磯附近産ノ露領産昆布ニ酷似セルモノヲ芝罘及牛莊ニ輸出シ、山東滿州等ノ需要ニ適セシメ、以テ彼レニ拮抗スルヲ最得策ト信ズルナリ。蓋我ガ昆布ノ今日ノ地位ヲ保ツモノハ之レ一ツニ其ノ品質ノ優等ナルニヨルモノニシテ、露領産ニアリテハ其ノ品位我ニ比シ大ニ劣レリ、故ニ此品質ニシテ改良セラレザル以上ハ決シテ我ガ昆布ノ代用ヲナスコト能ハズ、而シテ我ハ此品位ヲ利用スルニアラザルヨリハ需要地ニ遠ク從テ多額ノ運賃ヲ支拂ハザルベカラザルガ故ニ到底彼等ニ對抗スルノ良途アラザルベケレバ也。

而シテ我ガ北海道ニ於ケル昆布採取業ノ狀態ヲ見ルニ、採取者ハ雇傭關係ニ羈束セラル、アルノミニシテ唯義務的勞動ヲナシ、苟モ閑ヲ偷ム事ヲ之レ事トシ、身体ノ安逸ヲ之レ希フ。又採取業者ハ日常ノ生活ニハ奢侈ヲ極ムルモ、資本ナク、只獲リニ收獲ノ多キヲ欲シ、粗製濫造甚シキニ至リテハ、量目ヲ増加セシメンガ爲ニ結束中ニ砂ヲ混ズルモノサヘアリテ、孰レモ市場ニ於ケル需要ノ方向種類數量嗜好等ヲ少シモ顧慮ス

ルコトナク、又昆布ハ只組合検査所ノ簡畧ナル検査ヲ通リテ其ノ儘市場ニ出ヅルガ如キ有様ナリ。是レ固ヨリ他ニモ原因アルコトナランモ、全ク生産者ノ多クガ無教育ニシテ、唯自己目前ノ利益ノミニ急ニシテ遂ニ安固ナル國家永遠ノ利益ヲ圖ルコトヲ知ラザルニ因ルモノナリ。誠ニ歎ズベキナリ。サレバ一度其ノ弊ヲ捨テ、資本ヲ集中シ、進歩セル方法ニヨリ經營ヲ統一スル時ハ、漁業者其レ自身ノ成功ノミナラズ、國民經濟上一般ニ利益ヲ與フベキハ蓋明カナル事實ナリ。其ノ探ルベキ方策ニ至リテハ採取法、採取器具ノ改良ヲ始メトシ、善良ナル採取者、採取業者ノ移住、彼等ニ對スル教育、販路ノ研究、共同販賣等一ニシテ足ラズト雖、而カモ一般ニ北海道ノ水産業者タル之ヲ其ノ農業者ニ比スルニ資産ノ多少ヲ問ハズ概シテ教育ニ乏シキモノ多ク、日進ノ世ニ處シテ自營自治ノ事業改良上ノ方法ヲ講ズルガ如キハ彼等ノ能事ニ非ズ、只習慣ノ素朴ナル良ク政府若シクハ主長ノ命令指導ニ服従スルガ如キ其ノ長所トスベキガ故ニ、此等ノモノ、勸奨指導ノ效特ニ顯着ナルモノアルベキ也。北海道開發以來三十有餘年一日トシテ獎勵保護ナキ時アラズト雖、殊ニ開拓使時代ニ於テハ其ノ方法最モ善ク行ハレタルモノ、如ク、從テ顯着ナル遺效ヲ存セルニアラズト雖、其ノ效蹟ノ今ニ至リテ尙大ニ見ルベキモノ亦少カラズ。該業ノ今日アル偏ヘニ其ノ賜ナリト謂フヲ妨ゲザルモノアリ。然ルニ近時ヲ以テ當年ニ比スレバ其ノ獎勵ノ途ニ於テ稍遜色アルヲ覺ユ。是レ該業ヲ以テ既ニ其ノ發達ノ極ニ達シタルガ如クニ思惟セシ餘響ナランモ、北海道昆布業ノ發達猶甚ダ遅々トシテ振ハザルモノ多キコト前述ノ如シ、政府ノ獎勵保護ニ待ツ事多キ必ズシモ開拓使時代ニ劣ラザル也。海産物一般ノ生産振興策ニツキテハ、之ヲ詳シク説ケルモノ少カラズ、且ツ政府ニハ夫々専門ノ智識アリ、余輩ガ改良指導ノ點ニ

就キ云々スベキ必要ヲ見ズ。唯々當局ノ勸奨指導ニシテ其ノ當ヲ得ンカ、庶幾クハ永ク其ノ弊價ヲ保チ信用ヲ彼等清人ニ繋グ事ヲ得ン。

次ニ其ノ輸出セラル、状態ヲ見ンカ。昔テハ之レガ直輸出ヲナシシコトアリシガ、現今ニ於テハ他ノ對清海産物輸出ト其ノ軌ヲ一ニシ、生産者ヨリ函館港ニ於ケル問屋ニ送り、此處ニ於テ更ニ在留清商ニ賣渡ス、所謂居留地貿易ナリトス。惟フニ彼等清商ハ一面ニ於テハ彼等ノ本國ノ事情ニ通ズルト同時ニ、他ノ一面ニ於テハ亦我が事情ニ通ジ、加フルニ資本ニ富ミ、且ツ彼等ノ間ニハ各種ノ商業機關比較的早ク能ク整備シタルヲ以テ自然取引圓滑ニ行ハレシ結果、遂ニ現今ノ勢ヲ馴致シタルモノナルベシト雖、斯ノ如ク我が輸出ヲ全ク外人ノ手ニ放任スルニ於テハ、徒ニ彼等ノ囊中ヲ肥スニ止マリ、我が昆布貿易ハ將到底健全ナル發達ヲ望ムコト能ハズ、殊ニ彼等清商ガ我が問屋ノ手ヲ離レ、原産地へ出張シ、我が生産者ト直取引ヲ行フニ至リテハ、我が國家經濟上ヨリ觀察スレバ我ハ唯ダ漁業上ノ利益ヲ得ルニ止マリ、毫モ商業的利益ヲ獲得スルコト能ハズ、我が生産家ハ全然外國ニ利益ヲ與ヘンガ爲ニ勢働スルモノニシテ實ニ愚モ亦極マレリト云フベキ也。サレバ我が商業家ガ此際我が國家經濟ノタメ、彼等清商ノ手ヲ經ズ直輸出ノ道ヲ講ジ、以テ貿易ノ發達ヲ圖ルコト實ニ目下ノ急務ナリト云ハザルベカラズ。而シテ當業者中ニ於テモ、其ノ或ル者ハ現狀ノ不利益ナルヲ見テ直輸出セザルベカラザルヲ叫ブモノアリト雖、概ネ以爲「清商ハ本邦商人ト上海商人トノ間ニ介シテ利ヲ獲得シツ、アルモノナリト雖、然レトモ本邦商人ガ上海市場ニ通ゼズシテ尙好ク之ヲ輸出シ、座シテ其ノ販路ヲ擴張シ得ルハ彼等ノ在ルカ爲メナリ、而已ナラズ若シ本邦商人ニ於テ直輸出ヲ爲サン

カ、我ハ轉ジテ彼レ清商ト競争シ非常ナル辛苦ト經費トヲ以テ其ノ販路ヲ求メザルベカラズ、且一度上海市場不振ヲ呈センカ、輸出シタル昆布ハ殆ンド其ノ所置ニ苦ミ、往年上海市場ニ於テ堆積昆布ヲ燒棄シタル如キコトヲ再演スルニ至ラザルベカラズ。直輸出ハ時ニ巨利ヲ博スル事ヲ得ベキモ、其ノ危険ハ到底今日ノ状態ノ比ニアラズ。若カズ此ノ危険ナル事業ニ當ランヨリハ寧ロ販賣手數料ヲ得テ居留地貿易ノ安全ナルヲ撰バンニハ。ト。曾テ資本ノ集中ヲ行ヒテ漸クニシテ得タル辛キ經驗ヲシテ終ニ失敗タルニ至ラシメテ願ミザル比々皆然ラザルハナシ。之レヲ彼清商ガ千里ノ波濤ヲ破リテ他國ニ來リ、我々トシテ他國人ト競争シ汲々トシテ利ヲ逐ヒ、一ツノ蹉跌ヲ來サマルニ比スルニ其ノ差實ニ霄壤モ管ナラザルナリ。或ハ云ハン、彼レ清商ハ其ノ資力ノ充實セル、需要地ノ狀況ニ通ゼル、到底吾人ノ企及スベクモアラズト。然リ彼等ノ資金ハ充溢セルナルベシ、彼等ハ需要地ノ狀況ニ通曉セルナルベシ、サレド我レニ此等ヲ得ルノ方法ナキニアラズ若シ一個人ノ力ニテハ危シト思ハバ、特ニ組合會社ノ類ヲ組織シ一致協力以テ事ニ當ラバ如此ハ唯々タルノミ。

遮莫既往ハ如何ントモスベカラズ。然レドモ爰ニ一言ノ之ニ及バズシテ本報告ヲ終ル能ハザル事アリ。即チ當業者ニ對スル希望ニシテ、各自ガ團結提携シ、一方ニ於テハ個々ノ資本ヲ蒐集シテ資金ノ充實ヲ計リ、或ハ領事等ノ報告ニ注意シ、或ハ人ヲ派シ或ハ自ら踏査シ、以テ需要地ノ狀況等ヲ察シ、彼地ニ適當ノ販賣機關ヲ設クル等、販路擴張ニ意ヲ注ギ、他方ニ於テハ團體ノ鞏固ヲ圖リ、之レガ經營ニ意ヲ加ヘ、目前ノ利ニ迷ハズ小成ニ安ゼズ、忍耐以テ永遠ノ利ヲ思ヒ、直輸出ヲナシ以テ斯業ノ發達ヲ圖ラン事之也。若シ資本ニシ

テ充實ナランカ、慎重能ク其ノ事ニ當リ、機ニ投ジ變ニ處シテ以テ之レガ販賣ヲ伸縮シ得ルノ餘裕綽々タルモノアリ、縱令市場ニ於テ昆布需要緩漫ナルモ從來ノ如ク投賣ヲナスノ輕舉ニ出デズ、之レガ生産品ハ貯藏シテ市場ニ飽溢ナラシムルコトナク、他日需要ノ盛ナル時ヲ待ツテ除々ニ之レヲ市場ニ供給販賣スルノ策ヲ執ルコトヲ得、同時ニ清商ノ直輸出妨害、連合低價買入モ共ニ虞ル、ノ必要ナク、我ハ倨然トシテ彼ノ團結ノ解ケテ自由競争トナルノ日ヲ俟ツベク、其ノ需要ト供給トハ常ニ平衡ヲ保チ、市場ハ平々坦々トシテ市價ノ激變ヲ來スノ虞ナク、偶々不振ノ事アルモ耐久持續シテ其ノ氣直リヲ待チ、當然得ラルベキ利益ヲ見ス見ス失フガ如キ愚ヲ爲サザルヲ得ベキナリ。

道廳許可

函館物產商組合規約

函館物產商組合

函館物産商組合規約

目次

第一章	總則
第二章	加入及脱退
第三章	組合事務
第四章	常議員
第五章	會議
第六章	會計
第七章	違約者處分
第八章	證標並ニ印章
第九章	附則

第一章 總則

第一條 當組合ハ函館區内ニ住居シ北海道海陸物産ヲ買賣シ又ハ他ノ委托ヲ受ケ之ヲ買賣スル營業者ヲ以テ組織ス

第二條 當組合ノ名稱ヲ函館物産商組合ト稱ス

第三條 當組合事務所ヲ函館區船場町二十四番地ニ設ク

第四條 當組合ハ營業上ノ弊風ヲ矯正シテ信用ヲ保持シ將來業務ノ擴張ヲ目的トス

第五條 當組合ノ目的ノ左ノ如シ

一、不正品ノ取扱ヲ防止シ營業ノ發達ヲ圖ルコト

二、營業上ノ良習慣ヲ養生スルコト

三、粗惡ノ產物ヲ發見シタルハ其生産者ヲ調査シ之ヲ戒諭シ若クハ地方共同團體ニ忠告スル等畢竟組合ガ目的ヲ達スルニ必要ナル處置ヲ講スヘシ

四、取引ヲ明カニシ紛議ヲ未發ニ防キ彼我ノ調和ヲ謀ルコト

五、組合員營業ノ現況ヲ視察シ不徳義ノ所爲アルトキハ相當ノ制裁ヲ與フル事

六、組合ハ組合員ノ業務上斤量ノ紛議ヲ解決スル爲メ正確ナル度量衡器ヲ事務所ニ備ヘ置キ之レガ用ニ供ス

七、前項ノ外組合ノ目的ヲ達スベキ要件ヲ講究シ及之カ實施ヲ爲スコト

第二章 加入及脱退

第六條 組合へ加入セント欲スルモノハ組合員二名以上ノ紹介ヲ以テ正取締へ宛テ加入申込書ヲ差出ト同時ニ組合經費トシテ金壹圓ヲ納ムヘキモノトス

第七條 加入申込者アルトキハ取締ニ於テ常議員ト協議ノ上其許否ヲ決スヘシ

第八條 加入ヲ許諾シタルトキハ第十四條ニヨリ組合名簿へ登録ノ上第四十二條雛形ノ標札ヲ交付スヘシ

第九條 組合員中未丁年者ハ後見人有夫ノ婦ハ夫ノ承諾ヲ表證スル書面ヲ以テ取締ノ承諾ヲ受ケ置クヲ要ス

第十條 組合ヲ脱退セントスルトキハ其理由ヲ記載シ取締へ宛テ退去届ヲ差出スヘシ轉居改氏名ニ於ケル場合モ亦同ジ

第十一條 組合標札ハ脱退届ト共ニ返戻スヘキモノトス

第十二條 組合員ノ異動ハ定式總會ニ於テ組合員ニ報告スヘシ

第三章 組合事務

第十三條 組合ニ書記一名ヲ置キ正取締之ヲ指揮シ組合全般ニ關スル事務ヲ執行セシム

第十四條 組合員名簿及常議員名簿ヲ製シ之ヲ組合事務所ニ備へ置キ組合員ニ異動アル毎ニ加除訂正ヲ加フ

第十五條 組合ニ關スル營業上ノ事項ニシテ官廳ノ諮問若クハ他ノ照會アルトキハ事ノ輕重緩急ニヨリ常議員會若クハ總會ヲ開キ精細ナル答辯ヲ爲スヘシ

第四章 常議員

第十六條 常組合ニ左ノ役員ヲ置ク

- 一 正 取 締 一 名
- 一 副 取 締 一 名
- 一 常 議 員 十三名

第十七條 常議員ハ定式總會ニ於テ之ヲ撰舉ス

但撰舉ハ高點ヲ以テ當選トシ若シ得點同數ナルキハ年長者ヲ舉ケ同年ナル時ハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

第十八條 正副取締ハ常議員ニ於テ之ヲ互撰ス

第十九條 常議員ハ組合員中年齡滿貳拾歲以上ノ男子タルコトヲ要ス

第二十條 常議員ノ任期ハ滿一ケ年トシ滿期再選ヲ妨ケズ

補缺撰舉ニ當撰シタルモノハ前任者ノ殘任期ヲ繼ガシム

第二十一條 常議員中缺員ヲ生ジタル時ハ補缺撰舉ヲ行フベシ

但缺員四名迄ハ次回ノ改撰期迄補缺撰舉ヲ行ハザルコトヲ得

第二十二條 組合員ハ正當ノ理由アルニ非ラサレバ就職ヲ拒ミ又ハ任期中辭退スルコトヲ得ズ其ノ責務ヲ盡サザル者又ハ不徳義ノ行爲アリタルモノハ任期中ト雖モ總會ノ決議ヲ以テ之ヲ解任スルコトヲ得

第二十三條 正取締職務權限左ノ如シ

- 一、組合ヲ總轄シ且代表者トナルコト

二、組合ニ於ケル營業ノ一班ヲ觀察スルコト

三、總會及常議員會ヲ召集シ是レガ議長トナル事

四、常議員會ノ決議ヲ經テ書記ヲ任免スル事

五、常議員會ノ決議ヲ經テ違約者ヲ處分スル事

六、其他組合同規約ニ依リ諸般ノ事項ヲ處理スル事

第廿四條 副取締ノ職務權限左ノ如シ

正取締ヲ補佐シ其差支アルトキハ之レガ代理トナル事

第廿五條 常議員ハ正副取締ノ委任ニ依リ其事務ノ一部ヲ分掌スル事アルベシ

第廿六條 正副取締共ニ差支アルキハ常議員ノ一人正取締ノ職務ヲ代理ス其方法順序ハ常議員ノ協議ニ依ル

第五章 會議

第廿七條 會議ヲ分ツテ定式臨時常議員會ノ三種トス

第廿八條 定式總會ハ毎年一回(一月)常議員會ニ於テ定ムル日時場所ニ開設スベシ

定式總會ニ於テハ主トシテ前年度中組合業務ノ成績、組合員ノ異動、經費收支ノ決算ヲ報告シ並ニ組合經費豫算ヲ議定ス

第廿九條 臨時總會ハ正取締又ハ常議員會ニ於テ緊急ノ必要ヲ認ムル時若クハ組合員五分ノ一以上ノ請求アルトキハ何時ニテモ開會スヘシ

第三十條 常議員會ハ臨時必要ノ場合ニ於テ正取締若クハ常議員三名以上ノ請求ニヨリ之レヲ開ク

第卅一條 定式、臨時、常議員會ハ議員若クハ組合員三分ノ一以上出席者アルニアラザレバ議事ヲ開クコトヲ得ス

但緊急ノ場合ニハ前項規定ノ數ニ充ザル議事ヲ開キ次回ニ於テ爾後承諾ヲ求ムル事ヲ得

第卅二條 會議ハ多數決ニヨル可否同數ナルトキハ議長ノ決ニ從フ

第卅三條 組合員ハ自己又ハ組合員ニシテ三等親以内ノ血族若クハ姻族ノ一身上ニ係ル事件ノ會議ニ於テハ

議席ヲ忌避スルモノトス

第卅四條 會議ノ決議ハ組合ノ規程ト同一ノ効力ヲ有ス

第卅五條 會議法ハ議事細則ヲ設ケテ之ヲ施行ス

第卅六條 會議ノ議決ハ總テ議事録ニ登錄シ總會ニ於テハ正取締並ニ組合員二名常議員會ニ於テハ正取締並ニ出席常議員之ニ署名捺印シ組合事務所ニ保存スベシ

第六章 會計

第卅七條 常組合ノ會計年度ハ毎年一月ヨリ十二月迄トス

第卅八條 組合ノ經費ハ定式總會ノ議決ニ基キ一月七月ノ兩期ニ賦課徴收ス

但組合脱退ノ場合ニ於テモ該半期ニ係ル分ハ之ヲ徴收シ新加入者モ亦之ニ準ス

第卅九條 組合ニ關スル臨時費ハ金額二十圓ヲ限リ常議員會ニ於テ其支出法ヲ決スルコトヲ得其余ハ臨時總

會ニ附スルモノトス

第四十條 組合經費ノ徵收ハ書記ヲシテ之ヲ爲サシメ確實ナル銀行へ預ケ置キ正取締之レガ出納ヲ管理ス

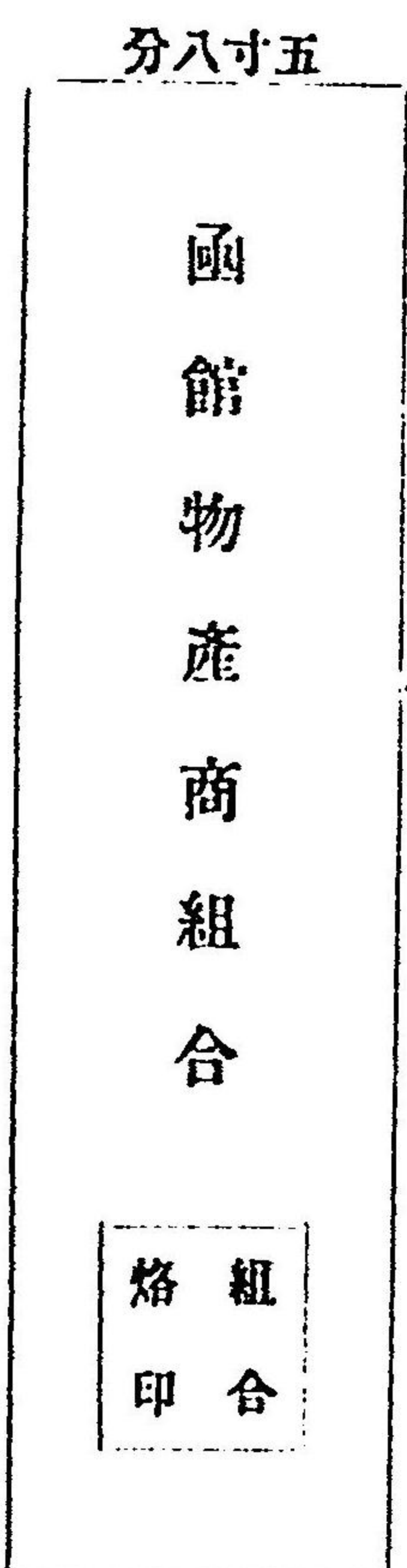
第七章 違約者處分

第四十一條 組合員中不德義又ハ違約ノ所業アルトキハ常議員會若クハ臨時總會ヲ開キ情ノ輕重ニヨリ左ノ處分ヲナス事ヲ得

- 一、戒諭
- 二、謝罪狀
- 三、除名ノ上新聞紙ニ廣告スル事
- 四、組合經費ノ納付ヲ怠リ次回納期迄延滞スルモノハ常組合ヲ除名シ同時ニ組合標札ヲ返還セシム

第八章 証標並印章

第四十二條 組合員ハ組合事務所ヨリ交付スル左ノ證票ヲ店頭又ハ見易キ場所ニ掲ケ置クヘシ



第四十三條 組合ノ印章左ノ如シ



第九章 附則

第四十四條 組合規約ヲ改正シ若クハ増減變更セントスルトキハ常議員會ヲ開キ審議ノ上之ヲ總會々議ニ付スヘシ

第四十五條 組合員中其業務上ニ關シ組合名義ヲ以テ他ニ交渉スルノ必要アルトキ十名以上協同シテ之ヲ求メ常議員會ノ承認ヲ受ケタル者ヲ之ヲ爲ス事ヲ得

但シ此場合ニ於ケル費用ハ各自辨トス

函館物産商組合細則

函館物産商組合細則

第壹章 海陸物産賣買規定

第壹條 賣買ヲ分ツテ左ノ三種トス

(1) 通常賣買

一、通常賣買ハ賣買成立ノ日ヨリ三日以内ニ現品受渡シ全時ニ代金ノ支拂ヲ爲スモノトス

(2) 代金延べ賣買

一、代金延べ賣買ハ賣買成立ノ日ヨリ三日以内ニ現品ノ受渡ヲナシ賣買双方ニ於テ定メタル期日ニ於テ代金ノ支拂ヲナスモノトス

(3) 先物賣買

一、先物賣買ハ賣買双方ノ合意シタル期ニ於テ契約ニ基キ履行スルモノトス

第貳條 賣主ニ於テ代金預リ證亦ハ約束手形ヲ請求スル場合ハ買主ニ於テ必ズ交附スベシ

但シ代金延べ賣買ヲ買主ニ於テ現金支拂フトキハ日歩ヲ引去リ支拂フモノトス

第參條 賣買物品ハ受渡ニ際シ紛議ヲ避ケル爲メ買主ニ於テ必ラズ現物ヲ熟覽ノ上賣買契約ヲナスモノトス

但シ大石數又ハ倉庫狹隘ニシテ實際熟覽ヲナス能ハザルトキハ双方熟議ノ上賣買契約スルモノトス

第四條 濡レ鼠喰座付等ハ從來ノ慣例ニ依リ合意ノ上受渡ヲ爲ス事

第五條 賣買双方ニ於テ相場ノ高低ニ據リ故意ニ紛議ヲ醸シタルモノト見做ス場合ニハ函館物産商組合規約

第四十一條ヲ適用シ尙ホ常議員會若クハ臨時總會ノ決議ニ依リ取引ヲ拒絶スルコトアルベシ

第六條 手附金ヲ受授シタル賣買契約ニ於テ特定ナキモノハ左ノ規定ニ依ル

(1) 買主ニ於テ違約シタルトキハ其手附金ハ賣主ニ於テ之ヲ沒收ス

(2) 賣主ニ於テ違約シタルトキハ其手附金ノ倍額ヲ買主ヘ支拂フベシ

第七條 風雨其他天災ノ爲メ約束ノ期間ニ受渡能ハサルトキハ順延トス

但シ受渡期間ハ双方合意ニヨリ伸縮スルコトアルヘシ

第八條 受渡以前ノ貨物天災ノ爲メ亡失シタル部分ハ特定ナキトキハ賣買解除シタルモノト定ム

但シ先物賣買ハ此限ニ非ス

第九條 賣買成立ト共ニ左記ノ直組書ヲ双方交換スルモノトス

但シ手附金ハ双方ノ合意ニ依ル

曲尺横一尺二寸五分全竪五寸四分

賣買直組證		本證ハ函館物産商組合細則	
荷印	品名	凡平均量	個數
直段		受渡期日	

海陸物産賣買規定ニ據ル

用印紙貼 用場所	要 摘	直組 年月日	倉庫 番號	直段	荷印 品名	凡平均量 個數	受渡 場所	證據金	主買	主賣	仲立人
							受渡 期日	受渡 場所	證據金	主買	
賣買直組證											
本證ハ國館物産商組合細則 海陸物産賣買規定ニ據ル											
用印紙貼 用場所	要 摘	直組 年月日	倉庫 番號	直段	荷印 品名	凡平均量 個數	受渡 場所	證據金	主買	主賣	仲立人
							受渡 期日	受渡 場所	證據金	主買	
賣買直組證											
本證ハ國館物産商組合細則 海陸物産賣買規定ニ據ル											

第貳章 輸入受取扱規定

第十條 受託貨物ノ賣買直段ハ總テ委託者ノ承諾ヲ得テ取扱フベシ

第十一條 受託貨物ノ賣買ニ付委託者ヨリ特ニ指示ナキトキハ通常賣買ノ規定ニヨリ取扱ノモノトス

第十二條 荷爲換及運賃其他ノ立替金ハ時價八掛ノ程度ヲ以テ受託スベシ若シ之ニ超過スルモノハ電信爲換

ヲ以テ差シ金ヲ申受ケタル後荷受スヘシ

但相場ニ變兆アリト認ムルトキハ此限ニ非ス

第十三條 請求シタル差金送付ナキトキハ受託者ハ勿論本組合員ハ之ヲ謝絶スヘシ

第十四條 相場ノ變動ニ由リ立替金ノ程度ニ異動アリト認ムルトキハ委託者ニ對シ差金ヲ請求スルコトヲ得

若シ入金遲延シタルトキハ委託者ニ通知シ其意見ニ拘ハラス直ニ賣却ノ處分ヲナスベシ

但シ過金ハ返戻シ不足金ハ請求スルモノトス

第十五條 立替金ニ對シテハ利子ヲ申受クルモノトス

第十六條 受託品ハ時價ヲ見積リ貨物火災保險ヲ付スルコトアルヘシ

第十七條 受託貨物ニ對シ委託者ヨリ申受クヘキ諸掛リ左ノ如シ

- 一、手 數 料
- 一、立替金利子
- 一、火災保險料
- 一、藏 敷 料
- 一、運 搬 費
- 一、受渡費用

一、電信料

一、送金手数料

一、其他必用ノ實費ハ申受クヘシ

第十八條 委託者ニ於テ都合ニ依リ他ヘ委託替ヲナス場合ニ於テハ手数料ハ規定ノ半額ヲ申受クヘシ

但シ委託貨物到着セサル以前若クハ特別ノ合意ヲナシタル場合ハ此限ニ非ス

第十九條 受託品到着後着荷取扱店ノ倉庫ニ在リテ荷印ノ仕譯完了セサル爲メ受託者指示ノ倉庫ニ引取ラサル

以前ニアリテハ荷爲換任拂濟ト雖其貨物ノ受ケル總テノ損害ハ委託者ノ負擔トス

第二十條 單ニ貨物ノ取次ヲ依頼サレタル場合ハ時價一分ノ手数料ヲ申受クヘシ

第三章 輸出受託取扱規定

第二十一條 買附受託ノ場合ニ於ケル差シ金ハ賣買成立ノ即日ニ於テ左ノ區別ニヨリ電信爲換ヲ以テ申受ク

ヘシ

一、海産物及米雜穀買附價格ノ一割以上三割以下

第二十二條 船乘直段ニテ受託ノ際ハ本船積入濟ニ至ル迄ノ一切ノ費用ハ其直段ニ含有スルモノトス

但シ海上保險料荷爲換打歩又ハ立替金ノ日歩及船内人夫賃ハ別ニ委託者ヨリ申受クルモノトス

第二十三條 運賃込直段ニテ受託ノ際ハ船乘直段ニ本船ノ運賃ヲ含有スルモノトス

但シ書前條ニ全シ

第二十四條 第二十二條第二十三條ノ場合ニ於テ其買付貨物ノ引渡及本船積込ノ後ハ凡テ委託者ノ責任ニ歸

スルモノトス

第二十五條 買付受託貨物ノ代金ハ荷爲替取組ミ精算スルモノトス

第二十六條 立替金ニ對シテハ荷爲換取組迄ノ間ノ利子ヲ申受クヘシ

但シ利子ノ割合ハ金融ノ緩急ニヨリテ役員會ニ於テ之ヲ定ムルモノトス

第二十七條 買付受託貨物ハ本船又ハ船ニ對シ海上保險ヲ付スルモノトス

第二十八條 差シ金ノ請求ニ對シ委託者ニ於テ送金ヲ怠リ其間俄然相場ノ變動ニ依リ遂ニ差シ金ヲ送附セサ

ル場合ハ直ニ受託ヲ解除シ之ニ由リテ生ズル損害ハ委託者ヘ請求スルコトヲ得

第二十九條 相場ノ激變ニ由リ追差シ金ヲ要スル場合ハ委託者ヘ請求スルコトヲ得

第三十條 委託者ニ於テ追差シ金ノ請求ニ應ゼザル場合ハ其受託貨物ハ受託者ノ獨斷ヲ以テ賣却シ過金ハ返

戻シ不足金ハ請求スルモノトス

第三十一條 買付受託貨物ヲ委託者指定ノ場所ニ積送り貨物到着後壹週間ヲ經過スルモ荷爲替金ヲ支拂ハサ

ルトキハ受託者ハ其當時ノ成行相場ヲ以テ賣捌キ過金ハ返戻シ不足金ハ請求スルモノトス

第三十二條 荷爲換ヲ取組ムコト能ハザル貨物又ハ金融上ノ都合ニヨリ荷爲換ヲ取組ムコトヲ得サル場合ハ

輸送前代金其他諸掛リ全額ヲ申受クヘシ

第三十三條 買付委託貨物ニ對スル諸掛リ左ノ如シ

一、手数料

一、海上保險料

- 一、火災保險料
 - 一、荷爲換打歩
 - 一、解及船内人夫賃
 - 一、繩葎荷造リ及手直賃
 - 一、電信料
 - 一、立替金利子
 - 一、藏敷料
 - 一、其他必用ノ費用ハ申受クヘシ
- 第三十四條 委托者ヨリ船名又ハ船積停止等ノ指示ニヨリ積出方延引スルトキハ之カ爲メニ生シタル諸掛リ
其他ノ危険ハ凡テ委托者ノ責任ニ歸スルモノトス
但シ船舶欠乏若シクハ天候不良ノ爲メ實際不得止積出延引ノ場合ニ生ズル金利倉敷等ノ費用ハ委托者
ノ負擔トス

明治三十八年

函館物産商組合員人名簿

函館物産商組合

函館物産商組合員連名

末廣町	二番地	岡本忠藏	全	町	十二番地	濱口儀兵衛商店
全	三十六番地	笠川治助	全	町	十三番地	勝田彌吉
全	一番地	田内支店 武田才次郎	全	町	八十二番地	前田源之助
全	九番地	海陸共通舎 齋藤清七	全	町	五十七番地	坂本兼吉
全	百五番地	林豊三郎	全	町	六十七番地	柏木宗兵衛
全	八十番地	島谷安三郎	全	町	三十九番地	宮崎榮助
全	三十四番地	村田榮吉				
大	二十番地	山本巳之助	全	町	五番地	豊嶋三策
全	十三番地	藤井利三郎	全	町	二十五番地	北海産業合資會社
全	二十二番地	川名得太郎	全	町	三十七番地	貫名順義
全	十四番地	間瀬翁太郎	全	町	四十四番地	忠谷久五郎
全	二十九番地	土橋藤市	全	町	六番地	同協和號
全	五番地	赤井松助	全	町	三番地	三井物産會社 平田初熊

全 町 三十三番地 源茂成號
 全 町 二十四番地 杉村龜
 全 町 十五番地 玉本商店
 全 町 四十八番地 澁田喜三郎

船場町	五十五番地	服部半左衛門	全	町	三番地	安達支店 谷津菊右衛門
全	五番地	近藤孫三郎	全	町	三番地	佐々木忠兵衛
全	三番地	小川佐助	全	町	十五番地	田中幸四郎
全	三番地	千田保太郎	全	町	二十二番地	小島久次郎
全	二十二番地	高森忠藏	全	町	二十二番地	植田元次郎
全	三番地	田中友次郎	全	町	二十二番地	大久保恒三
全	十番地	樋本市郎	全	町	二十五番地	佐藤善藏
全	二十五番地	橋本金太郎	全	町	二十五番地	五十嵐政吉
全	二十一番地	鎌田文助	全	町	二十三番地	西村馬太郎
全	二十番地	大月清三郎	全	町	二十二番地	小林喜兵衛
全	二十一番地	森本一郎	全	町	二十五番地	高森清藏
全	二十五番地	岩崎常七	全	町	二十二番地	田中文次郎
全	二十五番地	鹿志村支店主 相良留次郎				

東濱町	五十三番地	杉村 福松	全	町	四十九番地	福泉 榮造	
全	町	五十六番地	内山 寅吉	全	町	三十五番地	石塚 彌太郎
全	町	二十一番地	武内 時三	全	町	三番地	山縣 函館支店
全	町	十五番地	三伊豫田 德次郎	全	町	三十番地	村上 金藏
全	町	二十五番地	小杉 良吉	全	町	四十九番地	最上 長吉
全	町	四十九番地	及川 榮之助	全	町	二十二番地	岩佐 梅太郎
全	町	八番地	石垣 隈太郎	全	町	三十七番地	瀧野 惣次郎
全	町	四十八番地	柳 盛次	全	町	四十八番地	鹽崎 政吉
全	町	十番地	渡邊 市郎	全	町	五十六番地	相川 四郎
全	町	五番地	納代 東平	全	町	三十一番地	東浦 幸次郎
全	町	五十六番地	勝部 長太郎	全	町	二十四番地	白 濱 隆
全	町	三十六番地	佐藤 元吉	全	町	三十三番地	釣田 敷惠
全	町	二十一番地	和荒田 熊次郎				
仲濱町	四番地	岩出 支店	全	町	十三番地	森 卯兵衛	
全	町	二十六番地	橋本 正三郎	全	町	十八番地	平出 商店

全	町	十三番地	藤井 兼吉	全	町	二番地	船山 清藏
全	町	二十九番地	大越 久太郎	全	町	二十七番地	片谷 勇藏
全	町	四番地	高橋 善平	全	町	十九番地	川端 石太郎
全	町	十番地	古谷 晋五郎	全	町	十一番地	田邊 總左衛門
全	町	六番地	豊 大 號	全	町	六番地	裕 大 號
全	町	六番地	源 泰 永 號	全	町	六番地	慎 錫 榮 號
全	町	六番地	裕 源 盛 號	全	町	回漕店方	山田 直次郎
全	町	二十二番地	松橋 象作	全	町	十四番地	秋田物産商會 田中 武櫻

西濱町	二十八番地	太刀川 善吉	全	町	二十二番地	久保 彦助	
全	町	十九番地	西出 孫左衛門支店	全	町	二十七番地	大井 梅次郎
全	町	三十三番地	津田 善右衛門	全	町	三十二番地	本庄 房吉
全	町	三十二番地	佐藤 甚之助	全	町	三十九番地	阿部 彦七
全	町	十三番地	田端 半七	全	町	三十九番地	山口 喜平
全	町	三十七番地	酒谷 小三郎	全	町	十九番地	小熊 幸一郎
全	町	三十四番地	柴田庄藏方 落野 長兵衛	全	町	二十三番地	濱崎 治助

西濱町	十七番地	森 與 六	全 町	二十九番地	新 與 三 郎
辨天町	十三番地	笹野 榮 吉	全 町	七番地	菅 野 喜 助
全 町	三十九番地	桂 久 藏	全 町	二十三番地	山 本 元 吉
全 町	九番地	能 戶 豊 吉	全 町	一番地	柳 田 出 張 店
全 町	二十七番地	八 田 兼 太 郎	全 町	七十五番地	越 田 小 太 郎
全 町	五十一番地	石 崎 傳 三 郎	全 町	三十九番地	瀬 川 支 店 小 笠 原 金 次 郎
全 町	十六番地	後 藤 仁 作	全 町	七十七番地	岩 淵 忠 藏
幸 町	二番地	前 田 嘉 左 衛 門	全 町	三番地	岩 崎 岩 次 郎
全 町	九番地	板 村 助 右 衛 門	全 町	六番地	田 中 仙 太 郎
全 町	七番地	石 垣 秀 助	全 町	八番地	石 倉 勝 次 郎
全 町	八番地	山 田 彌 作	全 町	八番地	大 庭 彦 平
全 町	一番地	大 道 和 作	全 町	九番地	船 木 德 松
全 町	二番地	竹 坂 伊 代 吉	全 町	二番地	佐 野 喜 代 八

鍛冶町 三十八番地 田村 音松 全 町 五十七番地 永野 彌平

小舟町 四番地 仙田 巳之松

大黒町 四十三番地 高橋 松太郎 全 町 二十六番地 栗山 三慶
 全 町 五十一番地 荒井 勘次郎

豊川町 十番地 毛利 甚兵衛 全 町 五十三番地 松 田 夕 力
 全 町 八番地 高杉 藤三郎 全 町 一番地 大橋 織太郎
 全 町 五番地 森 嘉美太 全 町 二十三番地 水口 忠三郎
 全 町 四番地 長嶋 武次郎 全 町 五番地 藤 堂 利 吉
 全 町 一番地 岡 喜一郎 全 町 五十三番地 小 林 録 太 郎
 全 町 五十番地 佐 藤 善次 全 町 四十七番地 小 池 藤 五 郎
 全 町 十二番地 相 川 與三郎 全 町 五十一番地 井 上 竹 次 郎
 全 町 四十九番地 仲 伊 三 郎 全 町 三番地 加 賀 谷 富 藏
 全 町 二十一番地 佐 野 乙 五 郎 全 町 二十四番地 本 間 富 治 郎

東川町 二百九番地 塚田才次郎 全町 百九番地 小林喜一郎
全町 二百卅二番地 長谷川出張所主 長谷川藤次郎

山脊泊町 八十五番地 大久保幸作

海岸町 十七番地 森國五郎

現任役員名

正取締	山本巳之助	副取締	岡本忠藏
常議員	杉村福松		豊島三策
	福泉榮造		武内時三
	毛利甚兵衛		谷津菊右衛門
	服部半左衛門		太刀川善吉
	川名得太郎		佐々木忠兵衛
	森卯兵衛		内山寅吉
	藤井利三郎		

東川町 二百九番地 塚田才次郎 全町 百九番地 小林喜一郎
全町 二百卅二番地 長谷川出張所主 長谷川藤次郎

山脊泊町 八十五番地 大久保幸作

海岸町 十七番地 森 國五郎

現任役員名

正取締	山本巳之助	副取締	岡本忠藏
常議員	杉村福松		豊島三策
	福泉榮造		武内時三
	毛利甚兵衛		谷津菊右衛門
	服部半左衛門		太刀川善吉
	川名得太郎		佐々木忠兵衛
	森卯兵衛		内山寅吉
	藤井利三郎		

大那嶺山半毛調査報告書

支那輸出羊毛調査報告書

目次

緒言

本邦羊毛輸入ノ趨勢、本邦ニ於ケル支那羊毛ノ地位……………一頁

本論

第一章 羊毛ノ産出……………八

第一節 産地ノ範圍……………八

第二節 産地ノ區別……………一

第三節 産地ノ狀況……………三

第二章 羊毛ノ種類……………四

套毛、抓毛其他……………五

第三章 羊毛ノ品質……………八

附注文上ノ注意(支那羊毛ノ品別)……………九

第四章 内地輸送ノ狀況……………二一

 内地運送機關、輸送日子……………二一

 羊毛出市期、略圖、荷造……………二三

 運送料、其他ノ費用……………二四

第五章 羊毛取引ノ狀況……………二五

 第一節 集散地取引狀況……………二五

 商人ノ種類取引……………二八

 第二節 天津市場取引狀況……………二九

 商人ノ種類、取引、外國商人……………三〇

 買辦、連號……………三五

第六章 輸出……………三九

 荷造、費目……………四三

支那輸出羊毛調査報告書

(明治三十八年九月調)

本科第三年生 德 永 政 一

緒 言

明治十年初メテ毛織業ノ我國ニ開カレテヨリ年ヲ閱スルコト僅カニ二十有餘其間多少ノ浮沈ナキニアラズ、シカモヨク難關ヲ排シテ挫折セズ、隆々日ヲ追フテ興リ年ト共ニ進ミ來ルノ觀アリ、未ダ尙ホ外國製品ノ供給ヲ辭スルニ至ラザルモ、眼ヲ既往ノ歴史ヨリ轉ジテ今日ノ盛況ニ及ボサバ、蓋シ思ヒ半バニ過グルモノアラン、思フニ此年月ノ短少ナルヲ以テシテ克ク今日ノ發達ヲ致セルモノ、一ニ需要ノ向上ニ基因セズンバアラズ、我國由來此種ノ原料ヲ缺ギ、爾後開國ニ到ルマデ、住民ノ衣服ハ殆ンド皆ナ植物性纖維ヲ以テ製作セシモ、毛製品ノ、輸入ニヨリテ紹介セラレシ以來、漸次其需要ヲ喚起シ、初メハ官邊ノ需要ヨリ延ヒテ一般士民ノ間ニ流布スルニ至レリ、其今日ニ於ケル用途ハ單ニ所謂洋服トシテノミナラズ、一般防寒ノ目的ニ使用セラルハ勿論、進ンデハ汎ク衣服ノ斑ニ伍スルニ至レルヲ見ル、之ヲ聞ク凡ソ國ノ東西ヲ問ハズ衣服ノ材料ハ植物性纖維ノ製品ヨリ動物性纖維ノ製品ニ轉ズルノ傾向アリト云フ吾人ハ少ナクトモ被服用トシテ毛製品ノ長所多クアルヲ認ムルト共ニ、其前途ニ就キ多大ノ望ミヲ囑セズンバアラズ、果シテ此クノ如クンバ毛

織業ノ發達マタ期シテ待ツベク、從テ原料ノ輸入ガ、需要ノ増進ニヨリテハ勿論輸入製品ニ代ハツテ、向後益々増長セラルベキハ之ヲ統計ニ徴スルモ明白ナル所トス、而シテ毛製品ノ原料ニハ羊毛アリ山羊毛アリ駝毛羽毛等數アルベシト雖モ、就中羊毛ヲ以テ其主宰トナス、コレ吾人ガ殊ニ羊毛ニ付テノミ云爲スル所以ニシテ、マタ以テ原料全般ヲ標榜スルニ足ランカ

一、羊毛輸入統計表

年次	數量	價額
十六年	二七三、一六八	八九、八四五
十七年	一五三、六九一	四二、五一八
十八年	二五五、二三八	七五、三八五
十九年	五〇〇、三三九	一五〇、〇〇一
二十年	六八九、二六七	一八九、八九九
二十一年	八六六、三六四	三〇〇、三六八
二十二年	六五八、八一九	三〇二、〇八五
二十三年	八六七、六五二	三六九、九一四
二十四年	四九〇、〇七五	二〇六、五四七
二十五年	八四三、二二三	三〇二、五〇二

二十六年	一、一四〇、二七五	四二五、一二〇
二十七年	一、四八五、五二六	五六七、一九七
二十八年	二、八二九、五五六	一、一三六、九五二
二十九年	二、八七四、八二三	一、〇一七、四四一
三十年	二、七一二、六九五	一、〇六二、三九八
三十一年	二、八三八、八〇一	一、六四二、八一九
三十二年	七、七四六、五〇九	四、三二四、四二七
三十三年	四、五一四、二九八	三、九一九、六九三
三十四年	四、九五二、一九六	三、一二九、三八二
三十五年	四、〇六六、七七七	三、三九七、五六四
三十六年	五、四三二、五七八	四、八一、八一
三十七年	一六、〇一〇、〇七七	九、九七一、〇五五

即チ明治十六年ニ於テ二十七萬三千六百八十八斤此價八萬九千八百四十五圓ナリシモノ明治三十六年ニ至リテハ數量ニ於テ二十倍ニ増進シ五百四十三萬二千五百七十八斤トナリ、價額ニ於テ五十四倍即チ四百八十一萬一千八百十一圓トナレリ、尤モ二十八年ニ於テ激増ヲ見タレドモ爾後益々上昇スルヲ見レバ、輸入ノ増長ハ強チ戰時ノ需要ノミニ基因セルニモアラザルベク、三十七年ノ如キモ日露戰爭ノタメ破格ノ膨脹ニハ相違

ナキモ今後輸入ノ數量ハ少ナクモ五百萬斤ヲ下ルコト稀ナルベシ
 更ニ參考ノタメ本邦輸入毛製品ノ主要ナルモノニ付キ最近三年間ノ對照表ヲ掲グ

品名	明治三十七年		明治三十六年		明治三十五年	
	數量	價格	數量	價格	數量	價格
毛	二六六五	二九一二	九六〇	一、一四四	八八八	九二二
フラン	千方圓	一九八	千方圓	二二四	千方圓	四八七
イタリ	四〇八	一六五	一六二七	六五〇	三、一三〇	一一八一
縮	六二六〇	一一八一	一三二九五	四、一八九	一三、二四一	三、七五四
緬	九八五	六〇九	七三七	四二七	四五五	二四二
ル	一、六三六	一、七五四	二、五三三	二、六一〇	一、八九五	二、〇〇〇
同	一、五七四	八二五	一、六一六	九五四	二、七二六	一、四三〇

右表中セルチスヲ除クノ外他ハスベテ減少ノ傾向ヲ呈セリ、尙ホ毛絲ハ第二次原料品タルコトヲ忘ルベカラズ

以テ輸入ノ趨勢ヲ窺フヲ得ベシ、カクノ如ク羊毛ハ我國固有ノ産ニ非ザルニモ係ハラズ、製絨業ガヨク長足ノ發達ヲ遂ゲ將來亦タ進運ノ光ヲ認メシムル所以ノモノハ其内因、需用ノ増加ニ基クベシト雖モコレガ外部ノ原因ニ至テハ即チ我邦ガ世界主要原産地ヲ距ル比較的遠カラズシテ原料蒐集上好位置ニアルニヨルモノナルコトヲ閑却スベカラズ、其支那ト相距ル僅カニ一衣帶水ヲ以テシ、印度トハ交通及ビ諸般ノ點ニ於テ關係

ノ既ニ密接ナルモノアリ、彼ノ世界主産地ヲ以テ目セラル、濠洲ノ如キ、甚ダ近キト云フニハアラザルモ、尙ホ歐洲諸輸入國ニ比シ其距離彼レノ一半ダニ及バズ、我國ガ羊毛輸入ノ點ニ於テ實ニ世界ノ最好位置ニアルヲ斷言スルニ憚カラザルナリ、此事實ハマタ我國製絨業ノ發達ト相須テ、内地供給ヨリ進ンデ更ニ海外ノ需要ニ應ズルニ便ナルベク、極東市場ハ勿論濠洲印度其他ノ市場ニ於テ勝者ノ地位ヲ占メ得ベキコト強チ不當ノ要求ニアラザルベシ
 殊ニ支那ノ地タル其産出ノ豊饒ナルノミナラズ、距離ニ於テ我ト最モ接近シ、目下我輸入羊毛中最多額ヲ供給セリ

羊毛輸入國別五ヶ年對照表

國名	次					
	三十二年	三十三年	三十四年	三十五年	三十六年	三十七年
濠洲	一一七、四一六	九八七、五一一	九五五、〇三八	八一五、五五九	三、三九〇、〇二六	
英國	七六〇、二一九	六九二、七七四	八六六、四五〇	五六一、二六三	二、四八九、二一〇	
獨逸	五九三、八四九	四三、八八三	三、一三三、三三三	七二五、九一九	三、一六〇、二四七	
支那	一〇七〇、五〇六	六九八、二九六	九〇六、九五七	一、七三七、一三八	一、八二二、八九三	
印度	一一五八、六五一	七三九、六九二	一、一七六、一七四	二、二七〇、四二九	一、八九〇、二〇七	
	九九九、五二三	七七八、六五五	一、二四六、八二〇	一、四一七、一一〇	五、七五六、六〇二	
	二八二、九六一	四四三、六三三	二八八、一二六	三、二四、二〇一	一、八二六、七八五	
	六二六、七一	三四六、〇四九	七六、九五七	九四、五三七	一、〇五五、〇〇〇	
	三六、七三八	一三五、九一六	四三、五三八	五〇、八六〇	六、二四、五六八	

合 計	佛 西		白 耳 義	
	圓 斤	圓 斤	圓 斤	圓 斤
五九一九六九三	四九五四二九八	二〇	五八八六四〇	八二四六六二
三二二九三六二	四九五二一九六	二五	四三六三三五	四六五、一一二
三三九七五三三	四〇六六、七七七	二九九二	四一三、〇四五	五六五、九二六
四八一、八一〇	五四三、一七八	二、三三七	五三六、〇四五	七五七、二二三
九九九一、五五五	一六〇、〇一〇、七七七	八二、九八三	四八七〇一七	五六三、三七四
	一五三、七〇三	二、五四九二	一一二、七七〇	一一二、七七〇
	一五三、七〇三	二、五四九二	一一二、七七〇	一一二、七七〇
	一五三、七〇三	二、五四九二	一一二、七七〇	一一二、七七〇
	一五三、七〇三	二、五四九二	一一二、七七〇	一一二、七七〇

即チ我邦輸入羊毛中價額ニ於テハ濠、獨、英、遙カニ多シト雖モ其數量ニ至テハ支那之ガ首位ニアリ、支那羊毛ガ假令品質ニ於テ彼等ニ劣ル所アリト雖モ、價格ノ低廉ナルノ故ヲ以テ強チ其品位ヲ貶スベカラズ、彼我距離ノ最モ接近セルノ事實ヲモ多少斟酌セザルベカラズ、且ツ其品質ガ到底濠洲産ト比肩スル能ハズトスルモ生産上尙ホ幾多改良ノ餘地アルベク、製品ニヨリ他國産ト同一ノ目的ニ副フモノアル以上、支那羊毛ノ輸入ハ我ニ取テ遙カニ好都合ナリ、將來ト雖モ恐ラクハ永ク主要ノ地位ヲ保ツナランカ、然リ而シテ支那羊毛ノ輸出額ガ、カクノ如ク多大ナル所以ノモノハ、同國ガ原産國ニシテ、彼ノ英獨ノ如キ自國ノ産物ナカラザルニモ係ハラズ尙ホ多量ノ原料ヲ輸入セルニ反シ、原料ソノ儘ヲ使用スルニ非ズンバ即チ大部分ヲ以テ海外製造國ニ供給スルノ状態ニアルヲ以テナリ、支那製絨業ノ發達ガ今後尙ホ歳アルベシトセバ、同國ハ我邦ニ對シテ依然主要輸出國タルベシ

而シテ支那羊毛ノ需要先ハ我邦ヲ初メトシ、其他汎ク歐洲ノ諸國ヲモ含メリ、支那羊毛ノ割合ニ廉價ナルノ

事實ハ之ト遠隔セル歐洲地方ニ向テ輸出セラレ收支尙ホ相償フヲ得ルニヨリテモ亦タ明白ナルベシ、加之支那羊毛ノ品位ガ常ニ劣等視サレ從テ其用途ニ若干ノ制限ナキニアラズト雖モ、マタ支那羊毛トシテ適切ノモノナキニアラズ羅紗トシテ不可ナシ「ブランケット」「カーベット」トシテ更ニ可ナリ、其他粗キ毛織物トシテ適セザルハナシ、而シテ由來支那羊毛ノ殊ニ劣位ニ置カレシ所以ノモノハ、生産者ガ精撰及ビ洗毛ニ從事セザルノミナラズ、砂落シノ如キマタ之ヲ顧ミルモノナク、反テ故意ニ砂土ヲ混ズルモノアリ、其純度高キモノスラ尙ホ一割内外ノ砂土ヲ含ムト云フ、而モ是レ品位上第一ノ欠點ニシテ並ビニ低價ノ主因ナリトス、然レドモ凡ソ此等ノコト、都テ人工ニ係ルニアラズンバ、即チ人意ニヨリテ改善シ得ベキ業ニ屬スルモノ多ク、尙ホ且ツ、近來輸出ノ増加ニツレテ牧羊者ノ注意ヲ喚起スル點モ少ナカラザル可ケレバ、將來支那牧畜業ノ進歩スルアラシカ、種々ノ點ニ於テ從來ノ欠ヲ改タメ得ベキヲ信ズルナリ、抑モ支那牧羊者ガ從來毛質ニ注意ヲ拂フコト比較的少ナカリシ理由ハ、被服用トシテ機械スルコトナク、スベテ毛皮其儘ヲ用井、多量ノ砂塵ハ到底其清淨ヲ保持スルヲ許サズ忽チニシテ汚穢ナル土色ニ變ゼシムルヲ以テ、初メヨリ其毛色ヲ云爲スルノ違ナキコト、及ビ羊ハ此等産地ニ於テハ肉食用トシテ牛馬ニ比シ遙カニ需要多ク、少ナクモ北京以西一帶ニアリテハ朝夕ノ食膳ニ羊肉ノ上ラザルコト殆ンド稀ニシテ從テ毛質ノ如何ヨリモ寧ロ肉質並ビニ肉量ニ重キヲ措ケルヲ以テナルベシ、然レドモ近年外邊ノ需要頻リニ加ハルアリ、輸出ノ益々獎勵サル、ニ至ラシカ、注意ヲ毛質ニ轉ズルノ時來ルベキヲ疑ハズ

本論

第一章 產出

第一節 產地ノ範圍

支那ノ地タル、領域甚ダ廣ク、從テ土地ニヨリテ牧羊ニ適否アルハ論ヲ須非ザルモ、支那一帶其南北ヲ通シテ、汎ク分布セラレタルモノ、如シ、蓋シ支那ノ地、由來豊富ナル諸種天產物ヲ有セルニモ係ハラズ、工業トシテ見ルベキモノ少ナク、從テ天產物中、農業ヲ除クノ外、特ニ加工ヲ要スルモノノ如キハ、殆ンド利用セラレズ、農業ハ依然國產ノ首腦ニシテ就中牧羊業ノ如キハ、其好適ノ地多ク羊ノ用途少ナカラザルト、及ビ殆ンド加工ヲ要セザル等ノ理由ニヨリ、古來有勢ナル生業ノ一タリ、而シテ其氣候ノ點及ビ地味ノ點ヨリ見ルニ、南部ニ於ケルヨリモ北部地方ニ於テ、遙カニ牧羊業ノ隆盛ナルヲ知ル、宜ベナル哉、支那羊毛ノ產地ガ蒙古ヲ本宗トシ、北清及ビ滿州地方ハ云フニ及ハズ、其他西部一帶ノ内地ニ亘レルヤ、カクノ如ク羊毛ノ產出ガ北部乃至西部ニ盛ニシテ、南スルニ從テ振ハズ、特ニ楊子江沿岸及ビ其以南ニ於テ羊影稀ナル所以ノモノハ、蓋シ左ノ理由ニ基クナランカ

- 一、北方ハ雨量少ナクシテ、氣候ノ乾燥ナルコト
- 二、冬季嚴寒ノ候ト雖モ、降雪稀ナルコト

三、氣候ノ寒冷ナルガタメニ、スベテノ獸毛ヲシテ柔軟且ツ濃厚ナラシムルコト、從テ防寒用ニ適スルコト

四、氣候溫和ヲ欠キ、地味亦タ南方ニ比シテ耕耘ニ適セズ、殊ニ西北内地ニアリテハ一面天然ノ牧地ニシテ、山野共ニ牧草ヲ以テ充タサル、モノ多キコト

五、支那人ハ古來肉食ノ民ト稱ヘラレ、北部一帶ノ住民ハ穀菜ノ供給豊カナラザルガタメニ、殊ニ此傾向アリ

其他人智ノ開明セザル、燃料ノ缺乏セル、(一般ニ樹木不足シ家屋其他ノ建築ニモ成ルベク瓦石土ヲ用キタレバ、アル地方ノ如キ、遠ク屋上ヲ瞰下スレバ、全ク砂原ノ觀アリ、北京、張家口間ノ如キ、少許ノ楊柳樹ヲ除クノ外樹木殆ンド、皆無ニシテ、燃料トシテ、盛ンニ路上ノ馬糞ヲ用井居レリ)及ビ土地ノ寧ロ牧畜地ニ適セルコト等ノ理由ハ工業ノ發達ヲ拒絶シテ產業ヲ農ノ一方ニ偏セシメ、牧畜業ヲシテソノ主ナル一業タラシメタルナリ、殊ニ蒙古ノ如キ、土民ハ悉ク遊牧ノ民ニシテ、牧畜ハ殆ンド唯一ノ生業ナリト云フ、蒙古ガ支那羊毛ノ本場タル所以、マタ推知スルニ難カラザルナリ

今、上記產地ヲ省ニ分チテ舉グルトキハ、即チ左ノ如シ

蒙 古 (内蒙古ヲ謂フ、就中西部尤モ名アリ)

甘肅省 (蒙古ト相接シ、一產地帯ヲ形成ス)

山西省

陝西省
雲南省
河南省
直隸省
山東省
盛京省 (東蒙古產ト合セラル)

等其主ナルモノナルベシ

更ニコ、ニ附加スベキハ、此等產地ヨリ輸出サル、モノハ、一ニ直隸省天津ヲ經由スルモノノ如シ、最(モ)上海港ノ輸出力年々巨額ナルハ、該地カ支那貿易中心市場ニシテ支那外國貿易上、他ノ各港ト本支ノ關係ニアリ、何地ノ取引ヲ開ハズ、外人ノ支那貿易ニ從事スルモノハ、先ヅ本店ヲ上海ニ設置シ、他港ニアルモノハ多ク之ガ支店ナルガ故ニ、上海ハ清國產輸入港ニシテ、同時ニ最後ノ輸出港タリ、其羊毛輸出ニ於テモ、一旦天津ヨリ輸出サレタル取引濟ノ貨物カ、更ニ上海ニ廻航サル、ニ過ギズ、又近年秦皇島ヨリ幾分ノ輸出アルモ、同港ハ天津ノ冬期間補助港ニシテ其輸出ハスベテ、天津ニ合セラルベキモノトス、蓋シ產地ノ範圍ニシテ、既ニカクノ如ク、殆ンド北部ニ限定セラレ、天津ハ北清及ビ蒙古ノ唯一出口地タレバナリ、以後内地交通機關ノ發達ニヨリ、或ハ輸出地ノ位置ニ多少ノ變動ヲ來スヤモ知ルヘカラズト雖モ、供給ノ豊富ナル及ビ從來ノ古キ關係ハ、容易ニ天津ノ此地位ヲ奪ヒ去ラシムルモノニアラズ、コレガ故ニ天津ハ少ナクト今モ

日、唯一ノ輸出市場ト見ルヲ得ベク從テ天津ヨリ輸出サル、モノニ付テ説述スルトキハ即チ支那輸出羊毛ノ全部ニ付テ云フト異同ナシ

第二節 產地ノ區別

產出ノ地方ニヨル一定ノ區別ナキモ、普通ニハ主產地ヲ大別シテ左ノ四種ニ分ツ

- 一、東口
- 二、西口
- 三、西路
- 四、北口

以上ハ蒙古及ビ其附近一帶ヲ四分シテ此名稱ヲ附シタルモノニシテ、各其別ヲ異ニスルニヨリテ、羊毛ノ品種マタ大体ニ於テ差別アルモノ、如シ、西路ハ陝西、甘肅以西全部ヲ網羅シ、西口ハ山西北境歸化城附近ヲ包括シ、東口ハ直隸北西部張家口一帶ノ地ヲ指シ、北口ハ蒙古喇嘛廟一部ノ地方ヲ含ム
以上ハ主產地蒙古一帶、即チ所謂口外產ノ區分ニ過ギズ、此外尙ホ產地トシテハ直隸、河南、山東ノ諸省アルコト、前章述ベタルガ如シ

要之蒙古ハ支那羊毛ノ主產地ニシテ、住民到ル處牧羊ノ業ニ從事シ、從テ其規模頗ル大ニシテ、一人ノ所有大抵萬ヲ以テ數フト云フ、而シテ西ニ進ムニ從テ盛ンニシテ、西蒙古ヲ以テ產地ノ大宗トナス、乃チ上記區

別ニヨルトキハ、西路ハ品種産額ニ於テ首位ヲ占メ、西口之ニ次ギ、東口北口順次ニ其後位ニ列ス、反之、支那本部ニアリテハ、何レモ散點セル小規模ノ産地ニシテ、從テ蒙古ニ於ケルガ如ク、産出上殊ニ名稱ノ附セラル、モノナシ

次ニ羊毛集散地ナルモノヲ見ルニ、其周圍ノ産出狀況ニヨリ大小異同アリト雖モ、要スルニ生産地ノ圈内ニアリテ、自ラ尙ホ一ノ生産地タルモノナリ、交通運輸ノ衝路ニアリト云フヨリモ、寧ロ一生産地帯内ノ主要部ニ存セルモノ、如シ、サレバ例ヘバ張家口ヲ以テ無二ノ集散地ナルカノ如ク思惟スルハ誤リナリ、何ントナレバ、羊毛ノ賣買ハ各集散地到ル處ニ行ハル、モノニシテ、張家口ハ地理上他口産ノ通過地ニ當リ交通上極要ノ位置ヲ占ムル一驛タルノ外、單ニ東口産ノ集散地タルニ過ギザレバナリ

- 左ニ各産地帯ニ付キ集散地ノ主ナルモノヲ舉クレバ大略次ノ如シ
- 西路 西寧、涼州、甘肅、中衛、石嘴子、八里坤、永昌
- 西口 歸化城、豐鎮
- 北口 喇嘛廟(土語ドロンノル) 哈達
- 東口 張家口、宣化府
- 直隸 順德、河間、保定、正定、辛集
- 河南 河南、懷慶
- 山西 蔚州、太原、大谷、壽陽

山東 臨清、鄒村
 盛京 錦州(蒙古東部地方ノ産ヲ含ム)

第三節 産地ノ狀況

一、蒙古地方

上節屢々述ベシカ如ク、蒙古地方ハ支那産出羊毛ノ最主要部ヲ占メ純然タル牧羊ノ地ニシテ、住民ハ遊牧ヲ事トシ常ニ一定ノ居所ナク、羊其他ノ畜類ト共ニ水草ヲ追フテ牧野ヲ徘徊シ、其住屋ト稱スルモノハ木ヲ棟トシ、毛皮又ハ綿布ヲ以テ巧ミニ構成セル所謂蒙古「てんと」ナルモノニシテ自在ニ開閉スルコトヲ得ベク(降雨ノ虞レ始メテ不必要ニシテ、只ク避寒防寒ノ用ヲ達スレバ足ルヲ以テ、カクノ如キ家屋ニテ充分ナリトス) 家房ヲ擔ヒテ諸所ニ居ラ轉ズト云フ其一人ノ飼養スル羊ノ數ハ大抵萬ヲ以テ數フベク牧野ニ放飼シテ、夜ハ犬ヲシテ監視ノ任ニ當ラシム犬ノ數ハ一人太抵五六頭ヲ有スト云フ而シテ犬ノ任務ハ外圍ノ警戒ノミナラズ又常ニ羊ノ斑ニ列シテ、脱離セントスルモノアルトキハ、主人ノ命ノモトニ、之ヲ牽制スルニアリ、斯クノ如クニシテ、牧羊者ハ牧草ノ盡クルヲ待チテ、更ニ他ノ草原ヲ求メ、住所一ナラズト云フ

二、其他地方ノ狀況

蒙古其他西部ノ牧羊業盛ナル地方ニアリテハ、其狀況上記ノ如シト雖モ、其他ノ地方、即チ支那本部ニアリテハ、地味稍ヤ耕耘ニ適スルヲ以テ、高粱、麥、其他常食トスル穀菜ヲ耕ヤスモノ少ナカラズ、從テ牧畜業

ハ蒙古地方ニ於ケルガ如クシカク隆盛ナラズ、其規模亦タ小ニシテ、一人ノ所有羊數大抵千頭内外ナリト云フ、然レトモ此ノ如キヲ以テスラ北清内地ノ塵埃多キ、途ニ羊群ノ來去スルニ會セバ風ナキ時ニ於テ尙ホ砂煙ノ毎ニ數百尺ノ高キニ上昇スルヲ見テモ、其數ノ侮ドルベカラザルヲ知ルベシ此等北京以西ノ地方ニアリテハ殊ニ樹木ニ缺乏シ、山腹平野ノ諸處ニ白群ノ蝨々スルヲ認ムベク就テ之ヲ見ルニ一二ノ牧羊者ガ羊群監視ノ位置ニアリテ悠然羊群ト共ニ牧草ヲ追フテ徘徊セリ、此等牧羊ノ中、アルモノハ之ヲ採毛ノ用ニ供シ、アルモノハ之ヲ食用ノ途ニ充テ、多數ノ群羊ヲ追フテ往イテ都市ニ鬻グモノアリ、サレバ此地方ニ於テスラ、路上羊肉羊皮ヲ見ザルコトナク路傍ノ乞食ニ至ルマデ皆羊皮ノ被服ヲ有セザルモノナシ

第二章 種類

綿羊毛ハ之ヲ大別シテ套毛^{ダオマウ}及ビ抓毛^{チアウマウ}ノ二種トナスコトヲ得、此二種ハ各採取ノ法ヲ異ニスルノミナラズ尙ホ其毛質ニ於テ同シカラズ、抓毛ハ絨即チ俗ニ所謂綿毛ニシテ、纖維小ニシテ柔軟ナレドモ、套毛ハ纖維大ニシテ、毛質マタ粗豪ナリ、抓毛ハ内部ニ向テ灣曲セル櫛ヲ以テ抓キ取ルモノニシテ、春季絨ノ脱體スルニ際シテ之ヲナシ、套毛ハ春夏秋ノ三期ニ於テ、羊體ヨリ剪取スルモノナリ、但シ西蒙古地方ニアリテハ高地ニシテ氣候寒冷ナルガタメニ、夏ノ一期ニ剪取シ得ルノミト云フ
更ニ之ヲ細別スルコト左ノ如シ

一、套毛

春暖ノ候到リテ、一旦絨毛ヲ抓キタル後、温氣益々加ハリ羊體既ニ寒氣ニ冒サレザルニ及ンデ、體毛全部ヲ剪ミ取リタルモノ即チ套毛ナリ、毛根ニ脂肪附着シ、毛林相連ナルヲ以テ形體ヲ亂サズノ儘之ヲ剪取スルコトヲ得ベク、普通之ヲ捻ヂテ繩ノ如クナシ、丸卷キトシテ荷出シスルヲ以テ Hope wool ノ名アリ、毛線、抓毛ニ比シテ粗大且ツ強韌ナルヲ以テ「ぶらんけつと」類ノ製造ニ適ス

上ニ述ベシモノハ普通ノ套毛ニシテ、此外大形ニ剪ミ取リテ一枚トナレルモノアリ、大片套毛或ハ單ニ大片毛ト云フ、概チ腹背部ヨリ取レルガ故ニ上等品ナリ、又タ剪取區域小ニシテ繩トナラザルモノアリ、散套毛ト云フ、品質稍ヤ劣レリ、更ニマタ一度套毛ヲ剪取シタル後生シタル毛ヲ秋毛ト稱ス、夏生毛ナルヲ以テ品位尤モ下レリ

一、抓毛

冬期ノ寒氣ニ應ジテ生シ來レル綿毛ガ、春期ヲ迎ヘテ温暖ヲ覺ユルニ至リ、自然ニ脱退セントスルヤ、其脱毛ノ期ニ先ダチ、適當ノ時ニ於テ櫛ヲ以テ抓取ス、即チ抓毛ナリ、纖維小ニシテ毛質柔軟ナルヲ以テ、尤モ羅紗類ノ機械ニ適ス

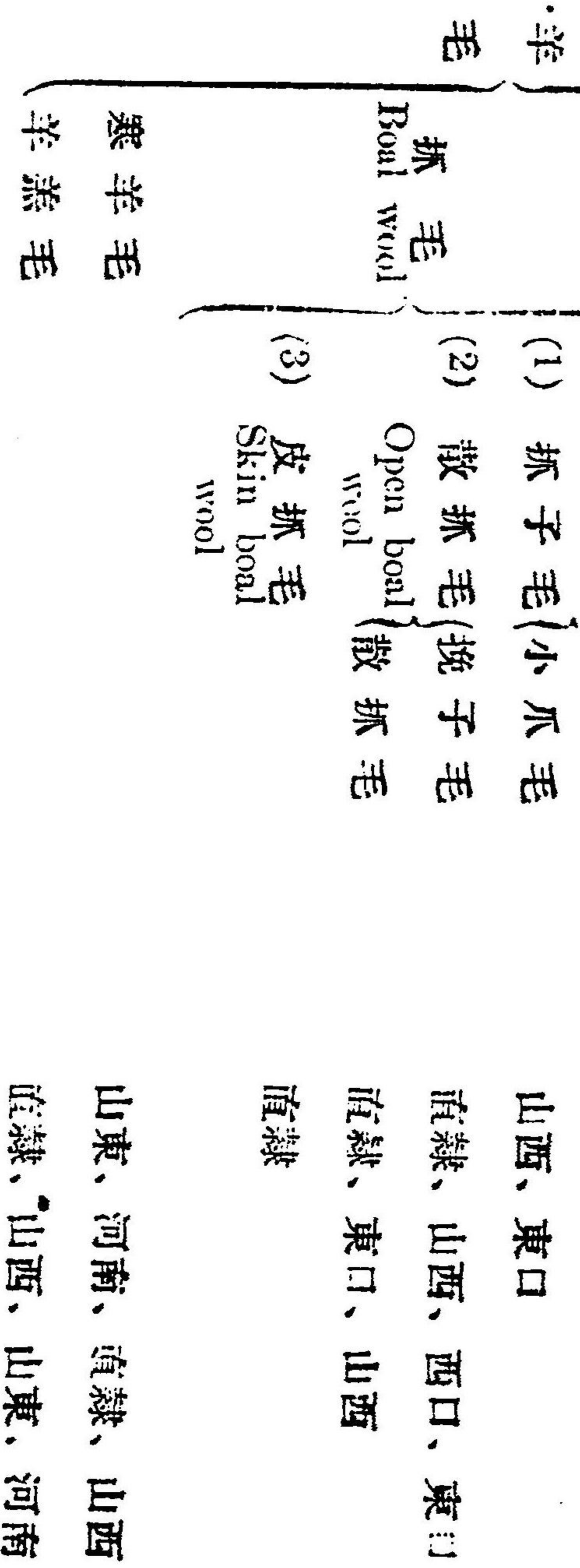
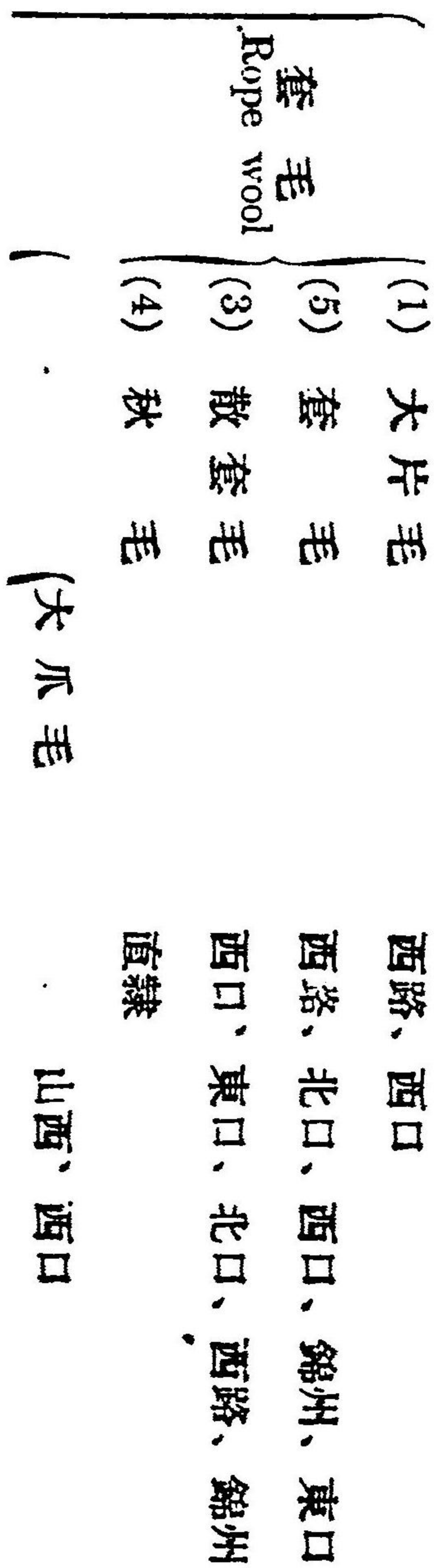
其抓取シテ玉トナセルモノヲ瓜子毛ト云ヒ、之ニ大爪毛、小爪毛ノ二種アリ、其名ノ示スガ如ク、玉ノ大小ニヨリテ區別セラル、何レモ纖維比較的長クシテ、品質一般ニ良好ナリ、Boal wool ト稱ス、次ニ抓毛ノ玉トナシ能ハザル短カキモノ、及ビ第二番毛ヲ抓取セルモノヲ散抓毛ト云ヒ、分チテ散抓毛及ビ挽子毛トス、前者ハ毛丈短カクシテ散狀ヲナスモノ、後者ハ其中ノ精品ヲ撰ビテ緩キ大玉トセルモノナリ、此外尙ホ抓毛ノ

一種ニシテ皮抓毛ナルモノアリ、屠殺シタル羊皮ヨリ抓キ取ルモノニシテ、從テ死毛ヲ含ムコト多ク品位下列ニアリ、skin boal wool コレナリ

以上套毛抓毛ノ外羊毛ニハ尙ホ寒羊毛羊羔毛アリ、寒羊毛ハ同ジク綿羊ヨリ得タルモノナレドモ、普通ノ羊毛ニ比シ毛質更ニ柔軟ニシテ、纖維極メテ細ク、而シテ強力ニ乏シ、多ク山東地方ニ産ス、清曆二月所謂晴明ノ候剪取スルモノニシテ、蓋シ此地方ガ他ノ産地ニ比シテ氣候温暖ナルヲ以テ、比較的早く採取シ得ルガユヘナルベシ、羊羔毛ハ小羊(羊羔)ヨリ剪リ又ハ抓キ取レルモノニシテ毛質極メテ柔軟纖弱ニシテ、毛丈ケ亦タ甚ダ短カシ

今上記種別セル所ヲ表記シ、更ニ其主要ナル産地及各種中ニ於テ一般ノ品位等級ヲ數字ニヨリテ示ストキハ左ノ如シ

但シ各種ニ付テ品位ノ優劣ヲ論ズルニアラズ、何ントナレバ套毛抓毛寒羊毛等何レモ其用途ヲ同ジウセザレバナリ



此内小爪毛及ヒ寒羊毛ハ羅紗製造ニ最モ適セリト云フ

要之概シテ套毛ハ西部ニ多クシテ、抓毛ハ東部ニ豊カナルモノ、如シ、西路中殊ニ西包頭一帶以西ヲ以テ套毛ニ冠タリトシ、之ニヨリテ略ホ東西ヲ劃シ得ベク以東順次ニ爪子毛散抓毛皮抓毛ヲ産スルモノニ似タリ、寒羊毛ハ山東河南ヲ主トシ、羊羔毛ハ直隸ヲ以テ名アリトナス、蓋シ西路ハ氣候寒冷ニシテ、抓毛ノ採取困難ナルコト、及ビ套毛剪取ノ時期遅ル、ノミナラス、其夏期ハ漸ク他地方ノ春期ニ該當スルヲ以テ採毛ノ機少ナシト雖モ、從テ一回ノ採取量大ニシテ且ツ羊頭ノ數ニ於テモ嶄然他ノ産地ニ超越セルヲ以テナルベク、又山東直隸河南地方ニアリテハ氣候温暖ナルガタメ套毛短カクシテ往々抓毛ト合一シ、殊ニ寒羊毛ニ名アル所以ナリトス

同種類羊毛ト雖モ、尙ホ産地ニヨリテ品質ニ異同アルコトハ次章ニ述ブル所ノ如シ、サレバ種類ハ常ニ産地

ノ名稱ヲ以テ冠セラル、而シテアル種ノ羊毛ニ付キ特定ノ產地ヲ指摘スルトキ、其附セラルベキ名稱ハ、普通其地名ノ頭字ヲ取り、之ニ字ノ字ヲ附スルモノ多シ、例ヘバ涼州(甘肅)套毛ハ涼字套毛ト云ヒ、西包頭套毛ハ包字套毛ニシテ、城字抓毛ハ歸化城抓毛ナルガ如シ

第三章 品位

羊毛ノ品位並ニ其性質ニ付テハ、既ニ世間幾多ノ書中ニ現ハレ居ルヲ以テ、茲ニハ其概略ヲ叙述スルニ止メシ、先ヅ羊毛ノ性質ハ他ノ獸毛ト異ナリ多少捲縮灣曲ノ狀ヲナシ、無數ノ鱗片ヲ以テ蔽ハル、試ミニ一根ヲ取リテ其尖端ヲ把持シ指ヲ以テ他端ニ向テ輕ク扱クトキハ、手ニ鱗毛ノ存在ヲ認メ得ベク、之ガ存在ニヨリテ即チ編合ノ性ヲ備フルモノナリ、毛質柔軟ニシテ彈力並ニ強力ニ富ミ、紡績原料トシテ最も適當ノ纖維ナリトス、一般ニ脂肪塵芥等ヨリナレル雜物ヲ含ムコト甚ダシク、多キハ全量ノ過半ニ及ブコトアルモ、炭酸曹達又ハ石鹼溶液ニヨリテ之ヲ除去スルコトヲ得、普通二三寸ヨリ尺餘ノ長キニ及ブモノアリト雖モ、各用途ヲ異ニスルト云ヘバ長短ヲ以テ優劣ノ標準トナスベカラズ、併シナガラ品位ノ鑑定ハ、之ヲ一般ニ云フ時ハ、毛丈ケ長クシテ、光澤高ク、彈力強力ニ富ミ柔軟ニシテ、死毛ヲ含ムコト少ナク、且ツ毛ノ揃ヒテ不同ナキヲ尙ブ、特ニ支那羊毛ニ付テ注意スベキハ、土砂ノ混入ニアリ、蓋シ砂塵カ飼養中自然ニ羊体ニ附着スルタメニ羊毛ノ垢浸ミ又ハ變色スルモノアリ、ソノ多クハ洗上ゲニヨリテ之ヲ除クヲ得レトモ、(只タ羊ノ糞尿エヨリテ汚レタルモノハ脫色困難ナリト云フ)、羊毛ノ賣買ハスベテ量目ニヨルヲ以テ、土砂混入ノ量ハ極

メテ注意セザルベカラズ、砂土混入ノ原因ガ飼養中自然ノ附着ニヨルヨリモ、寧ロ主トシテ市價昇騰ノ際生産者又ハ輸送者ノ故意ノ所爲ニ係ルモノ多シ、試ミニ一荷造ヲ取り之ヲ檢スルニ多量ノ塵埃附着セルノミナラズ、砂石ノ毛間ニ混入セルモノ少ナカラズ、殊ニ玉及ビ繩玉ノ如キ之ヲ開散スルトキハ内部ニ多量ノ砂土ノ包含セラル、ヲ見ルベシ、而シテ其混入ノ量ハ大抵套毛ニ於テハ一割乃至二割ニシテ抓毛ハ稍ヤ小量ナリト云フ、要スルニ品位鑑定ノコト幾多ノ經驗ニ待ツノ外途ナシト雖モ、品質ハ既ニ產地ニヨリテ略ボ一定セルヲ以テ如上ノ注意ヲ以テセハ品位ノ鑑定正鵠ニ庶幾キヲ得ベケン、唯ダ砂土ノ量ニ付テハ取引ノ際特別ノ注意ヲ要シ、荷造中ヨリ適宜ニ其一部ヲ抜キ取り檢スルコトニヨリテ俵中ニ含まレタル砂土ノ割合ヲ測定セサルヘカラズ、尙ホ毛ノ種類ニヨリテ品位ニ多少ノ見地ヲ異ニスヘキ點アリ、套毛ハ長クシテ強キヲ尙ビ、抓毛及ビ塞羊毛ハ柔カクシテ揃ヘルヲ主眼トス

附、注文上ノ注意

上來羊毛ノ產地種類並ニ品位ノ三目ニ付テ、各別ニ説キ來レリト雖モ、コレ説明ノ便宜ニ出デシニ外ナラズ、產地ニヨリテ品種ヲ異ニシ、同一ノ產地又ハ種類ノモノノ中ニモ亦タ品位ノ高下アリ、從テ賣買上一定セル等級ノ差アルニアラザルヲ以テ、實際ニ於テハ、三者相關聯セサルヘカラズ、換言スレバ羊毛ノ各種ニ付テ、先ヅ產地ニヨリテ區別シ、更ニ其品等ヲ分タザルベカラズ、例ヘバ日本内地ノ製造者ガ散抓毛ヲ仕入レント欲シ該毛ノ何地ニ産シ又ハ何地ノ何種ガ自己ノ望ムモノナルヤヲ知ラズシテ、單ニ散抓毛ノ注文ヲナスガ如キハ甚ダ危險ノ事ナリト云ハザルヘカラズ、又假令其產地ガ東口ナルコトヲ知リテ、東口散抓毛トナスモ、

尙ホ東口散抓毛ノ品等ニ異同アルヲ奈何ンセン、要之、理想ノ注文法ハ東口散抓毛一等品ト云フガ如キヲ以テス、是レ即チ產地種類及ビ品等ノ指摘ニ外ナラザルナリ、然レドモ又タ散抓毛ノ產地豈ニ東口ノミナランヤ、直隸アリ又西口山西アリ其他各種ニ亘リテ產地ヲ知悉シ、各地ニ付テ品等ヲ追究スルハ蓋シ容易ノ業ニ非ザルベシ、今二三ノ例ヲ擧ゲンニ哈達套毛二等品ト云フガ如キハ聊カ不當ナリ、西寧套毛二等品ト云フモ亦タ同様ノ非難アリ、蓋シ前ノ哈達套毛ニハ一等品ナク、スベテ二等品ナレバ殊ニ二等品ト云フノ必罪ナク又西寧套毛ニハ二等品ナク、スベテ一等品ノミナレバナリ、又西寧套毛一等品トシテ注文ヲ發スルモ、既ニ季節ノ過ギタル後ナルトキハ、更ニ翌年ヲ待タザルベカラズ、サレバ仕入ヲナスニハ、其毛ノ買入レラルベキ時期ヲモ熟知セサルヘカラズ、然ラズンバ或ハ注文ノ無効ナルコトアルベシ、又散抓毛ノ如キ地ニヨリテ出デザル年アリ、豫ジメ東口ニ出ツルコトヲ確メタル後ニアラザレバ、東口散抓毛ノ注文ヲ發スルモ、買入ヲナス能ハサルコトアリ、又土地ニヨリテ品質ノ異ナルコト既述ノ如シ、サレバ同種ノ品ト雖モ、一概ニ相場ノ高低ニヨリテ、撰擇ヲ誤マルベカラズ、例ヘバ錦州套毛十六兩ニシテ、西寧套毛二十二兩ナリトシ、前者ガ割安ナリト信スルバ、未ダ事ノ真相ニ通セサルノ譏リヲ免レザルベシ、何レトナレバ西寧産ノ套毛ハ、砂土ヲ含ムコト極メテ少量ナルヲ常トシ、錦州套毛ノ三割減リナルニ比シ僅カニ一割ノ減量ヲ生ズルノミトスルトキハ、西寧産ノ二十二兩ハ一概ニ割高ナリト信ズル能ハサルカ如シ、(此砂石ノ含量ハ尤ヒ注意スベキ事項ニ屬シ、永年ノ經驗上產地ニヨリテ略ボ其量ノ定マレルヲ發見シ得ベシト云フ)

ソノ困難ナル、ソレスクノ如シ、此等ノ事情ニ曉通センコトハ、思フニ一朝一夕ノ業ニアラザルベシ、然レ

ドモ、カク説キ來レル所以ノモノハ、單ニ其煩累ノ點ヲ指摘シテ、徒ラニ其困難ヲ叫ブガタメニアラズシテ、唯ダ此等諸點ノ輕々ニ看過スベカラサルコトヲ言ハンガタメノミ、若シ如上ノ注意ヲ以テ事ニ當ランカ、或ハ過チナキニ庶幾カラン矣

第四章 内地輸送ノ狀況

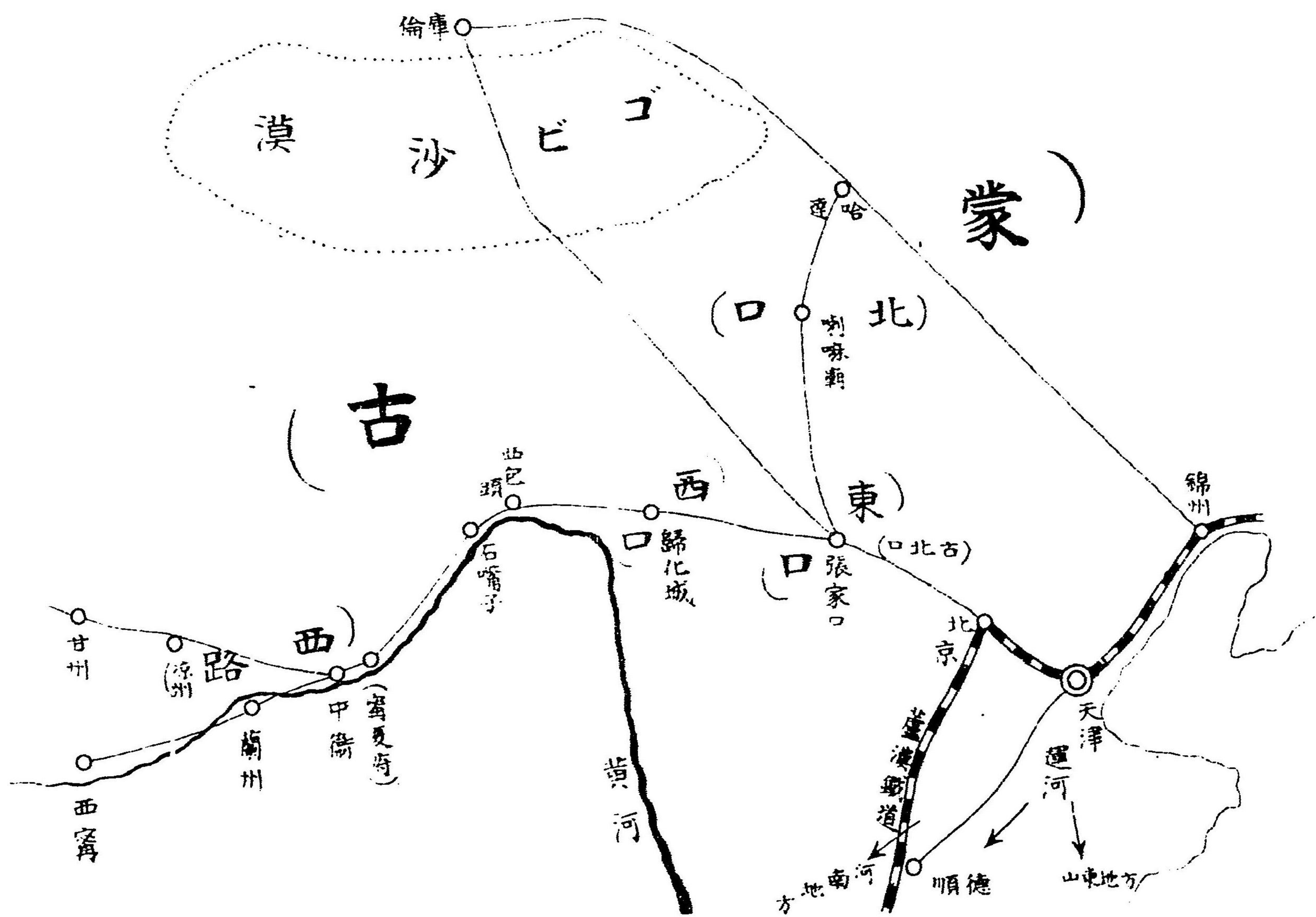
支那内地ハ古來牧畜業盛ニシテ、羊ノ外、馬アリ、駱駝アリ、驢、マダ騾(騾子ト云フ杜陵(牝馬ノ雜兒ナリ)アリ、而シテ内地貨物及ビ旅客ノ運送ハ、スベテ是等ノ畜類ヲ以テ之ニ充テラル、駱駝ハ他ニ比シテ積載力最も多ク、騾子ハ馬驢ニ比シテ強力ナルノミナラズ駱駝ノ如ク歩行遲緩ナラザルヲ以テ、駱駝ト相並ンテ尊重セラル、今各積載力ヲ擧グレバ、驢百五十斤、馬二百斤、騾子ハ二百乃至三百斤ニシテ、駱駝ハ四百斤ナリト云フ、コレガ故ニ馬ハ運送ヨリモ寧ロ騎行ニ適シ、驢ハ小荷物ノ運搬又ハ騎行ニ用井ラル、モ騾子ニ至テハ尤モ運送ニ適シ、駱駝ノ代用ヲナシ得ルノミナラズ、馬車(道傍砂礫深ケレ(前後ニ一頭宛チハ二三頭ヲ附ス)橋(附セル駕ナリ))等亦タ騾子ヲ用フルモノ多シ、駱駝ハ専ラ荷物ノ運搬ニ用井ラレ、他ノ畜類ノ如ク人ノ命令ヲ解シ能ハザルヲ以テ一人ノ先導者常ニ列頭ニ立チテ之ヲ牽キ、繩ヲ以テ尾鼻相連テテ行ク、一列大抵十余頭ヨリ成ル、コレヲ以テ内地各所ノ旅店ナルモノハ、皆ナ旅人ノ宿泊所タルト同時ニ此等家畜ノ休憩所タリ、門壁ニ書シテ駝店、騾店、車馬駝店ト云ヒ草料俱全ト云フハ、スベテコレ旅店ニ外ナラザルナリ

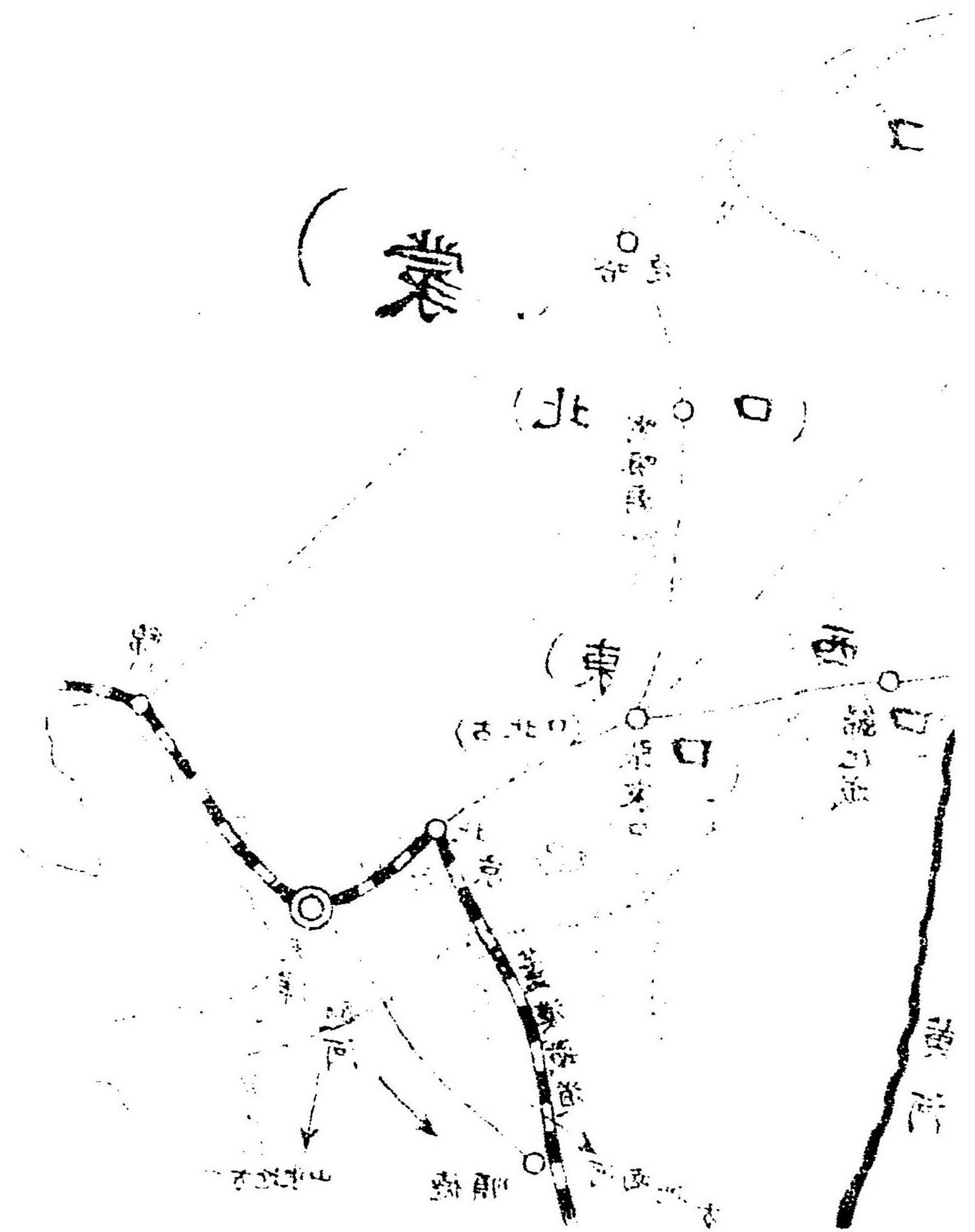
以上ハ支那内地運送機關ノ種別ニシテ、運送業者ナルモノハ即チ其運送機關ノ所有者ニ外ナラズ、而シテ此

等運送ヲ掌ドル者ハ、多ク各地ノ旅店(後條述アル所ノ問屋モ)ナリトス、委託セラレタル貨物ニ付キ、其運送中ノ危険ヲ負擔シテ、輸送ノ事ニ當ルト云フ、内地輸出入貨物ハ鐵道其他河舟ノ便ナキ限り、スベテ上記ノ運送法ニヨルモノニシテ、羊毛モ亦タ其一ナリ、而シテ羊毛ハ其輸出ノ量大ナルト、及ビ主産地ガ天津市場ヲ距ル其ダ遠キノ故ヲ以テ、主トシテ駝背ニヨリ、之ヲ補フニ騾子ヲ以テスルモノ、如シ

先ヅ西路ヨリ述ベンニ、其主産地ハ甘州涼州、永昌、西寧等ニシテ就中甘涼地方ヲ以テ第一トナス、何レモ輸送シテ寧夏府ニ集マリ、更ニ陸路約三十日ニシテ石嘴子ニ達シ、コ、ヨリ船ニヨリテ黄河ヲ下リ、七日ニシテ西包頭ニ至リ、陸上シテ駝背ニヨリ、三日ニシテ歸化城ニ着シ、コ、ニ西口ノ出廻リ品ト合シ、途中豊鎮ヲ經テ日數凡ソ十乃至十一日ニシテ張家口ニ到リ、コ、ニテ更ニ北口、東口ノ産ト會シ、張家口ヨリ更ニ陸路七日ニシテ豊台(北京ノ南部)ニ達シ、コ、ヨリ線路ニヨリ天津ニ向フ、(天津北京間八十餘哩)以前ハ張家口ヨリ通州(天津ノ北部)ニ運ビ、コ、ヨリ河ヲ下リテ天津ニ至リシモ、天津北京間ニ鐵道ノ開カレテ以來、通州ハ殆ンド死市トナレリト云フ

次ニ北口ノモノハ、喇嘛廟ヲ中心トシ、コ、ヨリ張家口マデ六百有餘清里、(一清里ハ我五町余ニ當ル)十日内外ヲ要シ、スベテ駝背ニヨリテ、陸路ヲ通ズ、天津マデ約二十日ノ行程ナルベシ、西口、東口ハ西路ニ付テ述ベタル所ニヨリテ知ルベシ、又東蒙古ヨリ出ヅルモノハ一旦錦州(奉天省)ニ出デ、コレヨリ鐵路天津ニ向フ、其他支那本部中、直隸順德地方ヨリスルモノハ、西河モシクハ蘆漢鐵道ニヨリ山東河南地方ノモノモ、馬車又ハ船ニヨリテ天津ニ輸送セラル、羊毛中、套毛ハ西部ニ多クシテ、抓毛ハ東部ニ多キヲ以テ、抓毛ノ出市期ハ、毎年





早ク、陽曆六月初旬ヨリ二三ヶ月間盛ンニ天津市場ニ現ハレ、悉ク白河ノ結氷期(毎年十一月末ヨリ翌年三月末マデ)ニ先ダテテ終了スルモ、套毛ノ大部分ハ、遠ク西路ヨリ來ルモノナルガ故ニ、漸ク結氷期ニ差迫リテ、市場ニ到着シテ二月末ノモノヲ最初ノ出品トス、故ニ其年ノ船便ヲ捉ヘ難ク、大部分ハ翌年ノ解氷ヲ待チテ、三四月頃盛ンニ天津ヨリ輸出サルト云フ

今上記輸送ノ經路ヲ、略説スルトキハ、即チ別圖ノ如シ

此等内地ニアリテハ路程ハスベテ里數ヲ以テ示サズ、常ニ日數ヲ以テシ、甲地ト乙地間ノ距離三日ヲ要スルトキハ、三天路或ハ三站路ト云ヒ、駱駝ノ行程ニテ七日ヲ要スルトキハ、駱駝ニテ七天路ト云フガ如シ
尙ホ羊毛ノ輸送ハ、多ク駱背ニヨルヲ以テ、暑期中ハ輸送ノ量ヲ減シ若シクハ運搬ヲ止メ、騾子ヲシテ之ニ代ハラシムト云フ、蓋シ駱駝ハ暑氣ヲ厭フヲ以テ、途中夏季ノ到來スルニ會ヘバ、即座ニ荷物ヲ卸シテ、駱駝ヲ清涼ナル地方ニ遣リテ、休憩ヲ與ヘ、秋氣ノ到ルヲ待チテ、再ビ輸送ヲ始ムト云フ

荷造

内地ヨリ送り出ヅル荷造ハ、粗雜ナル麻袋ニ荒繩ヲカケタルモノ、或ハ白木綿袋ニテ包ミタルモノニシテ、入目ハ一定セズ、套毛ハ大抵百二十斤乃至百三十斤ニシテ、一頭ノ駱駝ニ二俵ヲ積マシメ得ルガタメニ、袋ノ丈ケ短カシト云フ、抓毛ハ大俵小俵アリ、大俵ハ百斤入ニシテ、小俵ハ八十斤入ナリ、蓋シ小俵ハ驢馬ナドニ載セ得ルガタメニ、特ニ小形ニ作レルモノニシテ、夏季駱駝ノ運送ヲ中止スルトキ、主トシテ小俵ヲ用ヅルモノ、如シ、但シ套毛ハ主ニ西路ヨリ來リ、而シテ此地方ヨリ出ヅルモノハ、其季節恰カモ運送中駱駝

ノ休憩ヲ要セザル時ナルヲ以テ、荷造從テ大ナルガ如シ

運送料

運送料モ里數ニヨリテ算セズ、甲地ヨリ乙地マデ幾日ノ路幾何ト定ム、時季ノ都合上、駱駝ノ多少ニヨリ、輸送料一定セザルモ、駱駝ノ行程一日約六十余清里(一清里ハ五町余ニシテ六十里ハ約我十里ナリ)トシ、百斤ノ荷物、七日ノ路ニテ一兩内外ト見レバ大差ナカルベシ、張家口ヨリ天津マデノ輸送料、百斤ニ付キ平均約二兩ニシテ其他ノ諸費用ヲ合シテ、二兩半乃至三兩ト云フ、又順德地方ヨリ來ルモノハ天津陸上ニ至ルマデ、百斤ニツキ八匁(二〇.〇)位ナリト云フ

其他ノ費用

此輸送料ノ外、尙ホ支那内地ニハ、途上幾多ノ徵稅所アリ、所謂厘金稅ヲ初メ、舊關稅、其他諸種ノ交通稅等、極メテ雜多ニシテ、天津府中ニ於テモ既ニ二十余ノ稅局アリト云フ、彼ノ張家口ヨリ北京ニ出ヅルモノスラ、價格百兩ノ貨物ニ付キ、十兩内外ノ稅ヲ負フアリ、更ニ遠隔セル内地ヨリ輸送スルニ於テハ、到底其煩雜苛重ニ堪エザルナリ

然ルニ、外國人ハ單ニ天津ニ於テ三聯單(一切ノ内地稅ヲ免除サルベキ證書)ヲ買フコトニヨリテ、スベテ此等ノ内地稅ヲ免カレ貨物ノ天津ニ着セルトキ、其代價(之ヲ落地稅又ハ子口稅ト云フ)ヲ拂フノミニテ足ル、コレ英國ガ、天津條約ニヨリテ得タルヨリ始マリ、今ヤ外人一般ノ特典トナルニ至レリ、子口稅ハ子口半稅ノ略稱ニシテ輸出稅ノ半額、即チ百斤ニツキ一匁七五ニシテ、一枚ノ三聯單ハ一回ノ輸送ニ對シテ有効ナリ、而シテ三聯單ノ下附ハ一人一枚ニ限

レルニアラズ、人ニヨリテ其數ヲ異ニシ、大ナル取引ヲナスト認メラル、者ハ、從テ多クヲ請求シ得ルト云フ

第五章 羊毛取引

第一節 集散地取引狀況

カクノ如ク、外國商人ガ、貨物ノ輸送ニ内地稅ヲ免カレ得ルノミナラズ、此等支那羊毛ハ小部分ノ天津地方ニ於テ絨氈ノ製織用ニ供セラル、ノ外、他ハスベテ外國ハ輸出サル、ヲ以テ、買手ニ立ツモノハ、殆ンド常ニ外人ナリ、コレガ故ニ各集散地ニハ外人ノ名ヲ以テ買入ニ從事セルモノ多ク、支那商人ノ現ハニ衝ニ當レルモノ現時甚ダ稀ナルヲ以テ、到ル處外人ノ取引行ハル、ヲ見ル、尤モ天津市場並ニ地方ノ支那商人ニシテ、外人ト相並ンデ買入ヲナスモノナキニ非ルモ、自己ノ名ヲ以テスルノ不便ヲ避ケ、何レモ外人ノ看板ヲ借り、以テ三聯單ノ制ヲ利用シ、内地稅ノ徵收ヲ免ル、ノ法ヲ執レリ

事態カクノ如キヲ以テ、外人ハ羊毛ノ買入ニ付テ、頗ル好位置ニアルモノト云ハザルハカラズ、今日外國商人ガ齊シク步武堂々、店旗ヲ翻シテ、内地ニ進入シ、利ニ敏キ支那商人ヲシテ、防グニ術ナカラシメ、彼等ノ市場專斷ヲ避ケ得ル所以ノモノ、實ニコ、ニ在リト謂フベシ

然リト雖モ、外人ガ自ら深く内地ニ入りテ、親シク買入レノ事ニ當ルハ、各地土語ノ一様ナラザルニヨリテ、

非常ニ困難ナルノミナラズ、從テ商談意ノ如ク進ミ難ク、產地ノ人ハ之ヲ見テ、或ハ買氣盛シナリトノ想像ノモトニ賣價ヲ引上グル事ナキニアラズ、是レ外人ヨリ特典ノ充分ナル利用ヲ拒ム一ノ障害ニシテ、勢ヒ清人ノ力ヲ借ルノ必要ヲ生ジ、元來不利益ノ位地ニ立ツベキ支那商人ヲシテ、尙ホ命脉ヲ保タシムル所以ニシテ、左記清商ノ起ツ所強チ理ナキニアラザルナリ

コレガ故ニ外人ハ多ク買辦ナルモノヲ使役シ、代テ之ガ任ニ當ラシム、買辦ハ外人ノ賣買ニ從事セル支那市場ニ於テ常ニ見ル所ノ所謂「こんぶらざる」ナルモノニシテ、外人ニ專屬セル一種ノ商人ナリ、カチテ外人ヨリ資金ノ供給ヲ仰ギ、時ニ自己ノ所有ノタメニ買入ヲナスコトアルモ、常ニ自己ノ計算ト責任ヲ以テ、代辦ノ事ニ當リ、荷物ノ天津ニ到着スルマデ、之ニ關スル一切ノ保管ヲナシ普通ニハ外人ヨリ無利息ヲ以テ資本ヲ借り受クルノ代價トシテ、其儘ノ値段ヲ以テ引キ渡スカ、或ハ外人ト損益ヲ分擔スルト云フ

此外又タ、産地買入ニ赴ク他ノ支那商人モ、スペテ三聯單ヲ用井、外人ノ名ヲ借ルヲ便トスルヲ以テ、外人ハ買辦ニ依頼スルノ外、此等羊毛商人ヲモ使用ス、但シ買辦ノ場合ト異ナリ、天津着荷ノ上ハ賣價ヲ定メテ、外人ニ賣リ渡スモノニシテ、從テ公然、市價ヲ窺テ相應ノ利喰ヲ算入シ得ベク、外人ノ合意ヲ得テ、物品ノ引渡ヲナス、最モ買辦ト雖モ、純然自己ノ所有ニ歸シ又ハ歸スベキ買品ニ付テハ、公然、相當ノ賣價ヲ算定シテ、外人ニ賣リ渡スヲ常トス、加之外人ガ親シク産地ニ出向ハザル限りハ、其代辦者タル買辦ト雖モ、市場相場ノ調子ニヨリテハ、時ニ多少ノ口錢の利喰ヲ其間ニ試ムルコトナキヤヲ保セズ、思フニ、コレ別ニ支那羊毛商人ナルモノノ存在ニ餘地ヲ與ヘタル原因ノ一ニシテ、(其他ノ原因ハ買辦ノ用務カ外人一切ノ關目ニ關スルヲ以テ自ラ産地ニ赴クモノ少ナキコト、及ビ從テ羊毛商人ニ比シテ專門ノ例ヘ

羊毛ノ智識ニ深カラズ出掛買ノ經驗ニ乏シキコト等ナラン殊ニ、外人中ニハ後段述ブル所ノ連號ナルモノヲ作ルコトニヨリテ、支那商人ト最モ密接ナル關係ヲ開クモノアルヲ見ル

然リト雖モ、外人ハカクノ如クニシテ、其特典ノ利用ヲ埋没セシメラレタルニアラズ、受托者即チ是等支那商人ノ持チ歸レル荷物ハ、其委託セル部分ト否トヲ問ハズ、悉ク先ヅ彼ノ手許ニ齎ラシ、其中ニ就テ自由ニ好ム所ヲ取り去リテ殘餘ヲ被委託者ニ引キ取ラシムルノ特權ヲ有セリ、コレ後ニ市場取引ノ生ズル一根源ニシテ、又支那商人ノ之ニ參加スル所以ナリトス

以上、集散地買入ニ從事スベキ内外商人ノ性質ヲ説ケリ、次ニ集散地ニ就テ見ルニ、先ヅ問屋ナルモノアリ、兼ネテ客店ヲ營ミ、市場ヨリ入り來ル商人ハコ、ニ宿泊シテ、問屋ノ手ヲ經テ買入ヲナス、内外商人ノ店舗出張所ナルモノ、多クハ、即チ此問屋ノ一室ヲ借リテ開ク所ノ營業所ニ外ナラズ、而シテ羊毛ノ賣買ハ、問屋ガ、牧民若シクハ牧民中ノ商人ト此等客商トノ間ニ立チテ、賣買保證ノ任ニ當リ媒介ヲナスヲ以テ、問屋ハ即チ仲買ノ一種タリ、尤モ此外ニ尙ホ少數ノ仲買ナルモノアリテ、問屋ト同様ニ一定ノ口錢ヲ得テ、需要供給ノ連鎖ヲナスモノナリト雖モ、問屋ハ既ニ此等商人ノ宿泊所タルガ上ニ、其主眼ガ賣買ノ媒介ニアルヲ以テ、宿料トシテ別ニ支拂ヲ受ケズ、旅客ガ時ニ好意ヲ以テ支拂フコトアルニ過ギズト云フ、加之運送モ亦タ多クハ此問屋ノ司ドル所ナルヲ以テ、問屋ハ實ニ有勢ノ地位ニアルモノニシテ、仲買人トシテ有勢ナルノミナラズ、客商スラ亦タ問屋ノ鼻息ヲ窺ガヒ巧ミニ之ヲ取り入ル、ノ必要アリ、例ヘバ多數ノ客ガ現物ヲ買ハント競フトキ、他客ニ買ヒ占メラレテ、爲メニ不平ヲ漏テスガ如キコトアルモ、介在セル問屋ガ、前約ナリシト云ハ

ハ、ソレ迄ナリ、又荷物が減ジタルタメ駱駝ノ餘剩ヲ來タセル時、自己ノ荷物ノ積載ヲ希フモ、問屋ノ意思次第、他客ノタメニ奪ハル、コトナキニアラズ

今直接張家口ニ赴キタル一本邦商人ノ當時宿泊セシ問屋ナルモノニ付テ廣クニ、敷地甚タ廣クシテ四町歩内外ノ面積ヲ有シ、屋敷ノ正面ニ門アリ、門ヲ入りテ當面帳房アリ、其ノ左右前後ニ各一棟ノ建物アリテ、買客ハ其一室ヲ占有ス、而シテ尙ホ左方ニ倉庫アリ、是等建物ノ後方ハ一面ノ廣庭ニシテ、左偶ニマタ一種ノ倉庫アリ、荷物ガ此地ニ着セルトキハ正面ノ門戸ヨリ入りテ、後庭ニ出デ、コ、ニ荷物ヲ卸シテ駱駝ヲ休憩セシメ、夜間ハソノ傍ラニ臥セシメ、翌朝更ニ出門ス、而シテ荷替ヘノ必要アルトキハ、之ヲ左方ノ倉庫ニ入レ置クベク、買客ノ此處ニテ引取ルベキ品アルトキハ、受渡ヲ終ヘタル後該客ノ借り得タル倉庫中ニ貯藏ス、但シ買入ノ約ハ大抵着荷前ニ結バル、ヲ以テ、着荷ハ既ニ約定済ノモノ多ク、從テ入荷ヲ待チ買入ヲナスコトハ稀ナリ、唯ダコ、ニテ實物ニ付キ檢見スルニ過ギズト云フ

取引

上述ノ如ク、買辦又ハ羊毛商人(天津商人及ビ地方商人ヲ總稱ス此中外國商人絶無ナルニアラザレトモ小數ナリ)ハ、買手ノ位置ニ立チ、問屋、仲買人ヲ經由シテ生産者ト取引ヲナスモノニシテ、取引ハ多ク先物ノ契約ニシテ、半年乃至一ヶ年前ニ取結ブヲ通例トス、大抵契約ト共ニ、手附金ヲ與フ、媒介者ハ生産者ノ過怠ヲ監視シ、期日マデニ店舗ニ持參セシメ、兩當事者ノ間ヲ奔走シテ、双方ノ合意ヲ求メタル後、賣買ヲ完結スト云フ、而シテ問屋及ビ仲買人ノ口錢ハ、普通、賣上高ノ一分ニシテ、常ニ賣手ヨリ徴收スルモノナリト云フ、又是等買客ハ買氣ノ盛ナルカ、若シクハ

現品ノ不潤ナルトキハ、相場ノ競リ上ゲテ防止センガタメニ、或ハ連合仕入ヲナシ、或ハ入札ヲ以テ買入ヲナスコトアリト云フ

コレ等地方ニ於ケル支拂用貨幣ハ、スベテ山西省ノ通貨ニシテ、各集散地ニハ山西省ノ爲替屋入り込ミテ爲替ノ事務ヲ執リ、羊毛其他ノ輸出品ニ對スル蒙古地方全體ノ輸入品(磚茶絲布等ハ其主ナルモノナリ)ハ、ヨク貸借ノ平均ヲ保ツヲ以テ、現金ノ携帶、正金ノ輸送ノ必要ヲ見ルコトハ、甚ダ稀ナリト云フ

賣買單位ハスベテ百斤ナリ

第二節 市場取引

産地ヨリ集散地ヲ經テ、市場ニ出ヅルマデノ賣買輸送ノ狀況ヲ述ベタリ、サテ貨物ノ天津ニ着スルヤ、先ヅ落地税ヲ支拂フモノニシテ、輸出税ノ半分即チ百斤ニ付キ一匁・七五ナリ之ヲ納ムルトキハ、通口單ナルモノヲ受取り、後ニ輸出ノ時ニ際シ、該單ヲ示スコトニヨリテ、五分率ノ輸出税ヲ負フニ止マルモ、通口單ナキ場合ハ七分五厘ノ率ニテ輸出税ヲ課セラル、モノトス

市場ニハ外國ノ商人大部分ヲ占ムルト雖モ、尙ホ常ニ若干ノ支那商人アリ、蓋シ是等支那商人ト云フ中ニハ市場商人アリ、地方出廻リ商人アリ、市場商人ト雖モ、多クハ産地ノ間ニ往來シテ天津ニ店舗ヲ構ヘ居ルモノ少ナキニヨルト雖モ、前ニ述ベシガ如ク、親シク産地ニ臨ムモノノ多クハ、依然支那人ニシテ、彼等ハ三聯單ヲ借用シタルガタメニ、買入レタル着荷ハ一應ノ呈示コソスレ、必ズシモ外人ニ全部ヲ引渡スベキ義務アリ

ルニアラズ、(外人モ亦タ全部引キ) 彼等ハ適當ノ賣價ヲ定メテ外人ニ提出スルヲ以テ、外人モ亦タ其品物値段ノ都合ニヨリ、意ニ適フモノニ付テ任意ノ需要額ヲ引キ受クルヲ以テ、殘餘ハスベテ支那商人ノ手ニ歸シ、彼等ハ之ヲ保持スルコトニヨリテ市場ニ於テ主トシテ賣手ノ位置ニ立ツモノナリ、此外買辦其他ノ商人アリ、且ツ外國商人ト雖モ、手許在荷ノ都合ニヨリテハ、市場ニ散ズルコトナキニアラズ、貨物ハ是等商人ノ間ニ賣買轉々サル、モノナリト雖モ、然レトモ市場在荷ハ殆ンド全部輸出品ナルヲ以テ究極ノ買手ハ、即チ皆ナ外國商人ナルコトニ歸スベシ

取引

羊毛ノ出市期ハ、抓毛ハ六月初メヨリ二三ヶ月間、套毛ハ一二月ノ候最モ盛ナルコト前章述べタル所ノ如シ、而シテ市場ノ賣買ハ大抵仲買人(經紀)ヲ介在ス、仲買人ハ毎日市場ヲ巡視シテ、毎ニ在荷高ヲ探リ同時ニ賣買兩者ヲ求ムルモノニシテ、從テ最モヨク市況ニ精通シ、コレガ機能ニヨリテ市價ノ均衡ヲ保チ、取引ヲシテ圓滑ニ行ハシム、仲買人ハカクノ如キ樞要ノ機關ヲ成シ、市場取引ハ通例仲買人ノ媒介ヲ待ツテ常トスルヲ以テ、何レノ商人ヲ問ハズ、苟クモ市場取引ニ參與スルモノハ、カネテ仲買人ノアルモノヲ取り入レ置クベク、從テ撰定ニヨリ、仲買人ニ其人ヲ得ルコトハ頗ル緊要ノコトナリト云フ、仲買人ノ口錢ハ、賣上高ノ一分乃至二分ニシテ、常ニ賣手ヨリ之ヲ受納スル習慣ナリ

市場取引ハ、殆ンド常ニ現物買ニシテ、外人ニアリテハ買辦又ハ前記三聯單ヲ貸付セル羊毛商人ノ持參品ニ付テ、直接買入ヲナスノ外、常ニ仲買人ヲ經由スルモノナリ(向ホ外人中ニハ市場支那商人ト連號ナル關係ヲ締結シ産地買入及ビ市場取引ニ於テ相互ニ便宜ヲ謀ルモノアリ、拂底ノ際

ノ急チ救フハ勿論、苟クモ一方ノ所有ニ係ル在荷ハ他方ノ承認ヲ經ザレバ賣リ放ツコトナシト云フ、向ホ連號ニ付テハ後條附設スル所アルベシ) 此外在荷拂底、又ハ市價逆調等ノ場合先物買ヲナスノ必要ナルトキハ、仲買人ノ携帶セル見本ニヨリテ、仲買人ヲ經由スルカ、モシクハ直接ニ羊毛商又ハ買辦ニ委託シテ、買入ヲナスト云フ

尤モ先物ノ注文ハ、ソノ數量正確ニ豫定シ難キヲ以テ、單ニ概略ノ數量ヲ示スニ止メ、代金モ從テ不定ナルヲ以テ、引キ取りタル後、支拂ヲナスモ、多クハ内金ヲ貸シテ、一部ノ支拂ニ充テ置クト云フ、又現物買ニアリテハ、代金支拂ノ期ハ約定後二週間位ニシテ、大抵積出後ナリ、蓋シ約定後直チニ引渡ヲ決行スルモノニアラズ、貨物積出シノ際看買ト同時ニ引取ルモノニシテ積出マデ大抵二週日ヲ經過スレハナリ

羊毛賣買ノ慣習ハ風袋ノ引目ナク、スベテ掛百斤ヲ以テ價ヲ定ムルモノアリ、羊毛市場ニハ單ニ、前記仲買人ガ需給ノ連鎖ヲナスノミニシテ、特ニ相場ヲ定ムル機關ナシト雖モ、左ニ最近ニ於ケル概略ノ市價ヲ掲ゲンニ

- 套毛 二十三、乃至二十四兩
- 抓毛 二十三、 二十五兩
- 散抓毛 二十二、 二十三兩
- 寒羊毛 二十四、 二十五兩
- 羊羔毛 十五、 十八兩

尙ホ當時目撃シタル三四ノ現品ニ付キ、其相場ヲ例示スルキハ
(商品陳列所ニアリ就テ見ラルベシ)

西路、大片套毛	二十三兩 (砂落ノ値段)
錦州、套毛(東蒙古産)	二十一兩 //
西路、散套毛	二十兩 //
包字、大爪毛(西路)	二十四兩 //
直隸小爪毛	二十三兩 //
山西、散抓毛	二十三兩 //
山東、寒羊毛	三十兩 //
直隸、	二十四兩 //
直隸、羊羔毛	十六兩 //

以上ハ特定現物相場ナレバ平均相場ト合致セザル所アルナルベシ

近年羊毛ノ市價ガ、漸次上向キナルハ需要ノ増加ニヨルベシト雖モ、昨三十七年ノ如キハ例外ナリトス
 倉庫ハ各自持チナラザルベカラズ蓋シ特定ノ倉庫業者ナルモノナク一々他人ノ倉庫ニ預ケ入ル、如キハ極
 メテ不策ナレバナリサレバ一廉ノ羊毛取引商人トシテ倉庫ヲ所有セザルモノナシ
 市場最近ノ在荷ハ即チ左ノ如シ

抓毛	二千担 (一担ハ百斤)
套毛	拂底

散抓毛	二千担
寒羊毛	六百担
雜毛	一千担

ノ概算ナリ、套毛ノ拂底セルハ、套毛ノ出市期ガ毎年年初メニアリテ、當時既ニ遠ク其季節ヲ過ギタレバナ
 リ

次ニ天津市場ニ於ケル外國商人ノ主ナルモノヲ擧ゲレバ左ノ如シ

(商 號)	(原 號)	(國 籍)
瑞 記	Jui-chi	獨 乙
隆 昌	Luang-chang	羅 國
良濟公司	Leung-chai-Kung-sze	白 耳 義
禮 和	Lee-ko	獨 乙
高 林	Kao-lin	英 國
順 發	Shun-fat	獨 乙
仁 記	Jin-chee	英 國
興 隆	Shing-long	獨 乙
明 義	Ming-i	英 國
	Iees & Co	英 國
	Arnhold Karberg & Co	獨 乙
	Batonief & Co	羅 國
	Belgian Trading Company Ltd	白 耳 義
	Carlowitz & Co	獨 乙
	Collins & Co	英 國
	Faust & Co	獨 乙
	Forbes & Co	英 國
	Gipprech & Co	獨 乙
	Iees & Co	英 國

世昌	Shih-chang	Meyer & Co	獨	乙
德義	Te-ye	Walte & Co	獨	乙
新泰興	Hsin-ta-lsing	Wilson & Co	英	國
平和	Bing-oo	Liddell & Co	英	國
輝臣	Zay-zung	Sienssen & Co	獨	乙
大倉洋行	Ta-tsang-yang-hang	大倉組	日	本
三井洋行	San-ching-yang-hang	三井物産合名會社	日	本
日本毛織公司	Jih-pan-mao-chih kung ssu	日本毛織會社	日	本
武齊洋行	Wu-chi-yang-hang	武內商會	日	本

等トス
 尤モ此等外人ハ羊毛ノミヲ取扱フ商人ニアラズ、重要ナル輸出輸入貨物ニ付キ、營業セルモノニシテ、從テ
 コレ等支那北部地方ノ貿易ニ關與セルモノハ、獨逸英國人ニ多キコトヲ知ル可シ
 上記外人中、最モ大ナルハ仁記ニシテ新泰興之ニ次グ、二者何レモ古ク光緒元年ノ頃ノ設立ニ係ルモノニシ
 テ、集散地ニ各自ノ出張所ヲ設クト云フ、日本人ハ現今上記ノ四者ヲ算ス、何レモ大ナル取引ヲナスモノ
 ニシテ、コレヲ日本ノ諸毛織會社ニ供給ス、(一昨年ノ如キ四者買入品總計 四百萬斤ヲ超過セリト云フ)ソレゾレ特定セル仕送り先キヲ有シ、
 各自相異ナルヲ以テ、四會社間別ニ競爭反目ヲ演ズルコトナシト云フ

更ニ買辦及ビ連號ニ付テ一言ヲ附シ以テ此章ヲ終ラン

買辦

買辦トハ、外人ニ隨伴セル特種ノ商人ニシテ、一人ノ買辦ハ、常ニ一人ノ外人ニ專屬シ、產地ト市場トニ論
 ナク、外人ノタメニ責任ヲ負ヒテ、賣買代辦ノ衝ニ當リ、常ニ保證ノ位置ニ立ツモノナリ、然レドモ買辦ノ
 關與スル範圍ハ輸出物タルト輸入物タルヲ論ゼズ、汎ク、外人ノ取扱ヘル一般商品ナルヲ以テ、殊ニ羊毛ノ
 ミヲ專業トセルモノニアラズ、從テ直接產地ノ賣買ニ手ヲ下スコト少ナクシテ、多クハ別人ヲ派シテ處理セ
 シムト云フ、而シテ一方外人ト此關係ヲ維持シナガラ、他方ニマタ獨立シテ同種ノ業目ニ從事シ、外人ノ委
 托ヲ受クル傍ラ、自ラモ亦自家ノ行動ヲ執ルモノニシテ、ソノ何レノ勘定タルヲ問ハズ、買辦ハ隨時ニ外
 人ヨリ無利息ヲ以テ所要資金ノ供給ヲ受ケ得ルモノトス、コレ即チ買辦ガ受クベキ代辦ノ報酬ニシテ、普通
 ノ場合、公然口錢ト稱スルガ如キモノアルコトナシ、然リト雖モ苟クモ買辦ガ外人ト離レテ行動スルコトヲ
 得ル以上ハ、又タ外人ニ對シテ獨立ノ態度ヲ執ルコトアルヲ妨ゲズ、ソノ產地ヨリ買入レタル品物モ、一旦
 外人ヲ過ギリテ自己ノ手ニ歸シタルモノハ、爾後自己ノ商品トシテ保持スベク、或ハ又タ其外人ノ委託ニヨ
 ル買付商品スラ、時ニ幾分ノ利喰ヲ試ミルコトナキニアラズト雖モ、之ニ代フルニ、持チ歸リタル品物が市
 場相場ノ不調ニヨリ、一文ノ利喰ヲ生ジ得ザル場合ハ勿論、假令損失ヲ敢テシテモ尙ホ潔ヨク外人ニ引渡ヲ
 決行スト云フ、例ヘバ買辦ガ外人ノ委託ヲ受ケテ產地ノ買入ニ着手シ、四千斤ノ羊毛ヲ一千兩ニテ仕入レタ
 ルニ、偶々天津市場ノ相場ニテ千兩モシクハ千兩以下ナル時、例ヘバ九百五十兩ナル場合ハ、其差額ニヨリ

五十兩ノ損失ヲ蒙ルベキニモ係ハラズ、ナルベク相場ニ近キ價ヲ以テ之ヲ外人ニ引渡スガ如シ、又買辦ハ集散地ニ向フコト少ナク、自ラハ主トシテ市場ニ活動スルモノニシテ、市場取引ニ於テ仲買人ノ介在スル時ト雖モ、外人ハ更ニ尙ホ買辦ヲ加ヘテ保證ノ位置ニ立タシムルヲ普通トス、要之市場商人ノ大多數ハ皆此買辦ヲ用井、其如何ナル場合ヲ問ハズ、買辦ノ望ミニ應ジテ資金ヲ貸付シ、殆ンド一切ノ業務ヲ擧ケテ、彼ヲシテ折衝ノ任ニ當ラシムルモノニシテ、此意味ニ於テ買辦ハ一種ノ番頭ナリト云フヲ得ベシ、次ニ述ブル所ノ連號ノ如キモ、此買辦ヲ待テ締結セラルル場合甚ダ多シ、サレバ買辦ニ其人ヲ得ルト否トハ結果ニ多大ノ經庭ヲ生ズベク、外人ニシテ買辦ノ撰擇ヲ誤リタルガタメニ、悲運ニ會セシモノナキニアラズ。

連號

連號ハ連合ニアラズシテ、アル意味ニ於ケル合致ニ該當ス、例セバ三菱銀行ト三菱造船所トノ關係、三井銀行ト三井物産會社トノ關係ノ如ク、何レモ別個ノ事業ニ着手シ、各別ノ商號ヲ用井、相異ナレル勘定ヲ開クモ、其資本ノ根源即チ資本主バ一ニシテ、一方ノ損益ハ間接ニ他方ノ榮衰ニ影響ヲ及ボスベシ、此實例ヲ以テ茲ニ所謂連號ナルモノヲ解釋スルトキハ、推知ノ正鵠ヲ得ルニ容易ナルベシ、コレガ故ニ假ニ一例ヲ以テ示サバ、天津東門内ニ王ナルモノアリ、其資本ヲ以テ德信厚ナル錢舖ト、合信ナル洋貨舖ト及ビ源永茂ナル染坊ヲ開クトセヨ、此等三種ノ店舗ハ、各其事業ヲ異ニシ、且ツ各自ノ勘定ヲ以テ營業スルモ、其中何レカ一舖(德信厚錢舖トス)ノ倒産スルトキハ、餘波ハ忽チ延イテ他ノ二舖ニ及ビ、合信洋貨舖、源永茂染坊ノ共倒レヲ見ル場合、其實例ニ乏シカラズ、蓋シコレ等資元ガムベテ共並資本主王氏ノ有ニ歸スレバナリ、換言スレバ、三

舖ハ連號ノ關係ヲ有スレバナリ、尤モ時ニ悉ク破産セザル場合アリ、嘗テ上述ノ如キ三舖アリ、ソノ二舖ノ悲運ニ陥レルニ係ハラズ、他ノ一舖ハ幸ヒニシテ存命ヲ全ウシ得タリト云フ、コレ但シ異例ノ事實ニシテ、其一舖ノ舖主ノ敏腕ニヨルモノト解スルノ外ナシ、概言スレバ一人モシクハ數人ヨリ成レル一資本團ノモトニ、各自ノ勘定ヲ設クル營業ヲ開クトキハ其各舖間ノ關係ヲ連號ト云フ

コレ連號ノ原理ニシテ、外人清人間ノ連號モ亦タ理ニ於テハ一ナリト雖モコレガ應用ニ外ナラザルヲ以テ、自カラ其解釋ニ異同ヲ來タス、蓋シ此場合ニアリテハ外商清商ト稱スル本來二個ノ異體ノ存在セルコトヲ前提トスルヲ以テ、資本主ガ必ズ二人ニ限り、營業者(二商)ハ即チ資本主トシテ、常ニ營業者ノ存在ヲ前キニシテ、然ル後資本團ノ構成ヲ見ルモノナリ、既ニ此ノ順序ヲ以テ組成サル、ガ故ニ、此連號ニアリテハ、其本旨トスル所ガ、醸出セル資本團ニ付キテ兩者同體ノ關係ヲ有シ、行動利害ヲ共ニスルニアルベク、從テ二人全部ノ合致ニアラザル限りハ、其以外ニ於テ依然別個ノ二商人タリ

外人ハカチテ買辦ヲ使用シ、而シテ此連號ノ關係ハ大抵買辦ガ、清商ノ掌櫃(頭)ト直接ニ取結ブモノニシテ、其他スベテノ交渉ハ此兩者ノ間ニ開カレ、以テ外人清人間ノ關係ニ及ブモノナリトス、買辦ト掌櫃的トノ間ニ締結セラルベキ連號ノ約定ハ、或ハ契約書ヲ取り交ハスコトアリ、或ハ單ニ口頭ニ止ムルコトアリ、何レニセヨ双方ノ出資額ハ初メヨリ一定セルモノニアラズ、用アルニ際シテ其都度適宜ノ投資ヲナスモノニシテ、從テ一方ノ失敗ニヨリ蒙ルベキ他方ノ損害ハ、出資ノ既定負擔額ニ止マルノ理ナルヲ以テ、双倒レノ場合ハ稀ナリ、尤モ契約ニヨリテ特ニ相互ニ無限ノ責任ヲ負フトキハ此限りニアラズ、其出資ノ割合モ場合

ニヨリテ或ハ平分ナルコトアリ、三分ナルコトアリ、或ハ兩者ノ合意ニヨリ全ク一方ノ資金ノミナルコトアリ、其交接頗ル圓滑ニシテ、買辦掌櫃的ノ間ニハ匿名組合ノ如キモノ亦々盛ニ行ハル、ヲ見ル、清人ノ信用ノ旺ンナルコト見ル者ヲシテ誠ニ快哉ヲ呼バシム、而シテカクノ如ク連號ハ多ク間接ニ彼我商人ノ間ニ結バル、モノニシテ、之ヲ外人ヨリ見レバ、買辦ノ手腕ニ待ツ所甚ダ多シト雖モ、マタ先方ガ外人ノ信用ヲ認ムルニ非ザレバ、買辦ノ巧ミヲ以テスルモ容易ニ首肯セサルベク、若シ外人ニシテ一旦商人ノ信用ヲ得ルトキハ、此方法ヲ利用シテ清人ノ誠實ナル幫助協力ノモトニ、取引上ノ利便ヲ受クルハ勿論、資金ヲ動かスコト少ナクシテ、ヨク取引場裡ニ活躍スルコトヲ得ベク、時トシテハ些ノ資金ヲ要セズシテ、巨額ノ取引ヲナシ得ルコトアリ、此信用ヲ得ルノ一事ハ蓋シ清國經營ノ主眼ナル要素ニシテ、亦々頗ル困難ナルコトナリトス、近年邦人ガ頻リニ日清兩國民ノ資本合同ヲ説クモノアルモ、如何ニシテ之ヲ遂行スベキヤニ論及セルモノナシ、假令巨萬ノ富ヲ擁スルモ、清人ハ容易ニ外人ト合同ヲ希フモノニアラズ、身薄資ヲ帶ブト雖モ、清人ノ確信ヲ得バ足ランノミ、要スルニ資本ノ合同ハ第二ノ問題ニシテ、清人トノ提携ヲ説カンモノハ、須カラク先ヅ清人信用ノ制ニ付テ研究スルヲ要ス、思フニ清國由來官邊ノ保護及ビ警察ノ制度ヲ欠ギ、スベテ民事上ノ争ヒニ付テ個人ノ權利ヲ主張スルニ由ナク、從テ商人ハ將來ノ安全ヲ、自己ノ明ニ待ツノ外ナク、周到ナル注意ヲ以テ常ニ相手方ニ臨ムガ故ニ、一方ニハ容易ニ他人ト與セザルト同時ニ、他方ニハ一旦彼ノ信用ヲ確メタル以上、些ノ猜疑心ヲ挾マズシテ赤心ヲ人ノ腹中ニ措ク、其信頼ノ度ノ鞏固ナルコト、他ニ比類ナシト云フ

連號ノ効果ハ一方、相互ニ資金ヲ融通シテ、他方ニハ場裡活躍ノ援助ヲ授受シ、相倚テ一致ノ行動ヲ執ルコトニヨリ、個々得易カラザル幾多ノ便益ヲ捕捉スルニアルコト、前述ノ如シ、今一例ヲ產地買入品ニ付テ説カンカ、玆ニ外人興隆洋行ナルモノアリ、買辦王氏ヲ聘シ、清商德盛公ナルモノアリ、其掌櫃的ヲ李ト云フ、今德盛公ガ荷物ヲ產地ヨリ買入レタルトキ、假令其品ガ興隆洋行ノ三聯單ニヨリタルモノニ非ザルトキト雖モ、李ハ好意上、王ニ向テ着荷ノ通知ヲ與ヘ、他ノ外人某ガ該品ノ買受ケヲ甲込ムトキハ、李ハ更ニ王ニ向テ一應ノ問合セテ經タル後、之ヲ賣リ放ツト云フ、又、興隆洋行ガ其三聯單ヲ德盛公ノ外天津商人劉氏及ビ地方商人張氏ニ貸シタルトキハ、彼等ノ仕入レ歸レル荷物ハ、スベテ先ヅ該洋行ノ手許ニ達ス、洋行ハ此際隨意ニ所要額ヲ引取り得ルモノニシテ、事情ノ許ス限リハ、連號德盛公ノ荷物ヲ買取ルニカムルコト、又理ノ當然ナリ

第六章 輸出

天津市場ニ出ヅル羊毛ハ、其一部分ガ内地ニ散ズルニ過ギズシテ、全量ノ八十乃至九十「パーセント」ハ海外ニ輸出サルト云フ

輸出セントスル荷物ハ、先ヅ内地輸送ノ荷造ヲ解キ、品質ヲ檢タメ、雜物ヲ去リタル後、之ヲ壓搾シテ荷造ヲ施スモノナリ、其順序ヲ概説スレバ、買ヒ取りタル羊毛ハ、先ヅ人夫ヲ備ヒ來タリテ解俵シ、一々在品ヲ取り出シテ取捨撰擇ヲ行ナヒ、例ヘバ瓜子毛ニアリテハ、ソノ個々ノ玉ヲ取り、兩手ヲ以テ少シク之ヲ裂開

シ、綿ノ如ク柔ラカクシテ手ザワリヨク、纖維ノ綿密ニシテ玉ノ脆カラザルモノハスベテ合格品トシテ之ヲ集積ス、苦力一人一日ノ開俵數十余ニシテ、三十錢内外ノ賃銀ナリト云フ、次ニ其撰出シタル合格品ニ付テ、土砂ヲ初メ其他ノ雜物ヲ除去ス、之ヲ砂落シ (Willowing) ト云フ、然ル後器械力ニヨリ堅ク之ヲ壓縮シテ、荷造ヲ施ス、何レモ器械ヲ用キ、大ナル建築ヲ要スルヲ以テ、大ナル商人(スベテ外人ニシテ仁配チ初メ其他六七アリ)ノ外ハ、之ヲ具ヘズ、何レモ此等所有商人ニ托シテ、荷造砂落シヲ行フト云フ、砂落料、荷造料ハ百斤ニ付キ各々銀六匁ニシテ、商習慣トシテ双方五「ばーせん」とノ割引ヲナスト云フ

砂落シ機機 (Willowing machine)

砂落シ器械ハ高サ六呎、長サ五呎幅三呎許リノ大ナル箱ヲ備ヘ付ケ、其中ニ轉子及ビ廻扇アリ、轉子ノ面上ニハ幾多ノ針ヲ羅列シテ櫛ノ用ヲナシ、羊毛ヲ箱中ニ送り入ル、トキハ、此櫛ニヨリテ充分ニ解舒セラレ、砂土其他ノ重キ雜物ヲ落下シテ、箱底ニ堆積セシメ、雜毛其他ノ輕キ砂塵ハ上部ノ廻轉セル扇ニヨリテ煽リ上ゲラレ、圓筒ヲ通ジテ飛昇シ去ル、サテ轉子ノ面上ニ止マレル羊毛ハ、他ノ櫛ニヨリテ抓キ取ラレ、之ヲ取出シテ傍ラノ網臺ニ移シ、コ、ニテ更ニ附着セル小砂ヲ振ヒ落シテ終ル、コノ裝置ニヨルトキハ、殆ンド全部ノ砂土ヲ除去シ得ルモ、良毛ヲ切斷シ、輕毛ヲ喪失スルノ虞レ多キヲ以テ、日本商人ハ此器械ニヨラズサキニ解俵ノ際、撰品ト同時ニ、人力ヲ以テ(例ヘバ天日ニ乾カシテ鐵網モシクハ竹格子ノ上ニテ打ツコトニヨリテ)排除スルニ止メ、直チニ荷造シテ積ミ出スト云フ、蓋シ羊毛ノ運賃ハ重量ニヨリテ算セザレバ、多少ノ砂ヲ殘留スルモ、左程ノ差支ヘナカルベシ

荷造器械 (Pressing machine)

荷造器械即チ壓搾器械ハ、二階ノ建築ヲ要シ、上樓ハ平地ニ連ナリ、下樓ハ即チ地下ニアリ、蓋シ荷造ヲ上樓ニ於テスルハ、運搬ノ利便ニ基ケルナルベシ、上樓ノ床上ニハ、高サ九呎許リノ鐵製ノ圓筒アリ、内部ニ約二呎方形ノ空孔ヲ有ス、下樓ヨリ立テル鐵棒上ニ偏立シ、人力ニヨリテ自由ニ廻轉シ得ベシ、其廻轉範圍内、右方床上ニ一個ノ穴ヲ穿チ、又左方ノ床上ニモ同様、二三ノ穿ヲ設ク、何レモ約二呎角ナリ、壓縮セントスル羊毛ハ、先ヅ此穿中ニ滿タシ、(羊毛ノ穿ロマテ連セルトキ、人入リテ足ニテ踏ミ充分ニ詰メ込ム)圓筒ヲ廻轉シテ、此穿上ニ齎ラシ、器械ニヨリテ穿内ノ羊毛ヲ圓筒中ニ押し上げ、終ルヲ待チテ蓋ヲ施シ、(上下ノ蓋トモ、切面鋸齒狀ナリ)之ヲ右方ノ床穴ノ上ニ廻轉シ、穴中ニ立テル鐵棒ヲ以テ、上方ニ向テ、圓筒内ノ羊毛ヲ壓搾スルナリ、而シテ此働作ノ間ニ他ノ穿中ニモ羊毛ヲ詰メ置キ、間斷ナクコノ順序ヲ反覆スルモノナリ、サテ圓筒内ニ壓縮セラレタル羊毛ハ、筒長ノ半バ以上ニ壓縮シ、コ、ニ兩側ノ筒壁ヲ開キテ、麻切レヲ當テ、其上ヲ鐵稿ヲ以テ、縦ニ五六回巻キ、人力ニテ締メタルマ、下方ノ壓搾棒ヲ撤回スルトキハ、羊毛ハ膨脹シテ鐵稿ハ固ク緊マルベシ、然ル後之ヲ取り下ロシテ、他ノ兩側ニ麻切レヲアテ、大針ニテ縫ヒ閉サシ、コ、ニ荷造ヲ終ルモノナリ、要スルニ荷造ノ主眼ハ、壓搾シテ容積ヲシテ成ルベク小ナラシムルニアリ、コレ羊毛ノ運賃ハ容積ニヨリテ算セラル、ヲ以テナリ、即チ八呎餘ノ高サニ積ミタルモノガ壓搾ニヨリテ三呎二吋位ニ減縮スルヲ見ル、其幅ハ一呎八吋ニシテ厚サ一呎七吋ナリ、サレバ四個ニテ約一噸ノ割合ナルベシ

入目ハ一定セザレドモ、通例五百二十磅内外トス

荷造ハ大抵積出ノ三四日前ニ於テ之ヲナス、サレバ荷造機ヲ有セザル輸出商人ハ倉庫ノ必要少ナシ、何ントナレハ買約ノ品物ハ積出前三四日內ニ引取り、荷造屋ニ託シテ直チニ積ミ出スヲ以テナリ

輸出ハスベテ英祖界ノ埠頭ヨリス、苦力ノ運ビ賃一俵ニ付銀一匁ナリ、解ハ太沽ニ出デ、本船ニ移スモノトス、但シ解ニ積ミ入レタルトキヲ以テ、積出ト見做シ、同時ニ船荷證券ヲ發行スト云フ

輸出税ハ百斤ニ付キ銀三匁五分ナリトス、蓋シ輸出羊毛ノ税關ニ於ケル評價(之ヲ估價ト云フ)ハ、ソノ種類ノ如何ヲ問ハズ、スベテ七兩ナリ、コレ舊時ノ相場ヲ今日マデ其儘ニ採用セルモノニシテ、羊毛ノ輸出税率ハ從價五分ナルヲ以テ、税額ハ銀三匁五分ナリ、外ニ白河修河税トシテ輸出税ノ百分ノ三ヲ課セラル、但シコ、ニ謂フ兩ハ海關兩ニシテ即チ關平ト稱スル秤ヲ用フルモノナルヲ以テ、彼ノ天津市場ニ一般ニ用井ラル、所ノ行平ト異ナルナリ、行平ト關平ノ兩秤ノ比ハ 100:103 ニシテ百海關兩即チ、百零五行平兩ノ割合ナリ、サレバ今百斤ノ貨物ニ付キ算スルトキハ、輸出税三匁五分ニシテ、白河修河税ハ $0.35 \times 3\% = 0.0105$ ナリサレバ此兩税ヲ合スルトキハ海關兩 0.3605 ニシテ行平ニ換算シテ 0.3783 トナル

保險料ハ 1% ニテ百圓ニ付キ五十錢位ナリ

運賃ハ白河解賃ヲ含ミ神戸マデ一噸(容)八圓ナルヲ以テ、重量百斤ニ付キ五十錢余ニ當リ、横濱マデハ六十錢餘ノ割合ナリト云フ

今百斤ニ付キ諸經費ヲ合算スレバ、大凡左ノ如シ

表 四

金額

荷造費	71.06
保險料電報料人足賃等	0.2
輸出税修河税	0.378
運賃(神戸マデ)	0.5
計	71.17内外

通例ニハ 値段ヲ以テ算ス爲替ハ多ク上海ヲ中心トシ、手形ハ大抵 80% ナリ、最近ノ爲替相場百圓ニ付キ七十二兩五内外ナリト云フ

明治三十九年七月三十一日印刷
明治三十九年八月六日發行

東京高等商業學校

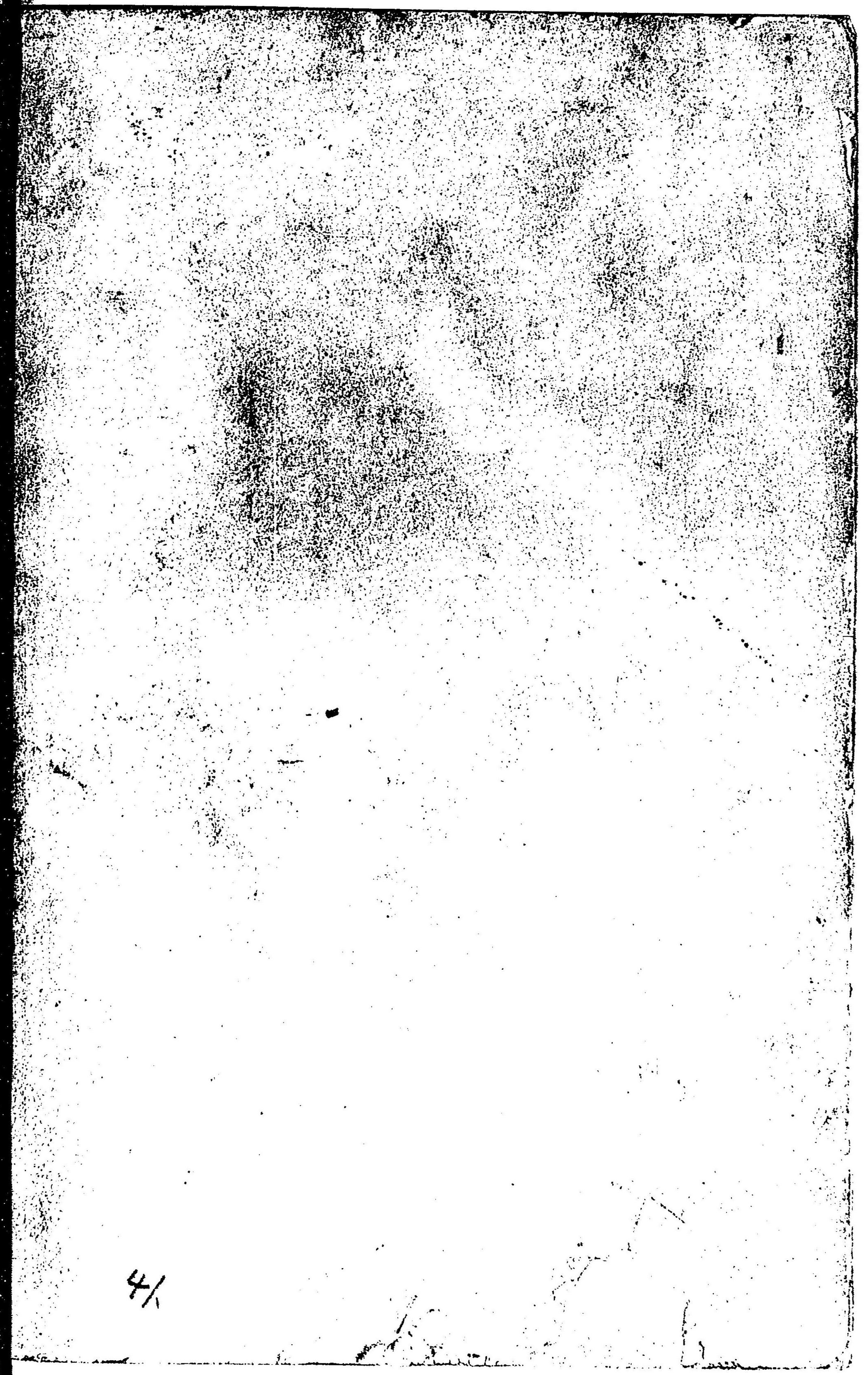
東京市京橋區瀧山町六七番地

印刷人 小川 邦 孝

東京市京橋區瀧山町六七番地

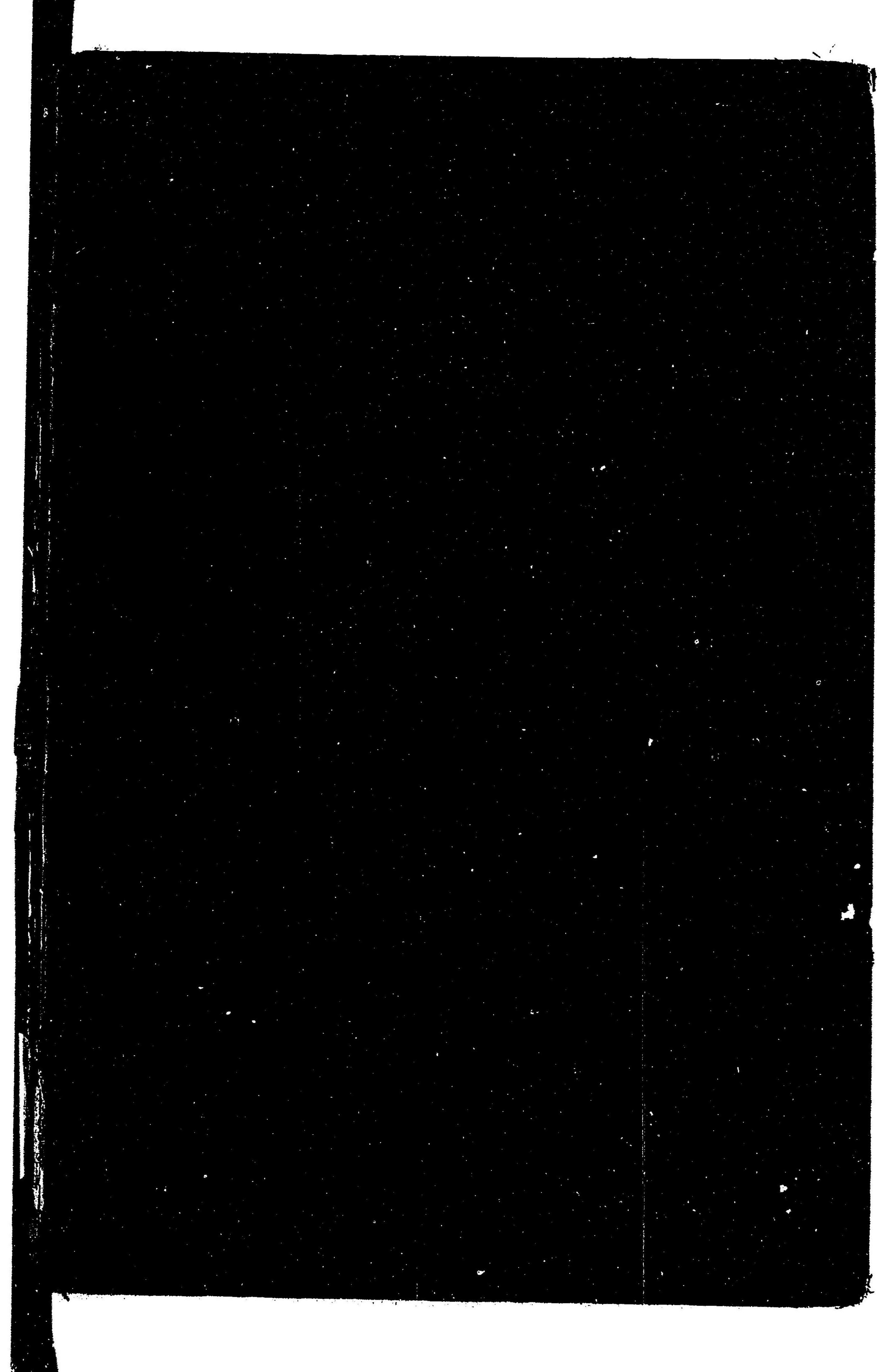
印刷所 東京製本合資會社

電話新橋(七九五番)
三三四二番



41

33
5/6



33
516

044374-000-6

33-516

北海道輸出昆布調査報告書 支那輸出羊毛調査報告書

東京高等商業学校

M39

BDN-0446



3
5

